

ル王ノ親ク國事ヲ處分スルノ場所若クハ都會ニ居ル我等ノ兄弟及ヒ同主教ニ
 順當ニ書スベシ。若シ主教ニシテ王宮ニ友人アリ何事カ至當ノ事ヲ請願セント
 欲スルキハ己ノ輔祭ヲ以テ之ニ其請願ニ對シ善キ幫助ヲ予ヘンコトヲ請願囑
 託スルヲ妨ケズ。羅馬ニ至ル者ハ予ノ前ニ陳述セシ如ク王ニ提出セントスルノ
 願書ヲ我等ノ愛スル兄弟及ヒ同主教ユリイニ提出シ彼レ先ツ其中ニ無禮ノ事
 ナキヤ否ヲ審査シ而シテ後己ノ紹介及ヒ注意ヲ添ヘテ陣營ニ之ヲ送達スベシ
 諸主教答ヘテ曰ク此事意ニ適シ且ツ此忠告甚至當ナリ。

第十條 凡ソ富者若クハ碩學ノ士ニシテ俗務ヨリ舉ケラレテ主教ニ任定セラレ
 タル者ハ誦經者輔祭及ヒ司祭ノ務メヲ行フノ後ニ非ザレバ之ヲ立ツベカラズ
 是レ各職位ヲ經歷シツ、適任ト認メラル、ニ於テハ主教職ノ高位ニ登ルヲ得
 セシメンガ爲メナリ。而シテ各職位ノ爲ニ少ナカラザルノ時間ヲ定メ其間ニ彼
 レノ信仰善行堅忍温良ヲ試ミ其ノ果シテ神聖ノ神品職ニ適スルヲ確認セラル
 ルニ及ンデ至大ノ名譽ヲ受ケシムベキハ勿論ナリ。蓋シ遠カニ或ハ主教或ハ司
 祭或ハ輔祭ヲ立ツルコトニ卒爾輕忽ニシテ着手スルハ當ヲ得タルモノニ非ズ

知識モ將タ行爲モ之ニ權利ヲ予ヘザルナリ。蓋シ此ノ如キ人ハ之ヲ最新タナル
 人(三提摩太前書六節)及ヒ堅固ナラサル者ト稱スルコト當然ナリ矧ンヤ異邦人ノ師タ
 ル至福ナル使徒スラ教會ノ位ニ遠カニ人ヲ登庸スルコトヲ禁スルニ於テヤ
 是レ久シキ間試ムルキハ確實ニ各人ノ行爲習慣ヲ知悉スルヲ得ルガ故ナリ。衆
 皆曰ク此事意ニ適スルヲ以テ向後之ヲ破ルベカラズ。

第十一條 主教ハ自己ノ名譽又ハ奉神禮ノ執行ヲ嚴カニスルヲ勉メントシ虛榮
 ノ爲ニ甲市ヨリ乙市ニ又ハ甲州ヨリ乙州ニ往キ久ク彼處ニ滞在セント欲シ而
 シテ該市ノ主教ノ教誨ニ巧ミナラザルニ乘ジ之ヲ輕蔑シ屢説教シ以テ當所ノ
 主教ノ面目ヲ辱カシメ之ヲ凌蔑スルコトヲ爲スヘカラズ。何トナレバ此事タル
 常ニ紛擾ヲ醸スモノニシテ主教ハ此ノ如キ狡計ヲ以テ他人ノ寶座ヲ僭有簒奪
 シ己レニ托セラレタルノ教會ヲ棄テ、他ニ移ルニ躊躇セザレバナリ。故ニ之ガ
 爲メ一定ノ期限ヲ定メサルベカラズ。蓋シ主教ヲ受ケザルハ亦是レ不人情且ツ
 殘酷ノ事ナレバナリ。之ニ就テ會テ我等ノ諸父ガ制定セシ事ヲ記憶スベシ曰ク
 俗人若シ市内ニ在リテ三週間三日曜日共ニ集會ニ來ラザレバ教會ノ親與ヲ絶

タルベシト。若シ夫レ是ノ如ク俗人ニ關シテ制定セラレタリトセンニハ主教タル者毫モ緊切ノ要務若クハ至難ノ事故アルニ非ズシテ久ク己ノ教會ヲ棄テ己レニ托セラレタルノ人民ヲ憂悲セシムルハ不當不利益ノ事タリ。諸主教曰ク此說亦最モ適當ナリ。

第十二條 兄弟及ヒ同主教ノ中或者ハ其ノ主教ニ立テラレタルノ市府ニ於テ彼ニ屬スル所有物甚タ少ナク而シテ他處ニ於テハ收得多クシテ貧者ヲ助クルノ餘裕アルコトアリ。予思フニ彼等ニシテ若シ己ノ管轄地ニ往キ果實ヲ收獲セント欲セバ彼等三日曜日即チ三週間己ノ管轄地ニ居リ而シテ司祭ノ奉神禮ヲ執行スル最近ノ聖堂ニ臨席奉事シ以テ教會ノ奉神禮ニ與カラザル者ト爲ラズ且ツ主教ノ居ル所ノ市府ニ屢、往クヘカラサルヲ戒メテ之ヲ許スベシ。蓋シ斯クスルキハ彼等ノ不在ニ由リテ彼等自己ノ業務ニモ毫モ損害ヲ來タサズ且ツ公然傲慢ニシテ虛榮ヲ求ムルトノ嫌疑ヲ避クルヲ得レバナリ。諸主教皆曰ク此制定モ亦衆意ニ適ス。

第十三條 主教オシイ曰ク輔祭或ハ司祭或ハ教役者中ノ者ニシテ教會ノ親與ヲ

絶タル、コトアリ而シテ彼若シ己ノ知己ニシテ且ツ其ノ己レガ主教ニテ親與ヲ絶タレタル事ヲモ知ル他ノ主教ニ就クトキハ之ニ親與ヲ予ヘテ其ノ主教及ビ己ノ兄弟ヲ侮辱スベカラズ。若シ敢テ之ヲ爲ス者アラバ諸主教ノ集會スル時之ニ對シテ自ラ辨解スルノ責ヲ負フニ至ルト知ルベシ。

第十四條 主教ニシテ激怒ノ僻アル者(斯カル人ニ固ヨリ此僻アルベカラズ)俄ニ司祭或ハ輔祭ニ對シテ激怒シ或者ヲ教會ヨリ斥ゾケント欲スルコトアラバ宜ク預防ヲ用ヒ此ノ如キ人ヲ突然罪定シテ親與ヲ絶ツガ如キ事ヲ爲スベカラズ。諸主教曰ク斥ケラレタル者ハ該州ノ首府ノ主教ニ依頼スルノ權利ヲ有スベシ。若シ首府ノ主教當所ニ居ラザルトキハ近隣ノ主教ニ就キ慎重ニ事實ヲ審査セシコトヲ請フベシ。蓋シ請フ者ニハ須ク耳ヲ塞クベカラズ。而シテ正當若クハ不正ニシテ此ノ如キ者ヲ斥ゾケタルノ主教ハ事實審査ノ上己ノ宣告ノ確定セラレ、カ將タ變更セラル、カヲ快ク忍ハザルベカラズ。然レモ慎重正確ニ悉クノ事情ヲ審査セラル、ニ先ダチ事實調査前ニ親與ヲ絶タレタル者ハ自ラ親與ヲ得シコトヲ求ムベカラズ。若シ教役者中ノ者相共ニ彼レノ權ヲ蔑如シ且ツ傲慢

ナルヲ認めバ(侮辱若クハ不正ノ誹謗ヲ爲サシムベカラザルガ故稍嚴且ツ酷ナル言ヲ以テ彼ヲシテ順序ニ返ラシメ至當ノ事ヲ命スル者ニ對シテ從順ヲ守ラシムベシ蓋シ主教ハ配下ノ者ニ誠實ノ相愛懇切ヲ垂ル、ノ義務アルト均ク之ニ事フル者モ亦主教ニ對シテ誠實ニ事フルノ義務ヲ盡サマルベカラズ。

第十五條 若シ主教ハ他州ヨリ來レル教會ノ他ノ役者ヲ其主教ノ意ニ依ラズシテ何等カノ位ニ立テント欲セバ此ノ如キ叙任ハ無効且不确定ノモノタルベシ若シ恣ニ之ヲ行フ者アラバ兄弟及ヒ同主教輩之ニ諭シテ改メシムベシ衆皆曰ク此制定モ確乎不易タルベシ。

第十六條 主教アエテイ曰クフサロニカ州ノ首府ノ現状ト其廣漠ナルコトハ汝等ノ知ル所ナリ司祭及ヒ輔祭ハ屢他ノ教區ヨリ該府ニ至リ暫時ノ滞在ヲ以テ満足セズ止マリテ茲ニ常住シ或ハ甚タ久キ時ヲ經タル後強テ己ノ教會ニ還サル、ニ至ル者アリ故ニ此事ニ就テモ制定スル所無カルヘカラズト主教オシイ曰ク主教ニ關シテ議定セラレタルノ制規ハ此人々ニ對シテモ亦守ラルベシ。

第十七條 若シ主教壓制ヲ蒙リ不正ニシテ除黜セラレ又ハ己ノ博識ノ爲メ或ハ

公教會ノ信認ノ爲メ或ハ眞理ヲ守護シ自ラ辜ナクシテ罪ニ擬定セラレタルヨリ危キヲ避ケテ他ノ市府ニ來ル時ハ其ノ返ルマデ若クハ之ニ加ヘラレタルノ侮辱ヲ救脱スルノ方法ヲ發見スルヲ得ルニ至ルマデ該市府ニ止マルヲ妨クベカラザル事ト議定セリ蓋シ不法ノ窘逐ニ遭フ者ヲ受ケザルハ殘忍且ツ甚タ苛酷ノ所爲ナルヲ以テ特別ノ懇切及ヒ友愛ノ情ヲ以テ此ノ如キ人ヲ受ケサルベカラズ。

第十八條 主教ガウデンテイ曰ク兄弟アエテイヨ汝ガ主教ニ立テラレタル時極メテ平和ナリシハ汝ノ知ル所ナリ教會ノ役者ニ關シテ聊カニテモ紛議ノ跡ヲ遺サハランガ爲メムーセイ及ヒエウテヒアンノ立テタル所ノ者ニハ何ノ罪ヲモ發見セザルニ由リ悉ク之ヲ受クルハ可ナリト思惟ス。

主教オシイ曰ク予ノ意見ハ左ノ如シ我等ハ須ク平和忍耐ヲ旨トシ衆人ニ充分ノ慈憐ヲ垂ルベキニ由リ我等ノ或ル兄弟等ニテ一タビ教會ノ役者ニ登庸セラレタル者ハ其ノ任命セラレタルノ教會ニ返ルヲ欲セザル時ニ於テノミ之ヲ受クベカラズエウテヒアンハ主教ノ名稱ヲ僭有ス可ラズムーセイハ主教ト見做

サルヘカラズ。若シ俗人ノ資格ヲ以テ受ケラレンコトヲ請ハ、彼等ニ之ヲ拒ム
ベカラズ。衆皆曰ク同意ナリ。

第十九條 主教ガウデンテイ曰クコノ救贖ニ益シ深慮ニ出テ、且吾人ノ神品ノ
位格ニ適當シ神ト人ノ悦ブ所ノ制規モ若シ其宣言シタルノ決議恐怖ヲ以テ之
ト伴フニ非ズンバ其勢力及鞏固ヲ保ツコト能ハサルベシ。蓋シ少數者ノ破廉耻
ノ故ニ因リテ神品ノ神聖ニシテ尊敬スベキ名ノ往々藐視セラレ、所トナレル
ハ我等亦自ラ知ル所ナリ。故ニ凡ソ神ニ悦バル、ヨリモ寧ロ傲慢及ヒ虚榮ヲ事
トシ衆人ノ認定セシ所ノ者ニ違反シテ他ノ事ヲ行フ者アラバ彼自ラ裁判ニ出
テ、答辨ヲ爲スノ責ヲ負ヒ主教ノ名譽及ヒ位格ヲ失フ者タルヲ知ルベシ。衆皆
約シテ曰ク此意見至當ニシテ我等ノ意ニ適ス。

第二十條 就中此事宜ク究問シテ左ノ如ク實行スベシ。若シ我等ノ中街道若クハ
順路ニ當ル所ニ主教ニ立テラレタル者主教ヲ見バ旅行ノ理由ト其ノ往ク先キ
ヲ訊問スベシ。而シテ彼若シ陣營ニ往クヲ探知セバ前陳ノ條規(本會規則第七、八、九條)ニ從
ヒ逐次訊問スベシ。彼若シ召サレテ往カバ彼往ク者ニ毫モ妨碍ヲ加フベカラズ

若シ又曾テ愛スル汝等ノ前ニ述ベラレタル如ク虚榮ヲ求メンガ爲メ若クハ成
者ノ依頼ニ由リ陣營ニ往クトキハ則チ彼レノ文書ニ署名セズ且ツ此ノ如キ人
ト交際スベカラズ。衆皆答テ曰ク此事亦制定セラルベシ。

カ ル フ ァ ケ ン 聖 地 方 公 會 規 則

第一條 ニケヤ公會ノ制規ハ堅ク遵守スベシ。

主教アウリリイ曰ク

此制規ハ會テ我等ノ諸父ガニケヤ公會ヨリ携へ來レル勝本ニ於テ我等ニ存スル者ニ異ナラズ其後又我等ノ採用シタル制規ニシテ該公會ト精確ニ適應スルモノハ之ヲ確カメタル上宜ク遵守スベシ。

本則ヲ職スル前ニ公會ニ於テニケヤ公會ノ信經及ヒ定規ヲ朗讀セリ加之ロマ主教ボニフ、テイノ代表者ヒケンノ主教フ、ウス、テイノ裁判事件ヲ各教區ノ主教ヨリロマ主教及ヒ近隣ノ諸主教ニ移スノ成規ヲ公會ニ提出スルロマ主教ノ内訓書ヲ提出セリ而シテ該書中ニハ此成規ヲニケヤ全地公會ノ定規ト稱スルモ實際サルディキヤ地方公會規則第五條及ヒ第十四條ナリキ、カルフアケン公會ノ諸父ハ之ニ對シテ己ノ有スルニケヤ公會ノ勝本ニハ此成規ナシト答へ猶其疑團ヲ釋カンガ爲メア、ン、テイ、ニ、ヒ、ヤ、ア、レ、キ、サ、ン、ド、リ、ヤ、及、コ、ン、ス、タ、ン、テ、イ、ノ、ボ、リ、ノ、主、教、等、ヨ、リ、ニ、ケ、ヤ、公、會、規、則、ノ、正、確、ナ、ル、勝、本、ヲ、求、ム、ル、コ、ト、ニ、決、セ、リ、而、シ、テ、自、ラ、ニ、ケ、ヤ、公、會、ノ、規、則、ヲ、遵、守、ス、ル、事、ニ、毫、モ、疑

ヲ容レザラシメンガ爲メカルフアケン主教アウリリイノ提議ニ從テ本條ノ言ヲ述ベタリ。

第二條 神ノ旨ニ從ヒ先ツ協同ノ信認ヲ以テ此ノ光榮ナル公會ニ於テ我等ニ由

テ傳ヘラレタル教會ノ教理ヲ信認スベシ。次ニ教會ノ規律ヲ各員及ヒ衆員總體ノ同意ヲ以テ守ルベシ。又近頃立テラレタル我等ノ兄弟及ヒ同主教ノ思想ヲ堅定スルガ爲メ我等ガ諸父ヨリ正確ナル制規トシテ受ケタル所ノ者ヲ之ニ附加セザルベカラズ三者即チ父及子及聖神ノ一体ハ毫モ識別セラルベキ區別ヲ有セザルコト即チ是ナリ。此事ハ我等ノ心ニ於テ神聖ニ遵守シ我等ガ教ヘラレタル如ク亦神ノ人々ニ教フベシ。

第三條 主教アウリリイ節制ノ事ニ就キ謂テ曰ク

前公會ニ於テ節制及ヒ貞潔ノ事ニ就テ質問ノ起リタルハ此ノ三職即チ主教司祭及ビ輔祭ニ擧ケラレタル者ハ叙聖ニ由リテ既ニ貞潔ノ契約ヲ爲シタルヲ以テ聖主教神ノ司祭^{レウ}ト及ヒ神ノ聖務ニ務ムル者ニ適スル如ク總テノ事ニ於テ節制シ虚心ヲ以テ求ムル所ノモノヲ神ヨリ受ケ以テ諸使徒ヨリ傳ヘラレテ

古ヨリ守ラル、モノヲ我等モ亦守ルベシト議定セラレタリ。

第四條 主教、司祭、輔祭並ニ凡ソ聖物ニ觸ル、者ハ貞潔ヲ守リ婦人ヲ節スベシ。

本則ハ主教ニ對シテハ全然適用シ司祭及ヒ輔祭ニ對シテハ制限的ニ應用スル者ニシテ第六全地公會規則第十二條及ヒ第十三條ニ詳述ス。

第五條 貪利ノ慾ヲ抑制スベシ此慾ヲ諸惡ノ母ト稱スルハ何人モ疑ハザル所ナリ何人タリトモ他人ノ區域内ニ入り利慾ノ爲メ諸父ノ規定ヲ破ルベカラズ並ニ凡ソ教衆ノ者ハ如何ナル物ヨリモ決シテ利ヲ取ルコトヲ許サズ又曖昧且ツ全ク不明ノ事件トシテ新ニ提出セラレタル者ハ我等宜ク之ヲ審査シ該事件ニ就テ議決ヲ爲スベシ而シテ神ノ書ノ最モ明カニ制定セシ所ノモノハ意見ヲ尋究セスシテ寧ロ之ニ從フベシ俗人ニ對シテ非難スベキモノハ教衆ニ屬スル者ニ對シテ之ヲ罪トスヘキハ固ヨリ當然ナリ全公會曰ク未タ會テ預言者ニ反シ福音ニ逆ヒ行ヒタル者ニシテ災ヲ蒙ラザル者アラズ。

第六條 聖膏ノ行事及處女ノ成聖ハ司祭之ヲ行フベカラズ悔改者ヲ聖體禮儀ノ際公然教會ト復和セシムルコトハ司祭ニ之ヲ許スベカラズ衆皆之ヲ可トス。

第七條 人若シ生命ノ危キニ臨ミテ主教ノ居ラザル時高壇ト己ヲ和センコトヲ請ハ、司祭ハ禮ヲ守リテ主教ニ諮問シ而シテ其許ヲ得ルニ及ンデ危篤者ヲ和スベシ。

第八條 諸般ノ事ニ就キテ諸父及ヒ主教ニ對シ訴ヲ起スヲ以テ當然ノ事ナリト思惟スル不良ノ輩多シ此ノ如キモノハ受理スヘキヤ否諸主教曰ク若シ此ノ如キ輩ニシテ過失アル者ナラバ受理スヘカラズ。

第九條 若シ主教或ハ司祭ニシテ己ノ犯罪ノ爲メ當然ニシテ教會ヨリ除黜セラレタル者ヲ親與ニ受クルトキハ其者亦自ラ己ノ主教ノ正當ノ宣告ニ違背シタル者ト同等ノ定罪ニ處セラレベシ。

第十條 若シ己ノ主教ニ罪定セラレタルノ司祭高慢自負ノ餘リ獨立シテ神ニ聖賜ヲ獻スルヲ當然ノ事ナリト思惟シ若クハ教會ノ教ト成規ニ背キ他ノ高壇ヲ建テント思惟スルトキハ罰ヲ加ヘズシテ放棄スベカラズ公會曰ク若シ司祭己ノ主教ニ對シ高慢シテ岐教ヲ作ルハ「アナフエマ」ニ處セラレベシ。

第十一條 若シ司祭ニシテ己ノ品行上罪定セラレタル者ハ宜ク近隣ノ諸主教ニ

通知シテ事實ノ審問ヲ請ヒ彼等ニ由リテ己ノ主教ト和スベシ若シ之ヲ爲サズシテ(願クハ之レナカラシムコトヲ)高慢シ自ラ己ノ主教トノ親與ヲ絶チ或者ト僭ニ岐教ヲ作り神ニ聖献祭ヲ爲ス時ハ詛ニ處セラレタル者ト認定サレ己ノ位置ヲ失フベシ但シ主教ニ對シテ正當ノ訴アルヤ否ヲ審査セシ後ニ於テスベシ

第十二條 主教フイリズ曰ク古公會ノ制規ニ適應シテ左ノ事モ亦定規ニ加フベシ若シ主教訴ヘラル、コトアリ(願クハ此事ナカラシム)而シテ大ナル故障アルニ依リテ多クノ主教相會スルコト能ハサルトキハ彼ヲシテ久ク訴ノ下ニアラザラシメンガ爲メ十二人ノ主教裁判ニ於テ之ヲ審問シ司祭ナレバ六人ノ主教ト其主教又輔祭ナレバ三人ノ主教之ヲ審問スベシ

第十三條 多クノ主教相會シテ主教ヲ立ツベシ若シ已ムヲ得サル事故アルニ於テハ三人ノ主教其ノ何クニ居ルニ拘ハラズ長タル者ノ命ニ依リテ主教ヲ立ツベシ而シテ若シ己ノ承諾若クハ署名ニ反シテ行フ者アラバ自ラ名譽ヲ失フベシ

第十四條

トリボリヨリハ地方ノ乏キ故ニ由リテ公會ニ地方代表ノ爲ニ一人ノ

主教ヲ遣ハスニ又該地方ニ於テハ裁判ニ於テ司祭ナレバ五人ノ主教之ヲ審問シ輔祭ハ前條ニ云フ如ク三人ノ主教之ヲ審問スベキ事ト議定セリ但シ本主教ノ議長タルベキコト勿論ナリ

第十五條 又凡ソ主教タルト司祭タルト輔祭タルト教役者タルヲ問ハズ若シ教會ニ關スル刑事若クハ民事ノ訴訟事件アリテ教會ノ裁判ヲ避ケ世俗ノ裁判所ニ於テ伸冤セント欲セバ假令判決ノ結果ハ彼レノ利益トナルモ其位置ヲ失フベキ事ト議定セリ但右ハ刑事ニ關シテ云フナリ若シ民事ノ事ニ關シテ己ノ位置ヲ保タント欲セバ判決ニ由リテ得タル所ノモノヲ失フベシ

第十六條 又左ノ事ヲモ議定セリ凡ソ教會ノ或ル審判者ヨリシテ裁判事件ヲ更ニ高等ノ權利ヲ有スル他ノ教會ノ審判者ニ移サル、キハ復讐ノ念ニ由リ若クハ私情ニ由リテ罪定シ又ハ或事情ニ蠱惑セラレタルコト證明セラレザルニ於テハ其ノ宣告ヲ變更セラレタル者何等ノ誹議ヲモ受クベカラズ

第十七條 若シ原被両造ノ同意ニ依リテ審判者ヲ選ブキハ假令其員數ハ規則ニ定ムル所ノ者ヨリ少シトスルモ該裁判ヲ他人ニ移スコトヲ許スベカラズ

第十八條 司祭ノ小兒ハ世俗ノ觀劇ヲ事トシ又ハ之ヲ見ルベカラズ且ツ凡ソ誹議セラルベキ場所ニ入ルベカラザルコトハ總テノ「ハリステリアニ」ニモ常ニ之ヲ諭スベシ。

第十九條 主教、司祭及ビ輔祭ハ利慾ノ爲ニ保管者ト爲リ或ハ管理者ト爲ルベカラズ又不名譽或ハ卑賤的ノ業ヲ以テ食ヲ求ムベカラズト議定セリ蓋シ凡ソ神ノ爲ニ戰フ者ハ俗務ヲ以テ己ヲ累ハサズ(提摩太後書三章四節)ト云フノ聖言ヲ願ミサルベカラズ。

第二十條 成年ニ達スルノ誦經者ハ或ハ勸告シテ結婚セシムベク或ハ貞潔ヲ守ルノ約ヲ爲サシムベシ。

第二十一條 又教衆ニシテ金ヲ貸シタル者ハ同額ノ金ヲ受クベク又物品ヲ貸シタル者ハ其ノ貸シタル丈ケノモノヲ受クベシト議定セリ。

第二十二條 輔祭ニハ二十五歳未滿ノ者ヲ立ツベカラズ。

第二十三條 誦經者ハ奉神禮ノ時ニハ人民ニ敬禮スベカラズ。

第二十四條 シティフエナノマウリタニヤハ其ノ會テ公會ニ依リテ分離セラレタル

スミディア地方ノ首タル主教ニ請願セシニ依リ己ノ首タル主教ヲ有スベキ事ト議定セリ、アフリカ諸州ノ總テノ首タル主教及ビ諸主教ノ同意ニ依リテ彼ノ地ニ其ノ遠隔ノ故ニ由リ己ノ首タル主教ヲ有スルコトヲ許ス。

第二十五條 又主教或ハ教役者ノ位ニ接手セラル者ニハ接手者預メ公會ノ成規ヲ言ヒ聞カセ之ヲシテ公會ノ制規ニ反シテ行ヒ悔ユルコトナカラシムベシ

第二十六條 聖体ハ死者ノ躰ニ予フベカラズト定メタリ。蓋シ聖書ニ曰ク取リテ食ヘト(馬太二十六節)然ルニ死者ノ躰ハ取ルコト能ハズ又食フコト能ハザルナリ又司祭ガ既ニ死セシ者ニ洗禮ヲ授クル無智ハ之ヲ停止スベシ。

第二十七條 教會ノ事件ハ往々等閑ニ付セラレテ人民ノ害トナルニ依リ此ノ聖公會ニ於テニケヤ公會ノ定規ニ循ヒ毎年公會ヲ招集シ凡ソ州中ニ首タル教座ヲ占ムル者ハ己ノ會ヨリ二人若クハ其ノ選ブ丈ケノ主教ヲ代表者トシテ該公會ニ派遣シ此ノ如クニシテ成リタルノ會ハ全權ヲ有スルヲ得ベキコトヲ確カムベシ。

第二十八條 若シ主教訴ヘラルトキハ告訴者ハ該事件ヲ被告者ノ屬スル州中

ノ首タル者ニ提出スベシ而シテ被告者ハ書ヲ以テ答辨ノ爲メ招カル、モ時日ヲ定メテ之ヲ裁判スルニ選定セラレタルノ裁判ニ出テサル場合ノ外ハ親與ヲ絶タルベカラズ。若シ彼ハ其ノ訴ヘラレタル事件ニ對シテ答辨ヲ爲スガ爲メ出頭スルコトヲ妨ケタル眞誠已ムヲ得ザルノ理由ヲ提出スルキハ疑議ナク翌月ノ間ニ辨解ヲ爲スノ自由ヲ有ス可シ然レモ其月ノ經過セシ后ハ該事件ニ對スル反證ヲ擧ケテ己ヲ潔白トスルニ至ルマデ親與ヲ絶タル可シ。若シ同年ノ總會ニ於テナリトモ其事ノ局ヲ結バンガ爲メ該會ニ出ツルヲ欲セザルキハ自ら己ニ對シ宣告ヲ爲セシ者トシテ罪定セラル可シ。彼レノ親與ヲ絶タル、間ハ己ノ教會ニ於テモ其州中ニ於テ親與ニ受ケラル可カラズ。之ニ反シテ彼レノ告訴者ガ該事件ノ調査セラル、間何處ニモ去ラザルキハ決シテ之ニ親與ヲ絶ツ可カラズ。然レモ若シ自ら避ケテ匿ル、キハ主教ハ親與ヲ復セラレ而シテ告訴者ハ親與ヲ絶タル可シ。但シ若シ自ら好マザルニ依ルニ非ズ乃チ能ハサルニ由リテ裁判ニ出テザルコトヲ證スルヲ得ルニ於テハ猶之ニ其ノ告訴ヲ確カムルノ自由ヲ保タシム可シ。然レモ諸主教ノ裁判ニ於テ事件ノ進行中告訴者ノ面目汚

サル、キハ之ヨリ告訴ヲ受理ス可ラズ但シ彼レノ審査ヲ求ムルモノ教會ノ事件ニ非ズシテ自己ノ事件ナルトキハ此限ニ非ズ。

第二十九條 若シ司祭或ハ輔祭訴ヘラル、キハ其近隣ヨリ被告者ノ望ニ依リテ選バル、主教ノ定員即チ司祭ニ對スルノ訴ニ就テハ六人、輔祭ノ爲ニハ三人相會セシ上被告者ノ本主教ハ之ト偕ニ時日期限審査及ヒ原告被告ノ資格等ニ關スルノ成規ヲ遵守シテ彼等ニ對シテ提起サレタルノ告訴ヲ審判ス可シ。自餘ノ教衆ノ罪過ニ關スル事件ハ該地ノ主教一人ニテ審査終結スベシ。

第三十條 教衆中ニ在ル者ノ子ハ異邦人若クハ異端者ト結婚スヘカラザル事ト議定セリ。

第三十一條 主教及ヒ教衆中ノ者ハ正教ノ「ハリスティアニ」ニ非サル者ニハ假令親戚ノ者タリトモ之ニ何物ヲモ讓與スベカラズ乃チ主教及ヒ教衆中ノ者ハ定メラレタル如ク贈與ノ口實ヲ以テ此ノ如キ者ニ己ノ物ヲ與フベカラズ。

第三十二條 主教ハ各州首座ノ主教ノ許ヲ得即チ首タル主教ヨリ特ニ免狀ト稱スル者ヲ取り若クハ其ノ嘉ミスル所トナラザレバ海外ニ(即チアフリカヨリ)

渡航スベカラズ。

第三十三條 又入典書ノ外神書トシテ何ノ書ヲモ聖堂ニ於テ讀ムベカラズト制定セリ。入典書ハ即チ創世記、出埃エジプト及記、利未記、民數紀、復傳律例書、イイススナウイン記、士師記、ルフ記、列王紀四卷、歷代志略二卷、イヲフ記、聖詠、ソロモンノ書四卷、預言者ノ書拾二卷、イサイヤ、イエレミヤ、イエセキイル、ダニイル、トウイヤ、イウディフ、エシフ、イリ記、及ヒエズドラ記二卷ナリ。又新約書ハ四福音書、使徒行實一卷、パウエルノ書十四卷、使徒ペートルノ書二卷、使徒イヲアンノ書三卷、使徒イヤコフノ書一卷、使徒イウダノ書一卷、イヲアンノ默示錄一卷ナリ。此規則ヲ確固ナラシムルガ爲メ我等ノ兄弟且ツ同役者タルボニフ、テイ(ロマノ)及ビ該地方ノ他ノ諸主教ニ此事ヲ報道ス可シ、蓋シ此等ノ書ガ聖堂ニ於テ讀ム可キ者ナリトノコト諸父ヨリ我等ニ傳ヘラレタレバナリ。

第三十四條 主教アウリリイ、曰ク尊敬ス可キ兄弟等ヨ誦經者ノ外教衆中ノ或者ガ己レノ妻ヲ節ス可キ事ヲ議スルニ當リ諸公會ニ於テ確定セラレタルモノヲ以テ之ニ附加セン即チ副輔祭ニシテ聖機密ニ觸ル、者及ビ輔祭、司祭並ニ主教

ハ各其位ニ相當スルノ定規ニ循テ己レノ妻ヲ節シ恰モ之ヲ有セザル者ノ如クス可シ若シ之ヲ行ハサル者アラバ教會ノ位ヨリ黜ケラル可シ。他ノ教役者ニハ老年ノ者ノ外ハ之ヲ強ユ可ラズ全公會曰ク導師ノ正當ニ裁定セシ所ノモノハ神品職ニ適當シ且ツ神ニ悦バル、モノトシテ確定セン。

本則ハ此公會ノ第四條規則ト同ク第六全地公會ノ第十二條及第十三條規則ヲ以テ説明増補セラル

第三十五條 何人タリトモ教會ノ所有物ヲ賣却ス可ラザル事ト議定セリ然レモ若シ該所有物ニシテ收得ナク且ツ已ムヲ得ザルノ必要起ルハ此事ヲ該州ノ首タル主教ニ申告シ定數ノ主教ト共ニ其ノ處分方ヲ協議ス可シ。若シ其必要切迫シテ賣却スルニ先タチ協議スル能ハザルハ主教ハ近隣ノ主教ナリトモ之ヲ招キテ證人ト爲シ其ノ教會ニ遭遇シタルノ事情ヲ公會ニ提出スルヲ勉ム可シ。若シ之ヲ行ハサレバ賣却者ハ神及ビ公會ニ對シテ犯罪者ト爲リ己ノ名譽ヲ失フ可シ。

第三十六條 司祭若クハ輔祭ニシテ必ス聖務ヨリ斥ゾケラル可キ重罪ヲ犯セシ

者ニハ悔改者若クハ信者タル俗人ニ對スル如ク之ニ手ヲ按シ又ハ其ノ再ビ領洗シテ教衆ノ位ニ登ルヲ許ス可ラズト確定セリ。

第三十七條 又司祭及ビ輔祭並ニ其他下位ノ教役者ニシテ彼等ノ間ニ起リタル事件ニ因リ己ノ主教ノ裁判ニ對シ不滿ヲ訴フルキハ近隣ノ諸主教之ヲ審問シ其ノ招カレタル諸主教ハ管轄主教ノ同意ヲ得テ彼等ノ間ニ起リタルノ不滿ヲ停止スヘキ事ト議定セリ。故ニ若シ之レヨリシテ更ニ高等ノ裁判ニ其事件ヲ移サント欲セバ海外(即チヒロマ)ノ裁判ニ之ヲ移サズ乃チ主教ノ事ニ就キテ屢議定セラレタル如ク己ノ州中ノ首タル主教等ニ移ス可シ。若シ海外ノ裁判ニ其事件ヲ移ス者アラバアフリカニ於テハ何人モ之ヲ親與ニ受ク可カラズ。

第三十八條 己ノ不品行ノ爲メ親與ヲ絶タレタル者ハ主教タルト又ハ教衆中ノ何人タルニ拘ハラズ其ノ親與ヲ絶タル、間辨解ノ申立ヲ審問セラル、ニ先ダテ強テ親與ニ受ケラレントスル者ハ自ラ己ニ對シテ定罪ノ宣告ヲ爲セシ者ト認定セラル可キハ公會ノ舉テ嘉ニスル所ナリ。

第三十九條 被告若クハ原告ニシテ被告ノ居ル場所ニ於テハ多人數ノ騷擾ヨリ

シテ強迫ヲ受ケンコトヲ恐ル、キハ己ノ爲メ證人ヲ召喚スルノ困難ナラザル最近ノ場所ヲ撰ビ且ツ該所ニ於テ其事ヲ終結ス可キ事ト議定セリ。

第四十條 又教役者及ビ輔祭ニシテ其教會ノ己ムヲ得ザル事情ニ因リ之ヲ該教會ノ高位ニ登昇セント欲スル主教ニ聽從スルヲ欲セザルキハ其ノ現職ニ於テモ務ム可カラズト制定セリ。

第四十一條 主教、司祭、輔祭或ハ凡ソ教衆ノ者ニシテ如何ナル財産ヲモ有セザル者其ノ立テラレタル後己ノ主教職若クハ教衆職ヲ務ムル間ニ己ノ名ヲ以テ土地若クハ別莊ヲ購フキハ主ノ所有ノ竊盜者ト見做サル可シト制定セリ但シ勸告ヲ受ケテ之ヲ教會ニ納付スルキハ此限ニ非ズ。若シ何人ヨリカノ贈與ニ依リ又ハ親戚ヨリ遺言ニ因リ彼等ノ所有ニ歸スルモノアラバ己ノ意ニ從テ之ヲ處置ス可シ。若シ又何物カラ教會ニ獻セント欲シ而シテ之ヲ取り戻サントセバ教會ノ名譽ヲ荷フニ堪ハザル者及ビ親與ヲ絶タレタル者ト認定セラル可シ。

第四十二條 又司祭ハ己ノ主教ノ意ニ依ラズシテ其ノ叙聖セラレタル教會ノ物品ヲ賣却ス可ラザル事ト制定セリ。又主教ニモ公會若クハ己ノ司祭ニ通知セズ

シテ教會ノ土地ヲ賣ルコトヲ許サズ。是故ニ緊要ノ場合ノ外ハ主教タリトモ教會ノ帳簿ニ記スル物品ヲ消費スルコトヲ許サズ。

第四十三條 イッボン公會ニ於テ制定セラレタルモノハ一モ修正ヲ要セズトノ事ニ就テ、

主教エビゴニーニ曰ク此ノイッボン公會記事ヨリ抄録セラレタル略記中ニハ一モ修正若クハ増補ヲ要スルモノアリト認メズ、只聖パスハ祭日ハ公會ノ時預報セラレ可キモノトス。

第四十四條 主教及ビ教衆ノ者ハ己ノ子タル者若シ其品行及ビ年齢上充分請合フコト能ハザルニ於テハ之ヲ己ヨリ離シテ其意ノ儘ニ立去ルコトヲ許ス可ラズ、是レ其罪終ニ兩親ノ身ニ歸セサランガ爲メナリ。

第四十五條 主教司祭及ビ輔祭ニハ其ノ一家ノ人ヲ悉ク正教ノ「ハリステアニン」ト爲スニ非サレバ之ヲ立ツ可ラス。

第四十六條 至聖所ニハ主ノ自ラ授ケシ如ク主ノ体ト血即チ麵包ト水ヲ和シタル葡萄酒ノ外献ス可ラズ、初物或ハ蜂蜜水又ハ乳汁ハ慣例ニ依リテ一定ノ日ニ

小兒ノ奥妙ナル兆候トシテ献ス可シ此等ノモノハ假令高壇ニ献スルモ主ノ體血ノ聖物ト相異ニシテ特別ニ降福セラレ可シ、初物ハ葡萄及ビ小麥ノ外何物ヲモ献ス可ラズ。

第四十七條 教衆ノ者若クハ節制者ハ己ノ主教又ハ司祭ノ許可及ビ承諾ヲ得ルニ非サレバ寡婦或ハ處女ヲ訪フ可ラズ、此ノ場合ニ於テモ獨リ訪問セズシテ他ノ教衆ノ者若クハ主教及ビ司祭ト共ニ此ノ如キ婦ヲ訪問スル者ト偕ニス可ク又ハ教衆若クハ尊敬ス可キ「ハリステアニン」ノ面前ニ於テ彼等ト談話ス可シ。

第四十八條 首座ノ主教ハ司祭ノ「エクザル」若クハ高等ノ司祭若クハ之ニ似タルノ名稱ヲ戴ク可ラズ乃チ只首座ノ主教ト稱ス可シ。

第四十九條 教衆ノ者ハ途中飲食ノ必要ニ迫ルニ非ザレバ酒店ニ入ル可ラズ、第五十條 高壇ノ聖機密ハ食セザル人之ヲ行フ可シ、唯一年中主ノ晚餐ノ行ハル

ル日ノミ之ガ例外トス、若シ夕刻ニ逝去シタル主教或ハ其他ノ人ノ記憶ヲ行フ片之ヲ執行スル者既ニ食セシ片ハ唯祈禱ノミヲ以テ其記憶ヲ行フ可シ。

第五十一條 主教或ハ教衆ノ者ハ聖堂ニ於テ饗宴ヲ催ス可カラズ但シ旅中已ム

ヲ得ザルニ由リテ之ニ休憩スルハ此限ニ非ズ、俗人ニモ若シ能クヌ可クハ此ノ如キ饗宴ヲ禁ズ可シ。

第五十二條 悔改者ニハ罪ノ種類ニ應ジ主教ノ評議ヲ以テ其ノ痛悔ノ時間ヲ定ム可シ司祭ハ主教不在ノ時切迫シタル必要アルニ非ザレバ主教ノ意ニ依ラズシテ悔改者ヲ赦免ス可ラズ。凡ソ悔改者ニシテ其ノ犯罪明白公然トシテ全教會ヲ紊亂スルモノナルキハ堂内ノ啓蒙所ニ於テ之ニ手ヲ按ス可シ。

第五十三條 神ニ献セラレタルノ處女ハ之ヲ守リタルノ父ト別ル、キハ主教若クハ主教ノ不在ニ於テハ司祭ノ斡旋ヲ以テ最モ正直ナル婦ニ托ス可シ或ハ同住シテ互ニ相守リ四方ニ徘徊シテ教會ノ名聞ヲ害スルコト無カル可シ。

第五十四條 己ノ爲ニ應對スルコト能ハザル病者ニハ本人ノ希望ニ由リ他人自ラ責任ヲ帶ビテ彼等ノ事ヲ證スルニ非ザレバ洗禮ヲ授ク可ラズ。

第五十五條 俳優及ヒ觀場ニ於テ戯技ヲ演スル者並ニ其他凡ソ此類ノ人々若クハ背教者ニシテ悔改シ神ニ歸スル者ハ恩寵若クハ復和ヲ剝奪セラレザル可シ

第五十六條 致命者ノ年々ノ記憶行ハル、日ニハ以後亦其ノ受難記ヲ讀ムコト

ヲ許ス。

第五十七條 「ドナト」党及ヒ「ドナト」党ニ由リテ領洗シタル小兒ニ就テ、

單ニ「ドナト」党由リテ領洗シタル小兒ニ就テハ我等ノ兄弟且同役者シキリイシムアリキアンニ諮問ス可シト議定セリ、是レ彼等ノ意ニ依ラズ其兩親ノ迷謬ニ因リテ彼等ノ身ニ行ハレシモノハ若シ救ヲ得ント欲スルノ意ヲ以テ神ノ教會ニ歸スルニ於テハ其ノ高壇ノ聖務ニ登庸セラル、ノ妨グト爲ス可カラザランガ爲メナリ。

第五十八條 シテ、フニナノマウリタニヤ地方ノ主教オノラト及ウルワン曰ク我等ハニケヤノ教理研究中ニ午餐後ニ行ハル、ノ聖務ニ就テハ食ハザル人ノ相當ニ行フ者ノミ真誠ナリトシ當時此事既ニ確定セラレタリト聞ケリ。

第五十九條 我等ニ托セラレタルノ委囑ニ依リテ洗禮ヲ再ビシ或ハ叙聖ヲ再ビシ或ハ主教ノ他寶座ニ遷ルヲ許ス可カラズトカープイノ公會ニ於テ制定セラレタル事ヲ亦此ニ陳述ス。レケナ邑ノ主教クレスコニイハ其ノ所牧ノ民ヲ輕ジテツケナ教會ニ侵入シ屢制規ニ照シテ勸告セラル、モ今ニ至ルマデ猶ホ其ノ

侵奪セシ教會ヲ去ルヲ欲セズ該報道ハ我等之ヲ確實ナリト聞ク依テ我等ニ傳ヘラレタルノ訓示ニ基キ已ムヲ得ザルノ事情ニ際シ之ヲ鎮靜スルガ爲メ地方ノ長官ニ依頼シテ至榮ナル國王ノ命令ヲ仰キ以テ卿等ノ親切ナル勸告ニ服從シテ其非ヲ改ムルコトヲ欲セサル者ニ政府ノ權ヲ以テ直ニ其事ヲ停止セシメンコトヲ請フノ許ヲ我等ニ予ヘラレン事ヲ請フ。

主教アウリリイ曰ク既定ノ儀式ヲ遵行セシ後此ノ如キ人若シ卿等ノ愛ヲ以テ親切ニ請ハル、モ其ノ侵奪セシ場所ヲ去ルヲ拒ムニ於テハ公會ニ屬スル者ト認ム可ラズ蓋シ彼自ラ驕傲ト不順トヲ以テ世俗ノ權威ノ處分ヲ受クルニ至リタレバナリ。主教オノラト及ウルワン曰ク此事衆意ニ適スルヤ否諸主教約シテ曰ク至當ナリ、可トス。

第六十條 成規ニ定メラレタル如ク三人ノ主教以下ニテハ主教ヲ立ルガ爲メ充分ト認ム可ラズトノ古規ハ宜ク格守セラル可シ。

第六十一條 左ノ事亦須ク制定ス可シ。主教選舉ノ際抗論ノ起ルハ我等ノ實驗セシ所ナリ若シ斯カル事件起ラバ按手ヲ受ケントスル者ヲ義トセンガ爲メ只三

人集會スルハ輕卒ナリ乃チ宜ク一人若クハ二人ノ主教ヲ前記ノ數ニ加ヘ且ツ被選者ノ任セラレントスル所ノ人民ノ前ニ於テ第一抗論者ノ人ト爲リヲ審査シ而シテ後彼等ノ公言スル所ヲ審査スルニ着手ス可シ此ノ如クニシテ公衆ノ前ニ其ノ潔白ナルコト表明セラルトキハ按手ス可シ諸主教曰ク全ク同意ナリ。

第六十二條 毎年協議ノ爲メ集會スルコトハ我等夙ニ必ズ遵行ス可キ事ト認メタルヲ記憶スルニ因リ一所ニ集會スル時ニ於テパスハ祭日ハ公會ニ臨席スル代表者ニ由リテ報告セラル可シ。

第六十三條 主教オノラト及ウルワン曰ク公會ノ時各州ヲ巡視ス可シト規定セルイッボン公會ノ制定ニ基キ汝等ガ年々延期セシマウリタニヤモ順ヲ以テ巡視セラレン事ヲ請フコトヲ口頭ニテ我等ニ托セラレタリ。主教アウリリイ曰クマウリタニヤハアフリカノ極端ニ在リテ夷民ノ地ト接壤スルニ依リ當時該地方ニ關シテハ我等毫モ議定セシ所アラズ神若シ許シ賜ハバ我等過分ニシテ之ヲ行ヒ相約セズシテ汝等ノ地方ニ至ルヲ得ン。

第六十四條 主教エビゴニイ曰ク主教ノ管轄ヲ受ケ未ダ會テ特別ノ主教ヲ有セザル管區ニ居ルノ民ハ初メ其ノ服屬セシ主教ノ承諾アルニ非ザレバ己ノ治理者即チ主教ヲ立ツ可ラズトノ事ハ多クノ公會ニ於テ神品輩ノ議定セシ所ナリ蓋シ或地方ヲ侵奪シテ兄弟ト親與ヲ絶チ之ガ爲メ罪定セラレ、并ハ恰モ久ク之ヲ領スルガ如キ權利アルヲ主張シテ其ノ管轄權ヲ保維セントス。司祭ニシテ驕傲無智ナル者自己ノ主教ニ反抗シ宴會及ビ惡意ノ教唆ヲ以テ人民ヲ煽動シ之ヲシテ非禮ノ好意ニ由テ己ヲ立テ、治理者ト爲サシメントスル者多シ。最モ誠實ナル兄弟アウリリイヨ汝ガ屢此ノ如キ謀計ヲ中止シ最好ノ結果ヲ奏シタルハ汝ノ良智ニ依ルナリ。予ハ斯カル人々ノ奸謀惡計ニ對シテ一議ヲ提出ス即チ所謂管區ニ於テ舊來主教ニ服屬シ未ダ會テ特別ノ主教ヲ有セザルノ民ハ特別ノ首長ヲ受ク可カラズト云フ是ナリ。故ニ我ガ提議ニシテ若シ全聖公會ノ意ニ適セバ請フ確定セヨ主教アウリリイ曰ク予ハ我等ノ兄弟及ビ同主教ノ提議ニ抵抗セズ乃チ會テ此事ヲ行ヒ後又之ヲ行ハントスルヲ宣言ス即チ獨リカルフアゲン教會ノミナラズ總テノ神品輩ト同意ナリ。蓋シ己ノ被牧者ト共謀シ言フ

所ノ如ク其耳ニ諛ヒ甘言以テ不品行ノ人ヲ誘ヒ迷謬ニ陥イル、者甚タ多シ加之彼等ハ傲慢ニシテ我等ノ社會ト分離シ展、公會ニ來ル可キ招キヲ受クルモ己ノ被牧者ヲ恃ミトシ其惡計ノ暴露センコトヲ恐レテ峻拒ス。故ニ若シ衆意ニ適セバ予ハ一議ヲ提出セン即チ我等ハ百方力ヲ盡シテ彼等ニ抗シ管ニ壓制的ニ彼等ニ占領セラレタル地方ノミナラズ不正ニシテ彼等ノ權下ニ歸シタル其ノ所轄ノ教會ヲシテ彼等ノ權下ニ服セシム可ラズ乃チ公然權威ヲ以テ彼等ヲ放逐シ首タル主教ノ寶座ハ彼等ヲ逐斥ス可シ。蓋シ諸兄弟並ニ諸公會ニ親善ナル者ハ管ニ己レノ寶座ヲ保維スルノミナラズ更ニ斯カル爭議ト爲ルノ地方ヲ其權下ニ受ク可ク之ニ反シテ己ノ民ノ群ノミヲ以テ足レリト爲シ兄弟ノ愛ヲ輕蔑スル者ハ管ニ其侵奪サレタル地方ヲ失フノミナラズ乃チ予ノ前述セシ如ク反逆者トシテ其ノ所轄ノ場所モ世ノ有司ノ權ヲ以テ剝奪セラル可キハ理ノ當然ナリ。主教オノラト及ウルワン曰ク卿ノ深慮ハ衆員ノ心ニ銘セリ故ニ衆員ノ答ヲ以テ汝ノ提議ヲ確定スルコト當然ナリト思惟ス。諸主教曰ク同意ナリ同意ナリ。

第六十五條 如何ナル主教タリトモ其ノ前主教ノ意ニ依ラスシテ他ノ教衆ヲ己レニ屬セシム可ラズ。

第六十六條 主教アウリリイ曰ク兄弟ヨ請フ予ガ言ヲ納レヨ。教會ノ人ガ屢予ニ輔祭或ハ司祭或ハ主教ヲ請フ事アリ。予ハ成規ヲ記憶シ之ニ準據シテ其ノ請ハレタル教衆ノ主教ニ照會シ之ニ某々ノ教會ニ屬スル者ガ其教衆ヲ請フ旨ヲ明告ス。今ニ至ルマデ此事ニ就テ我ニ抵抗セシ者ナシ。然レモ今後亦此事無カラシガ爲メ即チ我ニ請ハル、者ヲシテ此事ニ就テ我ニ抵抗スル事ナカラシメンガ爲メ蓋シ予ガ多クノ教會及ビ按手ノコトヲ慮ルノ任アルハ汝等ノ知ル所ナリ。汝等ノ同輩中二人若クハ三人ヲ證人トシテ同牧師中ノ者ニ請フトキ被選者ニシテ若シ應ゼザルハ如何ニ處置スベキヤハ汝等ノ宜ク裁決スベキ所ナリ。蓋シ兄弟ヨ予ハ汝等ノ知ル如ク神ノ旨ニ由リテ多クノ教會ヲ慮ルノ任アリ。主教ヌミデーイ曰ク各教會ノ望ニ依リ其ノ欲スル所ノ地方ヨリ其ノ指名スル所ノ人ノ何人タルヲ問ハズ之ヲ主教ニ立ツルノ全權ハ常ニ此寶座ニ屬セリ。主教エヒゴーニイ曰ク好意以テ權ヲ和ラグベシ蓋シ兄弟ヨ汝ハ衆人ニ對スルニ善良

慈憐ニシテ爲シ得ベキヨリ勵行スルコト少ナシ。蓋シ各主教ニ尊敬ヲ表スルハ汝ノ意ニ一任セラルト雖モ初メ一タビ之ト交渉セシ上若シ可トセバ此寶座ノ權ニ屬スルコトヲ主張スベシ是レ汝ハ諸教會ヲ堅定スルノ責任アルガ故ナリ。故ニ我等汝ニ此權ヲ予フルニ非ズ乃チ汝ノ意ヲ以テ之ヲ確カメ汝ガ常ニ其ノ欲スル所ノ人ヲ取り他ノ請ハル、人ヲモ其ノ可トスル所ノ地方ヨリ取りテ教會ノ司長ニ立ルコトハ汝ニ許サルベシ。主教ポストメティアン曰ク只一人ノ司祭ヲ有スル者アランニ之レヲモ彼ヨリ取ラザルベカラザルカ、主教アウリリイ曰ク神ノ恵ミニ依リテ一人ノ主教ハ多クノ司祭ヲ立ルヲ得只主教職ニ適任ノ司祭ハ之ヲ得ルコト易カラズ。故ニ若シ只一人ノ司祭ヲ有スル者アリ而モ其人主教職ニ適任ノ者ナランニハ此ノ一人ノ者ヲモ按手ノ爲ニ取ルベシ。主教ポストメティアン曰ク然ラバ則チ若シ一人ノ主教ニシテ多ク教衆ノ者ヲ有スル者アラシニハ此ノ他人ノ多數ハ我ヲ助ケザルベカラズ。主教アウリリイ曰ク誠ニ然リ汝ガ他教會ニ助ケシ如ク多數ノ教衆ヲ有スル者ハ亦必ズ其數中ヨリ按手ノ爲メ汝ニ分ケ予フベシ。

第六十七條 一定ノ管區區域中ヨリ一箇所タリトモ分割スベカラザル事並ニ之ヲ管轄スル主教ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ特別ノ主教ヲ受クベカラザル事ハ各主教ノ爲メ制規ヲ以テ保障セラル、所ナリ。若シ一地方ニシテ自己ハ主教ヲ受ケタランニハ此位置ニ登庸セラレタル者ハ己レノ權ヲ他ノ地方ニ及ボスベカラズ、蓋シ此一地方ノミ獨リ多クノ區域中ヨリ分割セラレテ特別ナル主教職ノ名譽ヲ有スルニ至リタレバナリ。

第六十八條 汝等一意我ト偕ニ(カルフアグンノ主教アウリイ)前公會ニ於テ制定セラレタル所ノ事ヲ記憶ス即チ幼時(ドナト)党ヨリ洗禮ヲ受ケタル者當時ニ在リテ彼等ノ迷認ノ如何ニ有害ナルヤヲ悟ルヲ得ザリシモ成年ニ達シテ考慮スルヲ得ルニ及ビ真理ヲ識リテ彼等ノ無智ヲ厭忌スルニ至リシ者ハ古例ニ循ヒ按手スルヲ以テ全世界ニ蔓延シタル神ノ公會ニ受クベシ。彼等ハ曾テ異端者タル狂妄ヨリシテ輕卒ニシテ背理ノ事ヲ真理ト稱シテ宣傳セントシタリトスルモ若シ彼等ニシテ正教ニ歸シ眞誠ノ教會ヲ以テ己ノ教會ト認メ彼ニ於テハリストスヲ信ジ彼ノ悉ク眞實神聖ニシテ靈魂ノ悉クノ希望ノ基タル聖三者ノ機

密ヲ受クルルハ其既往ノ迷認ノ非議ハ彼等ヲ教衆ノ階級ニ受クルノ妨グト爲ルベカラズ。此理タル聖使徒ノ主一信一洗禮一(以弗所四章五節)ト教ヘシ如ク單純ニシテ一たび授クベキモノハ再ビ受クベカラズ故ニ迷認ノ稱ヲ「アナフェマ」ニ付セバ按手ヲ以テ惟一ノ教會ニ受クベシ此教會ヤ聖書ニ依ルニ鳩(雅歌十)及ビ「ハリステイアニシ」ノ惟一ノ母ニシテ人ガ之ニ於テ救ヲ得ルガ爲メ受クル所ノ諸機密ハ永遠ニシテ施生的ノモノナルモ異端ヲ奉ズル者ハ之ヲ至大ノ定罪ト刑トニ服ス。眞理ヲ奉ズルルハ最モ光明ニシテ彼等ヲ永生ニ導クモノモ迷認ヲ固執スルルハ彼等ノ爲ニ最モ闇昧且ツ定罪的ノ者ト爲ルナリ。或人々ハ之ヲ避ケテ母タル公會ノ眞道ヲ知り眞理ヲ愛スルヨリシテ彼ノ聖諸機密ヲ信ジテ之ヲ受ケタリ。此ノ如キ輩ハ其ノ品行ノ善良ナルヲ確ムルニ於テハ聖機密ニ務ムルガ爲メ疑ヒナク正當ニシテ教衆ニ登庸セララル、ヲ得ベシ殊ニ斯カル困難ノ事情ニ際シテハ何人モ之ヲ爭ハザルベシ。又該教即チ「ドナト」ノ教ヲ奉ズルノ教衆ニシテ名譽ヲ好ムヨリ己ノ民ヲ率ヒ其位ヲ存シテ我等ニ加ハリ以テ人民ニ生活上ノ協議ヲ授ケ且ツ自ラ救贖ヲ施スノ位ヲ保有セント欲スル者アラバ前述ノ兄

弟が最モ深ク熟慮シタル上其意見ヲ提出スルニ至ルマデ之ヲ放棄スベキ事ト
 思惟ス是レ彼等ヲシテ其ノ賢明ナル協議ニ於テ本提議ノ主旨ヲ探究シ我等ガ
 此事ニ就テ制定スベキ事ニ關シテ我等ヲ堅定セシメンガ爲メナリ。今ハ唯幼時
 「ドナト」黨ヨリ洗禮ヲ受ケタル者ニノミ限ルベシ前述ノ兄弟若シ之ヲ可トセバ
 彼ノ徒ヲ按手スベキ我等ノ決議ニ同意スベシ。

此ニ公會ガ其意見ヲ聞カントスト云フ所謂前述ノ兄弟ハ此公會ノ記録ニ載スルア
 ウリリイノ言ニ見ユル如クロマノ主教アナスダシイ及メテオラシノ主教ウチリイ
 ナリアウリリイハ此ニ教座ノ意見ヲ以テ教會ノ一致ヲ守ルガ爲ニ必要ナリ思惟
 セリ何トナレバロマ及メテオラシノ主教ハ是ヨリ先ドナト黨ヲ教役者ニ採用スヘ
 カラスト思惟
 シタルバナリ

第六十九條 最敬虔ナル國王ニアフリカ全土ニ於テ偶像ノ遺跡ヲ全ク絶ツノ命
 ヲ發セラレンコトヲ請願スベシ(何トナレバ此迷謬ハ沿海ノ多クノ場所及ビ諸
 所ノ領分ニ於テ尙ホ不正ニ勢力ヲ保ツガ故ナリ)又偶像ヲ毀テ村落及ビ隱密ノ
 場所ニ見苦シク立ツ所ノ其殿ヲ百方方ヲ盡シテ破壊センコト亦宜ク訓令セラ
 ルベシ。

第七十條 又左ノ事モ規定セラレン事ヲ最敬虔ナル王ニ請願スベシ若シ或事件

ニ關シ教會ニ屬スル使徒ノ權ニ因リテ教會ニ於テ裁判ヲ受ケント欲シ而シテ
 其一方ハ教衆ノ決定ニ不滿ナルコトアラバ會テ該事件ヲ審査シ若クハ其審査
 ニ立會ヒタル教衆ヲ證人トシテ裁判ニ召喚スルヲ許スベカラズ且教會ノ者ノ
 家族タリトモ立證ノ義務ヲ以テ之ヲ裁判ニ招クベカラズ。

第七十一條 又左ノ事モ宜クハリストス教ヲ奉ズルノ國王ニ請願スベシ即チ多
 クノ場所ニ於テ神誠ニ背キ異教ノ迷謬ヲ移サレタル饗宴行ハレハリストスニアニ
 シ「モ異教人ニ誘ハレテ密カニ之ニ與カル者アルニ因リ都府ニ於テモ邑村ニ於
 テモ此ノ如キ饗宴ヲ禁ズルノ命令ヲ發セラレンコト是ナリ殊ニ或都府ニ於テ
 ハ福ナル致命者ノ記憶日ニ於テ甚シキハ神聖ナル場所ニ於テ此ノ如クニシテ
 罪ヲ犯スヲ憚ラザル者アルニ因ルナリ此日ニ於テ田野又ハ街頭ニ於テ言フモ
 耻ヅベキ猥褻ノ舞蹈ヲ爲シ猥褻ノ言ヲ以テ一家ノ母ノ名譽及ビ其他聖日ニ集
 會スル無數ノ敬虔ナル婦女ノ貞操ヲ汚辱シ之ガ爲メ聖教ノ避難所ヨリ殆ド避
 ケサルベカラザルニ至ルコトアリ。

第七十條ニ 又日曜日及ビ其他ハリストス教ノ光明ナル日ニ於テ觀覽的ノ遊戯

ヲ禁ズル事ヲモ請願スベシ就中聖「パス」ノ八日間人民ハ聖堂ヨリモ競馬場ニ多ク集ルガ故ナリ。觀劇ノ爲ニ定メタルノ日ニシテ若シ祭日ト衝突スルハ之ヲ改メ「ハリストニアニ」ハ何人タリトモ強テ此ノ觀場ニ入ラシムベカラズ。

第七十三條 凡ソ教衆ニシテ諸主教ノ裁判ニテ何等カノ犯罪ノ爲ニ罪定セラレタル者ハ其位ノ如何ニ拘ハラズ其ノ務メシ所ノ教會又ハ其他何人ニモ其ノ罰ヲ辨護セシムルコトヲ許スベカラズ乃チ罰金若クハ名譽ノ剝奪ヲ以テ之レガ罰ト定メ且ツ此事ニ關シテハ年齢若クハ性ヲ推諉ノ口實トシテ採用スベカラザルヲ命スルヲ規定セラレシコトモ亦宜ク請願スベシ。

第七十四條 又凡ソ戲技ノ所爲ヲ捨テ「ハリストス」教ノ恩寵ニ就キ其ノ不淨ヲ免カレント欲スル者アレバ此ノ如キ人ヲ前業ニ誘ヒ若クハ強フルコトヲ許スベカラザル事モ亦宜ク請願スベシ。

第七十五條 教會ニ於テ釋放シテ自由ト爲スコトニ就キ若シ「イタリヤ」ニ於ケル我が同役者ノ之ヲ實行スル事確メラル、ニ於テハ我等ハ彼等ヲ信用スルノ故ニ因リ其ノ確カメタル事ヲ遣ハサレシ所ノ代表者ニ公然開陳シタル上疑團ナ

ク彼等ノ成規ニ從テ行フベシ凡ソ信仰ニ適當シ教會ノ整理及靈魂ノ救ヒノ爲メ行ハレ得ベキモノハ我等モ亦皆嘉ミシテ之ヲ主ノ前ニ採用スベシ。

第七十六條 主教アウリリイ曰ク「イタリヤ」ニ派遣セラレタルノ代表者ニ久シキ以前ニ諸主教ノ裁定ニテ至當ニ有罪トセラレタルエキテイノ事モ亦注意セズニ放棄シ置クベカラザル事ト思惟ス。若シ派遣セラレシ者彼ノ地ニ於テ之ニ遭テ遇スルコトアラバ此ノ我ガ兄弟ハ教會ノ整理ヲ保護センガ爲メ當然ニ且ツ該地ニ於テ可能丈ケ彼ヲ排斥センコトヲ慮ルベシ。諸主教答テ曰ク此提議ニハ至極同意ナリ。

第七十七條 「ドナト」黨ト温和ノ交際ヲ爲ス事ニ就テ、我等ハ凡ソ教會ノ利益ヲ増進スルヲ得ベキ事ヲ探究審査セシ上神ノ神ノ導キト勸メニ從ヒ前記ノ人々ハ假令穩カナラザルノ異論ヲ唱ヒ主ノ體ノ一致ヨリ遠ザカルコト甚シト雖モ温和平穩ニ之ヲ遇スルヲ至當ト認メタリ。此ノ如ク我等ノ力ノ及ブ限リ凡ソ「アフリカ」諸州ニ於テ彼等ノ交際ト親切ニテ籠絡セラレタル者ニ彼等ガ如何ニ懸然タル迷謬ニ束縛セラレタルカヲ充分ニ知ラシムベ

シ我等柔和ヲ以テ異論者ヲ集ムルハ使徒ノ言フガ如ク神或ハ彼等ニ悔改ノ心ヲ賜ヒテ之ニ眞理ヲ識ラシメ而シテ彼等ハ惡魔ニ其旨ヲ行ハシメントシテ擒ニセラレタルノ網ヲ脱スルニ至ラン(提摩太後書三章廿五、廿六節)

第七十八條 此公會ヨリアフリカノ諸有司ニ書ヲ呈スルコトヲ議決シ若シ都府ニ於テ主教ノ權利ノ侮辱セラレ、場合ニハ公教會一般ノ母ヲ幫助スルコトヲ彼等ニ請フ事ヲ至當ト認メタリ即チ彼等ガ有司タルノ全權配慮並ニハリストス教ニ對スルノ熱心ヲ以テ諸所ニ於テ「マクシム」党ノ教會ヲ掠奪シタル所爲ニ就キ及ビ彼等ニ由リテ斥ケラレタル者ノ事ニ就キテ審査シ且ツ該事件ニ關スル諸人ノ信ズベキ報告ハ必ズ國事ノ記録書ニ記入スルヲ命センコトヲ請フベシ。

第七十九條 「ドナト」党ノ教役者ヲ公教會ノ教衆ニ受クル事ニ就テ、

最後ニ我等ノ兄弟及ヒ同主教輩就中前記ノ尊敬スベキ兄弟及我等ノ同役者アナスタシイノ司長タル使徒ノ寶座ニ向テ彼レノ知ルガ如キアフリカノ至大ノ需要ニ由リ教會ノ平和及利益ノ爲メ「ドナト」党ノ教役者中其心ヲ改メ公教會ノ

一致ニ歸セント欲スル者ハ當所ノ教會ヲ治理スル公教會各主教ノ考慮ト意旨ニ由リテ其事若シ「ハリステイア」ニシテ和平ニ益スルニ於テハ其ノ神品ノ位ニ採用スベキノ書ヲ送ルベキ事ヲ議決セリ。既往ニ於テモ此岐教ヲ斯ノ如ク處置シタルコトハ人ノ知ル所ナリ會テ此迷謬ノ起リタルアフリカノ多クノ且ツ概テ總テノ教會ノ例ハ之ヲ證ス。斯ク行フハ海外ニ在ル諸國ニ於テ此事件ニ關シテ設ケタル公會ヲ犯スニ非ズ乃チ此ノ如クニシテ公教會ニ移ラント欲スル者ヲ利センガ爲ニ守ルモノニシテ彼等ノ合同ニ如何ナル障礙ヲモ立テザランガ爲メナリ。凡ソ己ノ住居ノ地ニ於テ切實ニ公教會ノ合同一致ニ盡力幫助シ現ニ兄弟ノ靈魂ノ益ヲ爲ス者アラバ海外ニ於ケル公會ニ於テ彼等ノ位ニ關シテ議定シタルノ制規ハ之ガ妨ケト爲ルベカラズ何トナレバ救贖ハ何人ニモ壅塞セラレ、所ナケレバナリ。即チ「ドナト」党ニ接手セラレタル者若シ改心シテ公教ニ就カント欲セバ海外ニ在リタル公會ノ制規ニ從テ其位ノ儘ニ受ケラル、ノ權ヲ失フコトナク乃チ夫ノ公教會ノ合同一致ニ幫助シタル者ハ宜ク受ケラルベシ。

第八十條 「ドナト」黨ト和睦協議ノ爲メ使節ヲ設クルコトニ就テ、

次ニ此議事ノ後、ハリスティアニシテ救ヲ成スニ欠クベカラザル和平及一致ヲ報ズルガ爲メ我等ノ中ヨリ代表者ヲ「ドナト」黨ノ主教アレバ其主教ニ又ハ彼等ノ俗人ニ遣ハスベキ事ヲ議決セリ。「ドナト」黨ガ公教會ニ對シテ毫モ敬重スベキノ理由ヲ有セザルコトハ此代表者ニ因リテ諸人ニ明カナルニ至ルベシ。殊ニ之ガ確乎タル證トシテ都府ノ記録ニ因リテ彼等自ラ己ノ分派者タル「マクシム」黨ヲ如何ニ待遇シタルカヲ諸人ニ明カニスベシ。此事件ニ於テ彼等若シ知ラント欲セバ彼等ガ會テ教會ノ一致ヨリ分離シタルノ不正ナルハ今「マクシム」黨ガ彼等ノ絶叫スル如ク不正ニシテ彼等ヨリ分離シタルト異ナラザルコト神ヨリ彼等ニ示サレタリ。彼等ガ定罪セシ所ノ者ノ中ヨリ其後自己ノ協議ノ現然タル權ヲ以テ或者ヲ其ノ神品ノ位ニ受ケ彼等ノ會テ定罪シ及ビ除黜シタル者ノ執行シタル洗禮ヲ公認セリ。彼等ハ斯ク「ドナト」黨ノ益ヲ謀ラントシテ其ノ已ムヲ得ザルニ依リ平和ヲ以テ受ケタル者ト交際スルヲ以テ自ラ汚サレタリト思ハズ而シテ我等即チ地ノ極ニ至ルマデ蔓延シタル公教會ニ反抗シ會テ自ラ定罪セシ者ト不淨ノ交際ヲ爲スヲ以テ自ラ己ヲ汚ガス所以ヲ悟ル能ハズ全世界ニ蔓延

シタル教會ノ平和ニ如何ニ無智ノ心ヲ以テ抵抗スルヤハ之ヲ以テ證明セラレナリ。

第八十一條 主教、司祭及輔祭ハ其位ニ相當スル定規ニ循ヒ其ノ既ニ有スル所ノ妻ニ對シテ節制スベシト議定セリ。若シ之ヲ遵行セザルハ教會ノ位ヨリ斥ゾケラルベシ。他ノ教役者ニハ之ヲ強フベカラズ。乃チ宜ク各教會ノ習慣ヲ遵行スベシ。

第八十二條 凡ソ主教ニハ己ノ教座ノ樞要ノ場所ヲ棄テ、其ノ教區内ニアル他ノ教會ニ移ルヲ許サズ。或ハ制限外ニ自己ノ業ヲ營ミテ己ノ資座ノ爲ニ慮リ及ビ盡力スルコトヲ廢スベカラズト議定セリ。

第八十三條 小兒ニ關シテ若シ確然領洗シタリト明言スル確實ノ證人ナク而シテ彼等自ラ其ノ幼年ナルニ由リ之ニ授ケラレタル機密ノ事ニ就テ確乎タル答ヲ爲ス能ハザルハ毫モ躊躇スルコトナク之ニ洗禮ヲ施シ此ノ如キ疑ヲ以テ彼等ニ此ノ聖機密ニテ淨メラル、事ヲ失フコトナカラシムベシト議定セリ。我等ノ兄弟マウリタニヤノ代表者ハ此ノ如キ小兒ヲ夷民ヨリ購フコト多キガ故

此議ヲ提出セリ

第八十四條 又敬拜スベキ「パス」祭日ハ公會議事録ノ附録ヲ以テ衆人ニ公告スベキ事ト議定セリ。公會ノ日ハ「イッボン」公會ニ於テ定メタルノ日即チ八月二十一日ヲ以テ定日トスベシ。且ツ此事ヲ諸州ノ首タル者ニ報シ其州内ニ公會ヲ召集スルキハ該日ヲ以テ侵スベカラザル日ト爲サシムベシ。

第八十五條 又凡ソ臨時治理スル主教ニハ民間ノ紛議爭論ノ故ニ因リ其ノ臨時ノ治理者トシテ托セラレタル寶座ヲ保持スルコトヲ許サズ乃チ一年ノ間ニ人ノ爲メ主教ヲ選舉スルコトヲ慮ルベシト議定セリ。若シ此事ヲ等閑ニ付スルトキハ一年經過セシ後ニ他ノ臨時治理者ヲ選フベシ。

第八十六條 貧困者壓虐ヲ蒙リ不斷ニ愁訴ヲ以テ教會ヲ煩ハスニ因リ彼等ノ爲メ富者ノ壓虐ヲ防グ者ヲ選ビ主教ノ監督ニ付セラレンコトヲ國王ニ請願スヘキコトヲ衆員一同議決セリ。

第八十七條 公會ノ開設スル毎ニ老衰疾病其他如何ナル重要ノ事故ニモ妨ケラレサルノ主教ハ適宜之ニ臨席シ而シテ諸主教ハ各首タル主教ニ其ノ何州ヨリ

來リタルヤヲ報告シ二箇所或ハ三箇所ニ會合シテ其ノ各私會ヨリ當選者ハ順次必ス公會ノ期日ニ來會スベシ。若シ往々之レ有ル如ク難事ノ多キ故ニ因リテ來會スル能ハザル時己ノ首タル主教ニ其ノ遭遇シタル妨碍ヲ具申セザルニ於テハ唯己ノ教會内ニ於テ親與ニ受ケラル、ノミヲ以テ満足セザルベカラズ。

第八十八條 ウイラレ テンティヤ ノクレスコ ニイノ事ニ就キ衆員左ノ如ク議定セリ、向後スミディヤノ首タル主教ニ其書ヲ以テ前記ノクレスコ ニイニ來會スベキヲ諭シ最近ノアフリカノ大公會ニ遲延セスシテ臨席スルコトヲ勸告スベキヲ報スベシ。若シ怠リテ來會セザルハ彼ニ對シテ裁判ヲ宣告セラル、モノト知ルベシ。

第八十九條 イッボン教會ヲ治理者ナクシテ放棄スルコトハ永ク之ヲ緩慢ニ付スベカラズ而シテ該處ノ教會ハエキテイト不合法ノ親與ヲ絶チタル者ノ權内ニアルガ故當公會ヨリ主教リギン、アリビイ、アウグスティン、マテールン、フエアシイ、エウ、ディ、プラキアン、ウルワン、ワレリイ、アムウ、ウイ、ホルト、ナト、クオド、ウルト、デイ、オノラト、ヤンヌ、アライ、アフト、オノラト、アムベリイ、ウイクトリアン、エワッゲル、ロガ

テアン等ヲ遣ハシ非難スベキ剛腹ニ由リテエキテイノ遁走ヲ待ツ者ヲ集メテ之ニ諭シ共同ノ祈禱ヲ以テ彼等ニ主教ヲ立ツベキ事ト議定セリ。若シ彼等ニシテ和睦ヲ爲スヲ欲セズトモ斯ク久ク主教ナクシテ放棄セラレタル教會ノ利益ノ爲メ司長ヲ立ツルニ當リ其ノ選舉ニ妨害ヲ爲スベカラズ。

第九十條 又議定セシコト左ノ如シ。若シ教衆中ニ在ル者告訴セラレ而シテ罪情告白セラル、キハ一ハ教會ニ對スルノ誹謗ヲ避ケンガ爲メ一ハ教衆ノ位格ヲ保タンガ爲メ(彼等ニ寛宥ヲ垂ル、モ之ガ爲メナリ)一ハ異端者及ビ異教人ノ傲慢ナル冷笑ヲ避ケンガ爲メ若シ當然ニ己ノ事ヲ辨護シ己ノ無罪ノ證ヲ舉ケント欲セバ一年ノ間ニ之ヲ爲スベシ而シテ其間親與ヲ絶タルベシ。若シ一年ノ間ニ己ノ事ヲ潔白ニスルヲ怠ラバ其後ハ如何ナル歎願タリトモ彼等ヨリ採用スベカラズ。

第九十一條 又制定セシコト左ノ如シ。若シ他ノ修道院ヨリ何人カラ受ケテ之ヲ教衆ニ登庸シ若クハ己ノ修道院ノ院長ト爲サント欲セバ之ヲ行フノ主教ハ他ノ者トノ親與ヲ絶タレ獨リ己ノ被牧者トノ親與ヲ爲スニ止マルベシ。而シテ其

人ハ教衆トモ爲ラズ院長トモ爲ルベカラズ。

第九十二條 又議定セシコト左ノ如シ。主教ニシテ親戚又ハ親戚ニアラザルノ異端者若クハ異教人ヲ己ノ相續人トシテ教會ヨリモ之ヲ重ンズルキハ死後ニモ「アナフエマ」ヲ宣告セラレ其名ハ決シテ神ノ神品ニ由リテ宣言セラレザルベシ。假令遺言セスシテ逝去シタリトノ事モ彼ヲ辨護スルノ口實ト爲ス能ハズ。彼ハ主教ニ立ラレタルガ故ニ己ノ職掌ニ應ジテ適當ニ己ノ財産ノ處分ヲ爲サマルベカラズ。

第九十三條 又教會ニ於テ行フ所ノ放釋ニ就テ國王ニ請願スヘキ事ト議定セリ。第九十四條 又制定セシコト左ノ如シ。凡ソ田畑又ハ公園ニ致命者ノ記憶ノ爲メナリトシテ建テタルノ祭壇ニシテ致命者ノ屍若クハ不朽體ノ部分ヲ藏セザルモノハ之ヲ毀ツベシ。但能クスベクハ當所ノ主教之ヲ毀ツベシ。若シ民ノ爭亂ニ由リテ之ヲ爲ス能ハザルキハ少クトモ民ニ其ノ場處ニ集會スベカラザル事ト眞信者ガ此ノ如キ場處ニ如何ナル妄信ヲモ附會スベカラザル事ヲ諭スベシ。致命者ノ屍若クハ不朽體ノ部分ノアル所若クハ信據スベキ古傳ニ依リテ彼等ノ

住所若クハ財産アリタル處若クハ受難ノ場處ニ於ケルノ外決シテ致命者ノ記
憶ヲ行フベカラス又孰レノ場所タルヲ論セズ或人々ノ夢又ハ妄想的ノ默示ニ
基ツキテ立テラレタルノ祭壇ハ全然之ヲ排棄スベシ。

第九十五條 又偶像崇拜ノ遺跡ハ獨リ彫刻物ニ於ケル者ノミナラズ森林若クハ
樹木等如何ナル場所ニモ諸般ノ方法ヲ以テ絶滅セラレンコトヲ至榮ノ王ニ請
願スベキ事ト議定セリ。

第九十六條 諸主教曰ク若シ公會ニ於テ公書ヲ書スル事ヲ議決セラル、并ハ此
寶座ニ長タル尊敬スベキ主教ガ諸主教ノ名ヲ以テ其ノ議決セシ事ヲ書シテ署
名スベシドナト黨ノ事ニ關シテアフリカ諸州ニ遣ハサルベキ代表者タル諸主
教ニハ之ニ委嘱セラレタル依託ノ權限ヲ定メタル書ヲ付與シ此權限ニ超ユル
コトナカラシムベシ。

第九十七條 今我等ノ兄弟及同役者ガ我等各神ニ定メラレタルノ位ヲ認メ他人
ノ後ニ立テラレタル者ハ前ニ立テラレタル者ニ一步ヲ譲リ彼等ノ意ヲ願ミス
シテ何事ヲモ行フベカラズト注意セシ事ハ總体ニ關スルノ事ナルニ因リ我が

想起セシ所ノ事ヲ提議ス即チ前ニ立テラレタル者ヲ蔑視シテ無禮ノ舉動ヲ爲
ス者ハ公會宜ク禮ヲ守リ之ヲ制止スベシ。ヌミヂヤノ第一寶座ノ主教ザンティッ
曰ク列座セル兄弟皆我等ノ兄弟及ヒ同役者アウリリイノ説ヲ聽キタリ之ニ對
シテ答フル所如何。主教デアテイミイ曰ク古人ノ意見ヲ以テ定メタル所ノモノハ
汝ノ同意ヲ以テ提議セラル夫ノカルフゲン教會ノ往時ノ諸公會ノ記錄ニ載ス
ル所ノモノハ汝ノ同意ニテ全ク確カメラレ衆宜ク之レヲ守ルベシ。諸主教曰ク
此成規ハ古時及ヒ現時ノ諸父ノ遵守スル所タリ我等モ亦神ノ旨ニ依リテ之ヲ
遵守セン。然レモヌミヂヤノ古傳及ビ諸寶座ノ記錄ニ基ツキテヌミヂヤ及マウ
リタニヤノ首タル主教ノ權利ハ之ヲ守ルベシ。次ニ諸寶座ノ記錄並ニヌミヂヤ
ノ最初ノ制規ガ第一ノ寶座及ビ首府コンスタンティンニモ保存セラルベキ事ハ
此公會ノ決議ニ署名セシ諸主教ノ希望スル所ナリ。

第九十八條 クウラドウルトデイ及ケンテリアトノ事ニ就テ、
彼レノ對手ノ願ニ依リ我等ノ公會ニ彼ヲ參會セシムルコトニ關シ彼ガ諸主教
ノ前ニ於テ事件ヲ裁決セラル、ヲ欲スルヤ否ヤヲ尋問セラレシ時初メ之ヲ諾

シ次日ニ至リ之ヲ欲セズト答ヘテ去レリ故ニ諸主教ハクウツドウルトデイノ事件ノ局ヲ結ブニ至ルマデハ何人タリトモ彼ヲ親與ニ受クベカラザルヲ可トス。何トナレバ彼ニ關スル事件ノ決定スルニ先ダテ彼ヨリ主教職ヲ褫奪スルハ凡ソ「ハリステイア」ニタル者ノ好マザル所ナルベキガ故ナリ。

第九十九條 ワゲンノ主教マクシミアンニ就テハ公會ヨリ彼及被牧者ニ書ヲ送リ彼ヲシテ主教職ヲ去リ彼等ヲシテ己ノ爲メ他ノ者ヲ求メシムベシト議定セリ。

第一百條 又議決セシコト左ノ如シ自今以後アフリカ諸州ニ於テ按手セラル、者ハ按手スル者ヨリ「コンスル」即チ年日ヲ記シ彼等ノ手ニテ署名シタル書ヲ受ケ少者長者ニ就テ決シテ疑ヒノ起ラザラン事ヲ務ムベシ。

第一百一條 又議定セシコト左ノ如シ凡ソ一教會ニ於テ假令一回タリトモ誦經セシ者ハ他教會ニテ教衆ニ採用セラルベカラズ。

第一百二條 我等各己ノ府内ニ於テ或ハ單獨ニテ「ドナト」黨ノ領袖ト交渉シ或ハ他ノ近鄰ノ主教ト合同シ以テ凡ソノ都府及場所ニ於テ該地ノ有司若クハ有力者

ノ斡旋ニ依リテ彼等ト交渉スベキコトハ汝等皆相約シテ假定セリ。此事衆意ニ適スルヤ宜ク宣言スベシ。諸主教曰ク衆意ニ適ス。

第一百三條 公會ノ主教（此レモナリ此公會ノ議長タルカ）曰ク尊敬スベキ汝等ヨリ「ドナト」黨ニ送ルベキ招待文ハ宜ク之ヲ聽キ取リ記録ニ記入シテ彼等ニ送リ後又彼等ノ答辭モ汝等ノ記録ニ由リテ我等ニ公示セラルベシ。

我等ハ汝等ノ悔改ヲ見テ喜バント欲シ我ガ適法ノ公會ヨリ遣ハサレテ適法ニ汝等ト交渉セントス。蓋我等ハ「和ヲ行フ者ハ福ナリ彼等ハ神ノ子ト稱ヘラル、ヲ得ベケレバナリ」（馬太五章九節）ト云ヘル主ノ愛ヲ知レバナリ。彼ハ又預言者ヲ以テ我等ノ兄弟ト稱セラル、ヲ欲セザル者ヲモ我ガ兄弟ナリト唱フベキヲ諭セリ。故ニ汝等ハ和ヲ好ムノ愛情ヨリ出テタル我等ノ勸告ヲ蔑視スル勿レ。汝等苟モ眞理ヲ存スト思ハ、之ヲ辯護スルニ躊躇スル勿レ即チ汝等公會ヲ召集シテ汝等ノ中ヨリ汝等ヲ辯護スルノ任ヲ托スベキ人ヲ選フベシ然ラバ我等モ亦斯ク行ハン即チ時日ヲ定メ一定ノ場所ニ於テ汝等ノ中ヨリ選バレタル者ト凡ソ汝等ヲ我等トノ親與ヨリ隔離スルモノト爲リ質問サルベキ箇條ヲ温和ニ審査シ我

等ノ主神ノ佑助ニヨリ假令後レタリトモ浸潤セル迷謬ノ局ヲ結ビ微弱ニシテ
 識力全カラザル靈魂ヲシテ人間ノ勸メニ從ヒ神ヲ冒瀆スル隔離ノ中ニ滅亡セ
 シメザランコトヲカムベキ人ヲ我等ノ公會ヨリ選拔スベシ蓋シ汝等愛情ヲ以
 テ之ヲ容レバ真理ノ現ハル、コト易ク若シ之ヲ爲スヲ欲セザレバ汝等ノ不信
 ハ忽チ暴露セン。

此文案ノ誦讀セラレタル後諸主教曰ク全ク同意ナリ斯ク行フベシ。

第四百條

カルフアゲン公會ヨリ至榮ニシテ最敬虔ナル君主ニ使命ヲ受ケタル兄
 弟フエアシー及エウグデイニ予フルノ訓諭彼等主ノ寵佑ニ由リテ最敬虔ナルノ王
 ニ謁スル時ハ昨年ノ公會ノ時ドナト黨ノ長老輩ヲ其府ノ報ヲ以テ全ク隨意ニ
 集會ニ招キ若シ己ノ説ヲ辨護スルノ勇氣アラバ己ノ中ヨリ適任ノ人若干ヲ選
 ビ以テ温和ニ我等ト討論セシメハリストス教的ノ柔和ヲ以テ己ノ持スル所ノ
 真理アラバ確然之ヲ表示シ古來過去ノ時代ニ輝キタル公教會ノ眞實ヲシテ今
 亦抗論者ノ紛乱執拗ニ由リテ發輝セシメンコトヲ計リタルヲ奏上スベシ然レド
 モ彼等ハ概テ皆失望ニ充タサレタルニ由リ一モ答辨スルノ勇氣ナカリキ此ノ

如ク主教ノ盡スベキ温和ノ處置ハ彼等ニ對シテ盡サレタルモ彼等ハ眞理ニ對
 シテ答辨スル能ハズシテ無智暴虐ノ舉動ニ出テ多クノ主教ト多クノ教役者ト
 ヲ讒訴壓虐シ(俗人ノ事ハ措テ言ハス)或教會ニ闖入シ又或教會ニハ闖入セント
 企テタルニ因リ敬虔ナル腹ヲ以テ彼等ヲハリストスニ生ミ信ノ堅固ヲ以テ彼
 等ヲ訓育シタルノ公教會ヲ其籌謀ヲ以テ防禦シ其ノ敬虔ナル時代ニ於テ暴虐
 ノ人々ニ對シ説諭ヲ以テ悔改セシムルコト能ハズンバ威喝ヲ以テ無力ノ民ヲ
 抑壓セザラシメンコトヲ慮ルベキハ王ノ仁慈ヲ以テ竭スベキ所ナリ蓋シ背教
 者ノ忌ムベキ集會ガ何事ヲ行フヤハ人ノ知ル所且法律ヲ以テ屢、公布セラレタ
 ル所ナリ是レ前記ノ最敬虔ナル君主ノ命令ヲ以テ亦屢、罪定セラレタリ故ニ該
 背教者ノ狂妄ニ對シテ我等ハ異常ニ非ズ且ツ聖書ニ其例ナキニアラザル神佑
 ヲ予ヘラレンコトヲ請ハン蓋シ使徒ノ眞誠ノ行實ニ示サレタル如ク使徒パウロ
 ハ暴徒ノ謀計ヲ制スルニ兵ノ助ケヲ以テセリ故ニ我等モ各都府及ビ各人ノ
 管轄ニ接近スルノ各處ニ在ル教會ノ公教役者ニ速ニ警護ヲ予ヘラレンコトヲ
 請ハン又之ト備ニ最敬虔ナル君主ニ幸福ノ記憶ヲ受クル彼等ノ祖先ヲ

イノ發布シタル法律即チ按手ヲ行ヒ及ビ按手ヲ受クルノ異端者並ニ其家ヲ彼等ノ集會ニ供シテ發覺セラレタルノ家主ヨリ金拾フントラ徴收スルノ法律ヲ施行セラレンコトヲ請願スベシ且須ク夫ノ公教會ノ事ヲ慮ルノ任ヲ受クル者ヲ讒誣シ而シテ彼等ニ之ガ反證ヲ提供セラレタル者ニモ該法律ノ効力ヲ及ボスベキヲ確定スルノ命ヲ發シ以テ夫ノ永遠ノ罰ヲ思念スルモ猶ホ己ヲ清メ其非ヲ改ムルコトヲ等閑ニ付スル者ヲシテ此恐怖ヲ以テナリトモ岐教ヲ唱道シ異端ノ無智ヲ避ケシムルヲ致スベシ又按手ノ時或ハ遺言ニ依リテ何モノカヲ取り又ハ讓ルノ權利即チ己ノ無智ナル偏見ニテ眩惑セラレドナト党ノ迷謬ヲ固執セント欲スル者ヨリハ何モノカヲ讓リ又ハ自己ノモノヲ取ルノ權利ヲ異端者ヨリ褫奪スル現行ノ法ヲ彼等ノ敬虔ニテ回復セラレンコトモ亦之ヲ請願スベシ又一一致及平和ノ事ヲ慮リテ自ラ改メント欲スル者ニハ前記ノ法律存在スルモ嗣産ヲ受クベク且假令彼等ガ未ダ異端ノ迷謬ヲ脱セザル時贈物若クハ嗣産トシテ受ケタル者ト雖モ之ヲ受クルヲ釋スベシ但シ裁判ニ呼ビ出サルニ及ビ公教會ニ轉スルヲ必要ト認メタル者ハ此例外トス蓋シ此ノ如キ輩ハ天

ノ罰ヲ畏ル、ガ故ニ非ズ乃チ此世ノ利益ヲ渴望スルヨリシテ公教會トノ一致ヲ望ミタリト見做サ、ルヲ得ズ此等ノ外各州ノ有權者ヨリ援助ヲ受クルコト必要ナリ然レドモ代表者ニシテ猶ホ他ニ教會ノ利益ヲ増進スト認ムルモノアラバ之ヲ決行實施スルノ全權ヲ付與ス。

第一百五條 獨リカルフアゲンニ於テノミ合同行ハレタルニ因リ諸有司ニ書ヲ送リ該有司ヲシテ他ノ教區及ビ市府ニ於テモ合同ノコトヲ慮ラシムベシ。カルフアゲン教會ヨリ至アフリカ教會ノ名ヲ以テドナト党排斥ノ爲メ感謝ノ意ヲ述ベタル諸主教ノ書ヲ王宮ニ上ルベシ。

第一百六條 必要ニ依ルノ外總体全般ノ公會ヲ開クベカラザルコトニ就テ、向後毎年兄弟ヲ煩ハスノ必要ナク乃チ何處ヨリ此實座ニ來ルモノニセヨ公書ニテ總体即チアフリカ全体ノ必要アルニ會セバ必要ト便宜アル所ニ公會ヲ開設スベキ事ト議定セリ。總体ニ關セザル事件ハ各州ニ於テ特別ニ裁決スベシ。

第一百七條 隨意ニ選定シタル審判者ヨリ事件ヲ移スヲ禁スルコトニ就テ、若シ事件ヲ高等ノ裁判ニ移スコトアルニ際シ初審ニ不満足ノ者其ノ被控訴者

ト共ニ審判者ヲ選定スル時ハ其後彼等ノ中孰レノ者モ其事件ヲ他ノ裁判ニ移
スコトヲ許サズ。

第百八條 教會ノ實行者ノコトニ就テ

此外教會ノ諸般ノ需要ニ應ジテ五人ノ實行者ヲ選立シ之ヲ各州ニ配置センコ
トヲ請願スベキヲ議定セリ。

按スルニ實行者ノ職掌ハ主治者及審判者ノ判決ヲシテ違背若クハ抗強ニ因リテ實
行セザルコトナカラシメンコトヲ勉ムルニアリタリ

第百九條 又諸教區ヨリ名代トシテ派遣セラル、使節ウイケンテイ及フルトッナイ
アンヲシテ至榮ナル國王ニ學識アルノ「エクディク」ヲ立テ之ヲシテ訴件ヲ辨護ス
ルヲ以テ其職ト爲サシメ教會ノ事件ニ就テ仲裁ノ任ヲ負ヘル各教區ノ司祭ト
等シク必要ノ事アルニ會セバ非難ヲ排斥シ並ニ必要ノ條件ヲ提出スルガ爲メ
自由ニ裁判所ニ入ルヲ得セシメンコトヲ請願セシムベキ事ト議定セリ。

第百十條 推選ニ因リテ王宮ニ派遣セラル、代表者ハ自由ニ代表權ヲ有スベキ
事ト議定セリ。

即チ管ニ公會ヨリ之ニ命セラレタル所ノ事ノミナラズ其他凡ソ教會ノ爲ニ利アリ
ト認ムル所ノ事ヲ具申スベキコトヲ許サレタルナリ

第百十一條 又制定セシコト左ノ如シ、未ダ會テ己ノ主教ヲ有セザリシ人民ニハ
其州ノ公會及ビ首タル主教ノ決議ト該教會ヲ管理セル主教ノ承諾ヲ得ルニ非
ザレバ決シテ之ヲ與フベカラズ。

第百十二條 「ドナト」党ヨリ歸正スル人民及ビ教區ニ就テ、
「ドナト」党ヨリ歸正スル人民ニシテ公會ノ意ニ依ラズシテ立テラレタルノ主教
ヲ有スル者ハ無論之ヲ有スルコトヲ得可シ、主教ヲ有セシ民ニシテ其死後己ノ
主教ヲ有スルヲ欲セズ相當ノ禮ヲ以テ或ル他ノ主教ノ教區ニ加ハラント欲ス
ル者ニハ之ヲ拒ムベカラズ、又合同ノ詔ノ發布以前ニ己ノ管理ニ屬セシ人民ヲ
公教ニ歸セシメタル主教ハ須ク彼等ノ上ニ權ヲ保ツベシト定メタリ、合同ノ詔
ノ後及其以後ニ於テハ教會及其所領並ニ凡ソ該教會ニ當然ニ屬スルト見做ス
ベキモノハ異端者ノ公教會ニ歸スルト歸セザルトニ拘ハラズ其占領セシ地方
ニ在ル公教會主教ノ權内ニ歸スベシ、若シ詔令後ニ其中私シタルモノアラバ之

ヲ還付スベシ

第百十三條 主教マウレンティ曰ク至聖ノ老人サンクティ、至聖ナルアウグスティン、フロレンティン、フエアーシイ、サムプフィヒ、セクンド、及ボシー、デイヲ審判者ニ任命センコトヲ請フ、願クハ予ノ爲ニ之ヲ定メラレンコトヲ命ゼヨ、聖公會ハ其ノ請フ所ノ審判者ヲ任命スルコトヲ諾シ、而シテ制規ノ數ヲ補フニ必要ナル他ノ審判者ハ老人サンクティ、新ゲルマニヤノ老人ヲ自ラ選定セシムル事トシタリ

新ゲルマニヤノ老人等ノ主教マウレンティニ對スル告訴ニ就キマウレンティ裁判ヲ受ケルガ爲メ公會ニ臨ミタルニ彼等ハ臨席セザリキ、公會ハ彼等ヲ罪定スベキ者ト認メタルモ、教會ノ寛典ニ依リテ之ヲ宣告セズ、該主教ノ附屬セシ地方ニ於テ審判ヲ行フ事トセリ、公會ハ乃チ此一私事ニ由リテ主教ニ對スル裁判ヲ組成スルノ手續ヲ示ス所ノ規則ヲ定メタルナリ、

第百十四條 ロマ及アレキサンドリヤ教會ヲ和合スルコトニ就テ、

ロマ教會トアレキサンドリヤ教會ノ紛争ニ就テハ兩教會互ニ主ノ誠メタル平和ヲ守ルベキコトヲ至聖ナル「ババイン」ノケンティニ書スベシト議定セリ、

第百十五條 福音及使徒ノ教ニ循ヒ妻ニ棄テラレタル者モ又夫ニ離セラレタル者モ他人ト配偶セズ乃チ或ハ其ノ儘ニシテ居リ或ハ互ニ相和スベキ事ト制定セリ、若シ之ヲ蔑如スル者アラバ強テ痛悔セシムベシ、此事ニ關シテ詔令ヲ發布セラレンコトヲ請願スルヲ必要トス、

第百十六條 又制定セシコト左ノ如シ始メノ祈禱ト終リノ祈禱並ニ奉獻ノ祈禱或ハ按手ノ祈禱ニ論ナク孰レモ公會ニ於テ確定セラレタル所ニ循テ行フベク決シテ他ノ教理ニ反スルモノヲ獻ゼス乃チ宜ク光明ナル人々ノ編纂シタルモノヲ誦スベシ、

第百十七條 教衆ノ者ニシテ世俗ノ裁判所ニ於テ己ノ事ヲ審理セラレンコトヲ國王ニ請フ者アラバ其名譽ヲ剝奪セラルベシ、若シ又主教ノ裁判ヲ受ケンコトヲ國王ニ請フ者アラバ決シテ之ヲ妨グベカラズト制定セリ、

第百十八條 アフリカニ於テ教會ノ親與ヲ絶タレタル者ニシテ海外ニ潜行シ以テ親與ニ受ケラレントスル者ハ教衆ヨリ除黜セラルベシ、

第百十九條 議定セシコト左ノ如シ若シ王宮ニ行カント欲スル者アラバロマ教

會ニ遣ハサル、免許狀中ニ此事ヲ記入シ而シテ彼所ヨリハ更ニ王宮ニ行クノ
 免許狀ヲ受クベシ。故ニ只羅馬マデノ免許狀ヲ受ケタル者其ノ王宮ニ至ルベキ
 所以ノ事故ヲ明言セズシテ直接王宮ニ至ラント欲セバ親與ヲ絶タルベシ。若シ
 又羅馬ニ於テ俄ニ王宮ニ至ルノ必要生ゼバ其事故ヲ羅馬ノ主教ニ申出デ該
 主教ノ書ヲ携ヘ往クベシ。首座若クハ其他ノ主教ヨリ其ノ教衆ニ予フル所ノ
 免許狀ニハ「パスハ」ノ日ヲ記入スベシ。若シ其年ノ「パスハ」ノ日未ダ知レザル時ハ
 通例世間ノ記録ニ某ノ治世ノ後ニト記スルガ如ク昨年ノ「パスハ」ノ日ヲ記入ス
 ベシ。

第二百十條 又議定セシコト左ノ如シ此ノ尊ブベキ公會ヨリ遣ハサル、代表者
 ハ凡ソ「ドナイ」党及「エルリン」人並ニ彼等ノ妄信ニ對シテ有益ト認ムル所ノモノ
 ハ宜ク之ヲ光榮ナル諸王ニ請願スベシ。

第百廿一條 此公會ニ於テ主教ハ一人ニテ己ノ裁判ノ決定ヲ主張スベカラズト
 制定セリ。

此公會ノ議事ハ記録セラレズ是レ地方的ノ事ヲ審議スルニ止マリ一般ノ事ニ

關セザレバナリ。

茲ニ合輯サレタルノ規則ヲ制定シタル「カルファゲン」公會ナルモノハ一時開設ノ公會
 ニ非ズシテ「カルファゲン」主教ヲ議長トシテ毎年開設シタル「フリカ」諸主教ノ公會ノ
 繼嗣ナリ本條ニ所謂此公會トハ皇帝オノ「イ」ノ治世第七年ニ開設シタル年會ナリ
 記事ノ短簡ナルニ因リテ本條ノ趣旨充分明カナラズ「サルサモン」ノ説ニ本條ハ同カ
 「ルファゲン」公會第十一條規則ニ照シテ解釋スベキモノトス即チ主教ニ罪定セラレタ
 ル司祭其罪定ニ對シテ不滿意ナレバ主教學者獨リ自己ノ裁決ヲ主張シ之ヲ斷
 行セントセズ乃チ其事件ヲ全公會ノ審議又ハ規則ニ定メラレタル定數ノ主教ノ審
 議ニ付スベシト云フ事ナリ

第百廿三條 當時(前條規則制定後一)各人自由ノ意思ニ因リテ「ハリストス」教ノ德
 ヲ修ムベシトノ法律發布セラレタリ。

第百廿四條 「ベラギイ」及「ケレスティン」ノ異端ニ對スル會議
 聖公會ニ列席シ其名ト署名ノ記録ニ載セラレタル「カルファゲン」ノ諸主教ハ「ア
 ム」ガ神ニ不死ノ者トシテ造ラレタリト承認セリ。若シ初造ノ人「アダム」ガ死スベ
 キ者トシテ造ラレ彼ハ罪ヲ犯スモ將タ「サバル」モ肉體ニテ死スベク即チ其ノ

肉體ヲ脱出スルハ罪ノ爲メノ罰ニ非ズシテ天性ノ然ラシムル所ナリト云フ者アラバ「アナフェマ」ニ處セラルベシ。

第百廿四條 又議定セシコト左ノ如シ凡ソ少兒及母胎ヨリ生マル、嬰兒ニ領洗セシムルノ要ナシトスル者又ハ彼等罪ヲ赦サル、ガ爲メ領洗スト雖モアダムノ原罪ヨリハ再生ノ洗盤ニテ洗滌セラルベキモノヲ毫モ受ケ嗣カズ(此說ニ因レバ罪ノ赦ノ爲メ行フ所ノ洗禮ノ儀式ハ彼等ニ對シテ其本義ヲ以テ行ハレズ乃チ虛妄ノ意味ニテ施サル、モノト爲ルベシ)ト云フ者アラバ「アナフェマ」ニ處セラルベシ。何トナレバ使徒ノ所謂罪一人ニ由テ世ニ入り而シテ罪ニ由テ死來リ斯クシテ死ハルテノ人ニ及ブテ致セリ人皆彼ニ於テ罪ヲ犯シタレバナリ(羅馬五)トノ言ハ全地ニ洋溢蔓延シタル公教會ノ常ニ了解セシ如ク了解セザルベカラザレバナリ蓋シ未ダ自ラ何ノ罪ヲモ行フコト能ハザルノ小兒ト雖モ實ニ罪ノ赦ヲ得ンガ爲メ領洗シ再生ニ依リテ彼等ガ元ノ生レヨリ領ケタル所ノモノヲ淨メラル、ハ此ノ教則ニ基クナリ。

第百廿五條 又議定セシコト左ノ如シ凡ソ吾主イエススハリストスニ於テ人ヲ

義トスル神ノ恩寵ハ單ニ其ノ既ニ行ヒタルノ罪ヲ赦スノ効アルノミニシテ更ニ他ノ罪ヲ犯サザラシメンガ爲メ佑助ヲ予フルモノニ非ズト云フ者アラバ「アナフェマ」ニ處セラルベシ。蓋シ神ノ恩寵ハ管ニ行フベキ事ヲ知ラシムルノミナラズ更ニ我等ニ愛ヲ吹キ込ミ其ノ知ル所ノ事ヲ實行スルヲ得セシメントスルナリ。

第百廿六條 又吾主イエススハリストスニ因ル神ノ恩寵ニ由リテ罪ノ理解ハ吾

人ニ表顯シ吾人ヲシテ何ヲ爲スベク何ヲ避クベキヤヲ知ラシムルニ因リ我等ヲ助ケテ罪ヲ犯サシメザルモ我等ガ其ノ當ニ行フベシト知リタル所ノ事ヲ實行スルニ至ルノ愛ト力ハ之ヲ吾人ニ賜ハズト云フ者アラバ「アナフェマ」ニ處セラレベシ。蓋シ使徒ガ知識ハ驕ヲ致シ唯愛ハ德ヲ建ツ(哥林多前)ト云フヲ以テ見レバ吾人ノ驕ヲ致スコトニハ神ノ恩寵與カルモ德ヲ建ツルコトニハ與カラズト信ズルハ最モ不敬ノ至リナルベシ何トナレバ其ノ當ニ行フベキ所ノ事ヲ知ル事モ又德ヲ建ルノ愛ニ因リ知識ヲシテ驕ルヲ致サラシメンガ爲メ其ノ當ニ行フベキ所ノ善ヲ愛スル事モ均ク是レ神ノ賜ナレバナリ蓋シ神ハ人ノ智ヲ開

ク(聖詠九十)ト録セラレ又愛ハ乃チ神ヨリス(約翰第一卷四ノ七)トモ録セラレタリ。
 第百廿七條 又議定セシコト左ノ如シ若シ義トスル恩寵ノ吾人ニ賜ハリタルハ我等ガ自由ノ意思ニテ行フヲ得ベキモノヲ恩寵ニ依リテ容易ニ行フガ爲メニシテ即チ神ノ恩寵ヲ受ケズトモ吾人ハタトヒ不便宜ニモセヨ之ニ依ラズシテ神ノ誠ヲ行フヲ得タリト云フ者アラバ「アナフェマ」ニ處セラルベシ蓋シ主ハ誠ノ結果ヲ指シテ我ナケレバ行フニ便ナラズト云ハズシテ我ナケレバ能ク爲スナシ(約翰十卷五)ト云ヘリ。

第百廿八條 又聖使徒イヲアンノ若シ罪ナシト言ハバ則チ自ラ欺テ真理我儕ニ在ラズ(約翰第一卷一ノ八)トノ言ニ就テ左ノ如ク議定セリ若シ之ヲ眞實然ルガ故ニ非ズ乃チ謙遜ノ爲ニ罪ナシト言フベカラズト云フガ如ク解釋スルヲ當然ナリト思惟スル者アラバ「アナフェマ」ニ處セラルベシ蓋シ使徒ハ語ヲ繼テ若シ罪ヲ認メバ彼ハ乃チ忠信公義必ズ我等ノ罪ヲ赦シテ我等ヲ諸ノ不義ヨリ潔クス(同上)トノ言ヲ加ヘタリ是レ只謙遜ニ由ルニ非ズシテ眞實ニ之ヲ言フコトヲ明示スルモノナリ蓋シ使徒ハ若シ罪ナシト言ハバ則チ自ラ驕リテ謙遜我儕ニ在ラズト

云フヲ得ベキモ自ラ欺テ真理我儕ニ在ラズト云フ以上ハ是レ即チ自ラ罪ナシト言フ者ハ眞實ナラズシテ誑ル者ナリトノ意ヲ示スヤ明ナリ。

第百廿九條 又議定セシコト左ノ如シ若シ聖人ガ主禱ニ於テ我等ノ負ヲ赦シ給(馬太六卷十二)ト云フモ彼等ニハ既ニ之ヲ願フノ必要ナキガ故ニ己ノ事ヲ言フニ非ズシテ彼等ノ民ノ中ニアル他ノ罪人ヲ指ス者ナリトシ聖人ハ各自ラ我ニ我ガ負ヲ赦シ給ヘト云ハズシテ我等ノ負ヲ赦シ給ヘト云ヒ以テ此ノ義者ノ願ハ彼自身ヨリモ寧ロ他人ヲ指スモノナリト云フ者アラバ「アナフェマ」ニ處セラルベシ使徒イヤコフハ聖且義ナルモ我儕皆數罪ニ陥ルト云ヘリ(雅各三卷二)蓋シ皆ノ語ヲ加ヘタルハ是レ聖詠ニ爾ノ僕ト認ヲ爲ス勿レ蓋シ凡ソ生命アル者ハ一モ爾ノ前ニ義トセラレザラント云ヒ(聖詠百四十二)睿智者ソロモンノ祈禱ニ人トシテ罪ヲ犯サル者ナシト云ヒ(列王紀上八卷四十六)聖イオフノ書ニ彼レ各人ノ手ヲ封ジ各人ヲシテ其荏弱ヲ知ラシメントス(約百七卷七)ト云フノ言ト其意ヲ符合セシメントスルニ外ナラズ故ニ聖且義ナル預言者ダニイルモ祈禱ニ於テ屢我儕罪ヲ犯シ惡ヲ行ヒ云々(但以理九卷五)ト云ヒ以テ謙遜誠實ニ告白セリ而シテ或人々ノ解釋スル如

ク彼ハ己ノ事ヲ言フニ非ズシテ己ノ民ノ罪ヲ指シテ云フト思ハザラシメンガ
 爲メ彼亦此事ニ就テ我祈禱スル時我ガ罪及我ガ民ノ罪ヲ我ガ主神ノ前ニ認ム
 ト云ヘリ(同上)我儕ノ罪ト言フヲ好マズシテ我ガ民ノ罪及己ノ罪ト云ヘリ是レ
 恰モ預言者ガ之ヲ曲解スル人々ノ現ハレントスルヲ洞見セシガ如シ。

第三百十條 又議定セシコト左ノ如シ若シ我等ノ負テ赦シ給ヘト云ヘル主禱ノ
 言ハ聖人等謙遜ニ由リテ唱フル者ニシテ赤心ニ依ルニ非ズト想フ者アラバア
 ナフエマニ處セラルベシ蓋シ人ヲ欺カズ主其者ニ諒リテ祈禱スル者ハ誰カ之ヲ
 忍バンヤ是レ己ノ口ニテ赦ヲ得ント欲スト言ヒ乍ラ心ニテ其ノ赦サルベキ罪
 ナシト言フニ均シ。

第三百十一條 今ヨリ數年前此教會ニ於テ或地方ニ在ルノ教會ニシテ「ドナト」党
 ニ關スル法令發布以前公教會ニ歸シタルモノハ其ノ公教會ニ合同一致スルコ
 トヲ説諭シタル主教ノ有スル實座ニ屬スベク而シテ該法令發布ノ後合併シタ
 ルモノハ其ノ「ドナト」党タルル所ノ實座ニ屬スベキ事ト至公會ニテ議定
 セリ然ルニ此後主教等ノ間ニ其地方ニ關シテ爭論紛々トシテ起リ且起リツ、

アリテ該件ニ關スル從前ノ審議ハ不完全ト認メラル、ニ依リ今此ノ聖公會ニ
 於テ左ノ如ク議定セリ若シ或地方ニ公教會ト「ドナト」党ニ屬スルモノトアリテ
 二者相異ナル實座ニ管屬シタルニ於テハ其合同ハ法令前若クハ法令後孰レノ
 時成リ立テタルニセヨ古ヨリ彼處ニ在リタル公教會ノ管屬セシ實座ニ屬スベ
 シ。

第三百十二條 公教會ノ主教ト「ドナト」党ヨリ歸正シタルノ主教ガ互ニ其教區ヲ
 分割スルノ方法ニ就テ、

左ノ如ク分割スベシ若シ「ドナト」党ノ主教ニシテ公教會ニ合同一致スルルキハ互
 ニ其ノ現在ノ儘ニテ彼レ此レ共ニ人民ヲ己ノ有ト爲シツ、其地方ヲ同等ニ分
 ツベシ即チ此ノ地方ヲ以テ此ニ委テ彼ノ地方ヲ以テ彼ノ主教ニ委テ主教职ニ
 於テノ長者ハ分割シテ年少者ハ選擇スベシ若シ同一ノ場所ニ於テ其事生ジタ
 ルルキハ最近ノ者ニ之ヲ委ヌベシ若シ又兩實座ニ平等ニ接近スルルキハ人民ノ選
 ブ所ノ者ニ屬スベシ若シ從來公教會ニ屬セシ「ハリステ」アニン「ハ」己レノ主教ヲ
 請求シ「ドナト」党ヨリ歸正シタル者モ亦己レノ主教ヲ請求スルルキハ人民ノ少數

ノ選舉ハ多數ノ選舉ニ讓歩スベシ。若シ双方選舉者ノ數同キハ其場所ハ長主教ノ管轄ニ編入セラルベシ。若シ又兩派ノ民ヲ有スル多クノ場所アリテ其場所ノ數同等ナラザルヨリ平等ニ分割シ得ザルハ先ヅ同等ノ數ダケ分割シ而シテ後殘餘ノ場所ニ對シテハ前ニ同一ノ場所ノ分割ニ就テ言ヒタル如ク處分スベシ。

第三百三十三條 又議定セシコト左ノ如シ若シ法律發布ノ後或ル場所ヲ公教會ト一致セシメ三年ノ間之ヲ管理シ而シテ何人モ彼ヨリ之ヲ要求セザルニ於テハ以後何人タリトモ彼ヨリ之ヲ要求スベカラズ且假令該三年間要求スベキ權利アル主教存在シテ默シタル場合ニ於テモ然リトス。若シ主教有ラザリシトスルモ管區ノ帳簿ニ其場所ヲ編入サレタルコトハ之ヲ要求スルノ妨ケトナルベカラズ乃チ孤立セシ教座ニシテ主教ヲ得ルハ彼ニ三年ノ間ニ其場所ヲ要求スルヲ允可セラルベシ。トナト党ヨリ公教會ニ歸スルノ主教モ之ト同ク管區ノ帳簿ハ一定ノ期限マデ彼レノ妨ケト爲ルベカラズ乃チ其ノ歸正セシ日ヨリ三年間ニ其實座ニ當然ニ屬スル所ノ場所ヲ要求スルノ權利ヲ有スベシ。

第三百三十四條 又議定セシコト左ノ如シ凡ソ主教ニシテ己ノ實座ニ附屬スト見

做ス所ノ社會ヲ要求スルニ他ノ主教等ノ裁判ヲ以テセズシテ乃チ他ノ主教ニ屬スル所ノ民ニ其ノ欲スルト欲セザルトニ拘ハラズ己ノ權利ヲ及ボスモノハ其職ノ職權ヲ以テ罰セラルベシ。若シ又之ヲ實行シ而シテ主教ノ間ニ其事ノ協議纏マラズシテ爭論尙絶エザルハ教會ノ裁判ヲ棄テ、強迫ヲ行ヘタリト證明セラレタル者ハ其ノ爭フ所ノ場所ヲ失フベシ。何人タリトモ首座ノ主教ヨリ其場所ヲ己ノ管轄トシテ受ケタル證據ヲ有スルトテ自ラ得々タルベカラズ乃チ證據ヲ有スルモ又ハ有セザルモ須ク其場所ヲ管理スル者ト交渉シ彼ヨリ證據ヲ受ケ當然己レニ屬スベキ教會ヲ平穩ニシテ保有スルコトヲ明カニスベシ。若シ又其人ニシテ要求ヲ提出スルハ是レ亦宜ク審判者タル主教等ニテ裁決セラルベシ而シテ該審判者ハ或ハ首座ノ者之ヲ任定シ又ハ自ラ協議ノ上近隣ノ主教中ヨリ之ヲ選定スベシ。

第三百三十五條 又議定セシコト左ノ如シ若シ己ノ實座ニ屬スルノ場所ヲ公教會ノ一致ニ加フルコトヲ勉メザル者アルハ近隣ノ勤勉ナル主教ヨリ其事ヲ等

閉ニ付セザランコトヲ忠告スベシ。故ニ若シ説諭ヲ受ケタル日ヨリ六ヶ月間何事ヲモ爲サザルハ其後該場所ハ之ヲ加フルコトヲ能クスル者ニ委テラルベシ。然レモ若シ該場所ノ管理者タル人ニシテ初ノ運動スルニ於テハ異端者ヲシテ激昂セシムルノ恐アルガ故ニ窃ニ慮ル所アリテ運動セザルヲ得策ナリトシ異端者亦民ノ争擾ヲ醸サズシテ公教會ニ受ケラレンコトヲ欲シテ之ヲ可トセシニ他人ニ其運動ヲ先ンセラレタルハ審判者タル主教ハ之ヲ審査シタル上其場所ヲ彼レノ實座ニ復スベシ。若シ審判者タル主教ヲ諸州ヨリ選舉スベキ場合ニハ争論地タル場所ノ在ル州ノ首座ノ主教該審判者ヲ任定スベシ。若シ又共同ノ協議ニ依リテ近隣ノ主教中ヨリ審判者ヲ選バントスルハ或ハ一名或ハ三名ヲ選舉スベシ。而シテ若シ三名選舉セラレテ公認セラレタルハ其総員若クハ二名ノ決議ニ服スベシ。

第三百三十六條 共同ノ協議ニ由リテ選舉シタル審判者ヨリハ訴件ヲ高等裁判ニ移スヲ許サズ。若シ剛腹ニ因リテ審判者ニ服スルヲ欲セザル者アルハ首座ノ主教之ヲ探問シテ其ノ服從セザル間孰レノ主教タリトモ之ヲ親與ニ受クベカラザル書ヲ發スベシ。

ラザル書ヲ發スベシ。

第三百三十七條 若シ主教タル者記録ニ由リテ教會ニ屬スルモノ又ハ教座其者ヲ異端者ヨリ回收スルコトヲ怠ルハ其近隣ノ勤勉ナル主教之ニ勸告シ其懈怠ヲ指摘シテ推諉スルヲ得ザラシムベシ。若シ勸告セラレタル日ヨリ六ヶ月間ニ其教區ニ在リ乍ラ公教會ノ一致ニ歸スベキ者ノ事ヲ慮ラザルハ其事ヲ實行スルニ至ルマデ彼ト交際スベカラズ。若シ助力者該地ニ來ラザルニ於テハ其働

キナキ廉ヲ以テ主教ノ罪ト爲スベカラズ。
助力者トハ主教ガ異端者ニ説諭シ又ハ答辨セシムルガ爲メ之ヲ招クハ彼等ヲ之ヲ避ケシメサルナリトシ主教ニ助力スルノ職掌ヲ負ヘル役人ナリ

第三百三十八條 若シ彼等即チ「ドナト」党ノ親與ニ就テ詐僞ノ申立ヲ爲シ彼等ハ親與ニ近ヅキタリト云ヒ乍ラ彼等ガ近ヅカザリシコト證明セラレ彼亦自ラ之ヲ知ルニ於テハ主教職ヲ褫奪セラルベシ。

第三百三十九條 又議定スルコト左ノ如シ若シ司祭輔祭及其他教衆ノ下位ノ者ニシテ訴訟事件ニ因リ己ノ主教ノ判決ニ満足セザルトキハ近隣ノ主教等之ヲ聽キ而シテ彼等ノ主教ノ同意ヲ得テ彼等ノ選ビタル者ヲシテ其争論ヲ裁決セシ

ムベシ若シ又更ニ之ヨリシテ高等裁判ニ其事件ヲ移サント欲セバ獨リアフリ
カノ公會若クハ其州中ノ首タル主教等ニノミ之ヲ移スベシ若シ海外ニ(即チロ
マニ其事件ヲ移サント欲スル者アラバアフリカニ於テ何人タリトモ之ヲ親與
ニ受クベカラズ。

第四百十條 又議定セシコト左ノ如シ若シ主教ニシテ或ハ深ク處女ヲ戀ヒ或ハ
之ヲ強奪セントスル者アルヤノ嫌疑アリテ其貞操ヲ傷ツケラレントスルノ恐
アルニ際シ勢ヒ已ムヲ得ザルニ由リ又ハ處女自ラ死ニ瀕スルノ危篤ニ迫ルヲ
感ジタル并其父母或ハ彼ヲ慮ル者ノ請ニ因リ修道女ト爲ラズシテ死セザラシ
メンガ爲メ年齢二十五歳前ニ於テ神ニ献セラル、者ノ服ニテ之ヲ掩フ者若ク
ハ既ニ之ヲ掩ヒタル者ハ之ヲ掩フノ年限ヲ規定スル公會ノ規律ニ由リテ何ノ
罰ニモ處セラレザルベシ。

第四百十一條 公會ニ參集シタル諸主教ガ久シク抑留セラレザランガ爲メ各州
ヨリ三人ノ審判者ヲ選舉スルコト至公會之ヲ可トセリ。

第四百十二條 若干事件ノ終結シタル後他ノ事件ヲ結了センガ爲メ議事ノ繼續

ニ對シテ痛嘆シ己ノ教會ニ歸任スルノ急務アルヨリシテ之ヲ忍ブコト能ハザ
ルノ主教多キニ因リ至公會ハ衆員中ヨリ各州ニ就テ他ノ事件ヲ議了スルガ爲
メ止マルベキ者ヲ選舉スルヲ可トシ而シテ此事實行セラレタリ。

第四百十三條 衆員議定セシコト左ノ如シ從前ノ公會ノ規定中ニ教衆ニ屬スル
者ニ對スル訴訟ヲ受理スベカラザル人ニ就テノ規定アルモ果シテ如何ナル人
ヨリ之ヲ受理スベカラズトノ事確然明示セラレザルニ依リ凡ソ告訴セント欲
スル者ハ其ノ教衆ノ者タルト或ハ俗人タルニ拘ハラズ親與ヲ絶タレテ猶其絶
交中ニ在ル者ヨリ訴訟ヲ受理スベカラザルヲ至當ナリト制定ス。

第四百十四條 又議定セシコト左ノ如シ凡ソノ奴隸其ノ訟ヘント欲スル當人ノ
被放免者及ビ凡ソ國法ニ依リ犯罪ニ就テ告訴スルコトヲ許サレザル者並ニ凡
ソ不名譽ノ痕跡ヲ負フ者即チ演技者及ビ猥褻ノ所業ニ關繫スル者並ニ異端者
或ハエルリン人或ハイウヂヤ人ヨリ訴訟ヲ受理スベカラズ但シ凡ソ斯カル告
訴ヲ許サレザル者ニ對シテモ私自ノ事件ニ因リテ起訴スルノ自由ヲ奪フベカ
ラズ。

第四百十五條 又議定セシコト左ノ如シ告訴者若シ教衆ノ者ニ對シテ多クノ告訴ヲ提起シ而シテ最初ニ審鞠セラレタル其中ノ一件ニシテ舉證スル能ハザルキハ以後自餘ノ告訴ヲ受理スベカラズ。

第四百十六條 訴訟ヲ受理スベカラズト議定セラレタル人々並ニ告訴者ガ自ら其家ヨリ出ス所ノ者ハ舉證ノ證人トシテ受理スベカラズ。又十四歳未滿ノ者ノ立證ハ受理スベカラズ。

第四百十七條 又議定セシコト左ノ如シ若シ主教ハ何人カ己レ一人ニ其罪ヲ告解シタリト云ヒ而シテ本人之ヲ承認セザル時ハ主教ハ己レ一人ニ拘ハラザルコトヲ以テ侮辱ヲ蒙リタリト爲スベカラズ。若シ其良心ノ平カナラザルニ依リテ不承認者ト交際スルヲ欲セズト云フキハ其主教タル者コノ事件ニ因リテ親與ヲ絶タレタル者ヲ親與ニ受ケザル間ハ他ノ諸主教モ此主教ヲ親與ニ受クベカラズ。故ニ主教ハ他人ノ前ニ證ヲ舉ゲテ確ムルコト能ハザル事ハ之ヲ公言スベカラザルヲ慎ムベキハ勿論ナリ。

アフリカ公會ヨリロマノ「ババ」ケレスティンニ送ルノ書

愛スベキ君及ビ尊貴ナル兄弟ケレスティンニ呈ス、アウリイ、パラティン、アントニ

ン、トット、セルウスデイ、テレンティイ及其他カルフゲン公會ニ列席セシ者
汝聖者ガ我等ノ同司祭レオニ托シテ送りタルノ書ヲ以テアピアリイノ到着ニ就テ汝ノ喜ビヲ表セシ如ク我等モ亦彼レノ仲冤ニ關スル此書ノ喜ビヲ以テ送ラレンコトヲ望メリ。蓋シ實際我等ノ心ニモ汝ノ心ニモ不信用ヲ置カズ彼レヲ審問セラルベキ者ナルニ既ニ審鞠セラレタル者ノ如ク見做シ初メヨリ彼レヲ利スルニ偏シテ見解ヲ誤テリ。故ニ至聖ノ兄弟及我等ノ同主教フアウスティンガ我等ニ來ルニ及ビ我等ハ公會ヲ召集シ彼レノアピアリイト共ニ遣ハサレタルハ會テアピアリイガ彼ノ斡旋ニテ司祭職ニ復セラレタル如ク今又彼レノ盡力ニテフアウリキヤ人ヨリ彼ニ負ハセラレタル多クノ告訴ヲ辨解センガ爲メナルベシト預想シタリキ。然ルニ我等多數ノ公會ハアピアリイニ多クノ大ナル罪アルヲ認メ前記フアウスティンノ爲ス所裁判ト云フヨリモ寧ロ保護ニ近ク審鞠者ノ旨

トスベキ正理公義ヲ棄テ、「エクディク」ノ爲スベキ哀願ヲ主トシタルモ其罪ヲ掩
 フ能ハザリキ何トナレバフウステインハ首トシテ恰モ羅馬教會ノ特權ヲ保護ス
 ルモノ、如クシテ公會ニ種々ノ侮辱ヲ加ヘ汝聖者ガ其ノ自ラ證明スルコト能
 ハザル哀訴ヲ信用シテ親與ニ受ケタルノアピアリイヲ我等ニモ親與ニ受ケン
 コトヲ請ヒ太ク全公會ニ抗抵セリ而モ此事亦彼レヲ援護スルコト能ハザリキ
 汝公會ノ記録ヲ閲讀セバ更ニ能ク之レヲ知ルヲ得ン蓋シ三日間困難ヲ以テ裁
 判ヲ行ヒ其間我等ハ痛心ヲ以テアピアリイニ係ル種々ノ告訴ヲ審鞠シタルニ
 勇毅恒忍ニシテ正義ナル審判者タル神ハ我等ノ同主教フウステインノ干涉ト己
 レノ醜惡ヲ掩ハントセシアピアリイノ策略トヲ甚ダ容易ニ切斷セリ、アピアリ
 イノ厭フベク惡ムベキ剛愎ト彼ガ多クノ慾惡ノ沼ヲ梗塞セントセシ破廉耻ノ
 拒辞トハ無効ト爲レリ蓋シ我等ノ神ハ彼レノ良心ニ迫リテ彼レノ心中ノ秘事
 ヲ恰モ既ニ犯罪ノ最モ醜陋ナルモノト罪定サレタルモノ、如ク衆人ノ前ニ暴
 露スルニ及ビ狡猾ナル拒辞者ハ俄ニ其ノ訴ヘラレタル悉クノ罪狀ヲ告白スル
 ノ念ヲ萌シ遂ニ甘シテ自ラ殆ト信スベカラザルノ醜事ヲ悉ク自白シ斯クシテ

彼ガ其ノ耻ツベキ汚点ヨリ己ヲ潔クスルヲ得ベシト期シタル我等ノ望ヲ化シ
 テ悲痛ト爲セリ彼ハ我等ヲ絶エサル憂悲ノ苦ミヨリ免レシムルト自己ノ傷痕
 ノ爲メ假令不本意ニ出デ且其良心ト闘ヒタルニセヨ遂ニ其ノ自白ノ罪ヲ醫ス
 ルノ方ヲ講ジ此ノ惟一ノ慰ヲ以テ我等ノ此悲ミヲ和ラゲタリ故ニ兄弟足下ヨ
 我等ハ先ツ尊敬ノ義務ヲ盡シテ汝ニ以後當所ヨリ汝ノ耳ニ達スルモノヲ輕々
 シク採用セズ我等ノ逐斥シタル者ヲ爾來親與ニ受ケサランコトヲ請フ蓋シ尊
 敬スベキ汝ハニケヤ公會ニテモ之ト同一ノ事ヲ規定シタルヲ發見スルコト易
 ヲタラン何トナレバ該規定ハ下級ノ教衆及俗人ニ關シテ守ラレンニハ公會ハ
 猶更主教ニ關シテ格守セラレンコトヲ欲スサレバ凡ソ己ノ教區内ニ於テ親與
 ヲ絶タレタル者ハ汝聖者ニテモ故意ニ順當ノ手續ヲ履マズシテ親與ニ受ケラ
 ルベカラズ又破廉耻ニシテ遁走スル司祭及之ニ隨從スル教衆ヲモ汝聖者ハ汝
 ノ當ニ爲スベキガ如ク之ヲ斥ゾクベシ蓋シ此事タルアフリカ教會ノ爲メ諸父
 ノ如何ナル規定ニテモ禁セラレザル所ニシテニケヤ公會ノ規定ノ如キ下級ノ
 教衆並ニ主教ニ至ルマデ之ヲ其ノ所轄府主教ニ返還スベシト明言ス該公會ハ

如何ナル事件ノ起ルニモセヨ必ズ其場所ニ於テ終結セラルベシト適理正當ニ認メタリ何トナレバ諸父ハ夫ノハリストスノ司祭ヲシテ能ク正理ヲ鑑別シ堅ク之ヲ守ルヲ得セシムル聖神ノ恩寵ハ一州ノ爲メニモ欠乏セズト裁定シタリ況ンヤ各人ニ最近審判者ノ判決ノ正當ナルヤ否ニ就テ疑アルニ於テハ一州ノ公會ニ訴ヘ且至地公會ニスラ訴フルヲ許サル、ニ於テヲヤ我等ノ神ガ只或ル一人ニ限リテ裁判ノ公平ヲ諷示スルヲ得公會ニ參集スル無數ノ司祭ニハ之ヲ拒絕スト云フ如キ誰カ能ク之ヲ信ズル者アラシヤ且夫レ公會ニ必要ナル證人ノ定員ガ或ハ不健康ナルニ因リ或ハ身体ノ不具ナルニ因リ或ハ老衰ニ因リ或ハ許多ノ障礙ニ依リテ參席スルコト能ハザル海外ノ裁判ハ爭テ正確ナルヲ保スベキ且ツ汝聖者ノ股肱ノ人ノ遣ハサルベキコトハ我等諸父ノ孰レノ公會ノ規定ニモ見ザル所ナリ蓋シ汝ヨリ會テ我等ノ同主教フアウステインニ托シ恰モニケヤ公會ノ規定ノ如キモノトシテ我等ニ贈ラレタルモノハ我等之ヲ彼ノ原文ヨリ騰寫シタル該公會規則ノ最正確ナル騰本中ニ發見スル能ハズ該原文ハ我等アレキサンドリヤ教會ノ我ガ同主教至聖ナルキリール及コンスタンティノボ

リノ主教尊敬スベキアツテヨリ得タル所ノモノニシテ是ヨリ先キ該書ヲ我等ニ送致シタル司祭インノケンテイ及副輔祭マルケルニ托シ汝ノ前任者幸福ノ記憶ヲ存スル主教ボニフアテイニ贈リタリサレバ或者ノ請ニ應ジ汝ノ教衆ヲ審判者トシテ此ニ派スルコトナク之ヲ聽容スルコト勿レ以テ我等夫ノ神ヲ觀ント欲スル者ニ眞摯ノ光ト謙遜ノ日トヲ賦スルハリストスノ教會ニ此世ノ煙ノ如キ傲慢ヲ入ル、ヲ免カレン痛嘆スベキアピアリイガ其ノ怨スベカラザル罪ノ爲メ我等ノ兄弟フアウステインニスラハリストス教會ヨリ逐斥セラレタレバ我等ハ以後亦汝聖者ガ兄弟ノ愛ヲ守ルニ老練確實ナルアフリカハ決シテ彼ヲ忍ブコトナカルベシト安心セリ。

署名

吾等ノ神願クハ我等ノ爲ニ祈禱スル汝聖者兄弟足下ヲ永ク守護センコトヲ

コンスタンティノポリ聖地方公會規則

被告人タル主教ヲ神品職ヨリ除黜スルニハ以後二人若クハ三人ノ主教ヲ以テセズ乃チ更ニ多數ノ公會ノ宣告ヲ以テシ且ツ若シ能クスベクバ使徒規則ニテモ制定サレタル如ク州中諸主教ノ宣告ヲ以テシ以テ除黜ニ當ル定罪ハ被告ノ面前ニ於テ宣言サル、多數者ノ宣告ヲ以テ慎重ノ審判ヲ經タルモノタルヲ表明スベシト議定ス。

聖使徒ノ殿ニ開設サレシ二次會ノ稱ヲ得タルコンスタンティノポリ聖公會規則

第一條 修道院ノ建立ハ昔我ガ幸福克肖ノ諸父ノ良考ヲ以テ發明セシ所ノモノニシテ頗ル緊要稱譽スベキ事ナルニ今惡用セララル、ヲ見ル。蓋シ或者ハ己ノ家屋及別莊ニ修道院ノ稱ヲ付シ之ヲ神ニ獻ズルヲ約シ乍ラ自ラ其ノ獻納物ノ所有主ナリト稱ス是レ彼等ハ狡猾ニシテ神ニ只名稱ノミヲ獻セント欲スルモノナリ何トナレバ彼等ハ獻ジタル後ニモ其ノ以前ニ占有セシト同一ノ權利ヲ掌握スルヲ耻ヂザレバナリ且ツ之ニ加フルニ一ノ弊害ヲ以テシ神ニ獻ジタルモノヲ獻納者自ラ公然賣却スルコト少ナカラズ見ル者ヲシテ怪訝痛嘆セシム。彼等ハ嘗ニ其ノ一旦神ニ獻ジタルモノヲ所有スルコトヲ悔ユルノ心ナキ而已ナラズ憚ル所ナク之レヲ他人ニ讓與ス。故ニ聖公會議定セシコト左ノ如シ何人タリトモ主教ヘノ通知及其許可ナクシテ修道院ヲ建立スベカラズ乃チ之ニ通知シ其許可ヲ得且ツ昔神ノ旨ニ應ジテ規定セラレタル如ク相當ノ祈禱ヲ執行シ

テ修道院ヲ建立スベシ而シテ總テ之ニ附属スルモノハ修道院其者ト偕ニ之ヲ記録ニ載セ以テ主教館ノ文庫ニ保存スベシ而シテ献納者ハ主教ノ意ニ依ラザレバ決シテ自身若クハ己レノ代リニ他人ヲ立テ、院長ト爲スコトヲ敢テスベカラズ蓋シ何人タリトモ一旦人ニ授ケタル物ノ所有主ト爲ル能ハザランニハ如何ニシテ之ニ神ニ献納シタル所ノモノヲ窃取スルヲ許スベケンヤ。

第二條 清心以テ神ニ事フルガ爲メニセズ乃チ人ノ尊ブ所ノ服ヲ纏フテ敬虔ノ榮譽ヲ得以テ限リナキ己ノ慾ノ樂ヲ充サシメンガ爲メ單ニ修道生活ノ外貌ヲ裝フモノアリ。彼等ハ只己ノ髮ヲ剪ルノミニシテ依然己ノ家ニ居リ修道ノ規律若クハ成規ハ毫モ之レヲ遵守セズ故ニ聖公會議定セシコト左ノ如シ凡ソ己ノ下ニ受ケテ從順ヲ守ラシメ之ヲ監督シテ其ノ靈魂ノ救贖ヲ慮ルノ責任ヲ負フ人立會フニ非ザレバ何人ニモ決シテ修道ノ式ヲ授クベカラズ而シテ其人ハ神ヲ愛スル人修道院ノ長ニシテ新タニハリストスニ導カレタルノ靈魂ヲ救フニ堪フルノ人タルベシ。若シ己ノ下ニ受ケテ從順ヲ守ラシムル責任ヲ負フノ院長立會フニ非ズシテ人ニ修道ノ式ヲ授クル者アラバ成規ヲ遵守セズ修道ノ規律

ヲ犯ス者トシテ其位ヨリ除黜セラレ不正當不規律ニシテ剪髮セラレタル者ハ其地方主教ノ適當ト認ムル修道院ニ入りテ從順ノ業ヲ修ムベシ。何トナレバ輕忽失當ノ剪髮ハ修道ノ式ヲシテ世ニ重カラザラシメハリストスノ名ヲ誹謗スルノ機會ヲ予ヘタレバナリ。

第三條 默認セラレ且ツ最モ惡シキハ不注意及緩慢ニ由リテ蔓延スル左ノ紊亂ヲモ矯正スヘキ事ヲ議定セリ。若シ修道院ノ長ニシテ已ノ管理スル修道士ノ逃走シタルモノヲ嚴密ニ搜索セズ若クハ之ヲ發見スルモ受ケズシテ其病ニ相當スル治療法ヲ以テ倒レタル者ヲ起シ之ヲ堅ムルコトヲ努メザル者アラバ聖公會ハ之ヲ機密ヨリ斥クベキ事ト議定セリ。蓋シ無知覺ノ動物ヲ監視スルノ任ヲ負フ者ニシテ群ノコトヲ慮ラザルニ於テハ罰ヲ受ケサルナシトセンニハハリストスノ群ヲ收スル治理權ヲ受ゲタル者己ノ懶惰緩慢ニ依リテ彼等ノ救ヲ慮ラザルニ於テ爭テカ其暴慢ノ爲メ罰ニ服セラレズシテ已マンヤ復歸スベキ招キヲ受ケタル修道士ニシテ若シ從ハザルハ主教之ガ親與ヲ絶ツベシ。

第四條 狡猾者ハ種々手段ヲ盡シテ尊ブベキ修道ノ式ヲ辱メントシ前ノ異端ノ

時代ニ其ノ大ナル補助ヲ得タリ、何トナレバ異端ノ爲ニ窘メラル、修道士輩ハ己ノ修道院ヲ去リテ他ニ移リ又或者ノ如キ俗人ノ住所ニ移リタルアリ、然ルニ當時彼等ガ敬虔ノ爲ニ行ヒ之ニ因リテ彼等ヲ稱譽スベキ者ト爲シタル所ノモハ化シテ一弊風ト爲リ彼等ヲ嘲笑セラルベキ者ト爲スニ至レリ、蓋シ今敬虔ノ已ニ到ル處ニ蔓延シ教會ガ誘惑ヨリ免カレタル時ニ於テスラ猶己ノ修道院ヲ去リ恰モ止メントシテ止ムベカラザル河流ノ如ク彼處ニ此處ニ流浪横溢シテ修道院ヲ盈タスニ多クノ不品行ヲ以テシ大ナル秩序ヲ醸シ從順ノ美風ヲ攪亂破壊スル者アリ、聖公會ハ彼等ノ輕浮不從順ナル趨勢ヲ絶タンガ爲メ議定セシコト左ノ如シ凡ソ修道士ニシテ己ノ修道院ヨリ逃走シ他ノ修道院ニ入り若クハ俗人ノ家ニ寓スル者並ニ之ヲ接ケタル者ハ逃走者ガ其ノ恣ニ去リタルノ修道院ニ歸ルニ至ルマデ教會ノ親與ヲ絶タルベシ、但シ若シ主教ハ敬虔及品行ノ端正ナルヲ證明セラル、修道士ヲ修道院整理ノ爲メ他ノ修道院ニ移サント欲スルカ又ハ之ヲ俗人ノ家ニ住スル人ノ救贖ヲ成スガ爲メ其家ニ遣ハスヲ可トスルカ若クハ他ノ或ル處ニ之ヲ置カント欲スルトキハ之ガ爲メ其修道士モ

之ヲ接ケタル者モ有罪トナラズ。

第五條 考慮ナク經驗ナクシテ遁世スルコトハ修道ノ規律ヲ害スルコト少ナカラザルヲ發見セリ、蓋シ輕忽ニシテ修道ノ生活ニ着手シナガラ修道ノ嚴格ト勞働トヲ蔑視シ復タ不幸ニシテ肉慾情慾ノ生活ニ立戻ルモノアリ、故ニ聖公會議定セシコト左ノ如シ何人タリトモ經驗ノ爲ニ豫定セラレタル三年間ニ修道ノ生活ヲ爲スニ堪フル力アル者タルヲ示スニ非ザレバ之ニ修道ノ式ヲ授クベカラズ而シテ公會ハ嚴密ニ之ヲ守ルベキヲ命ズ但シ重病ニ罹リテ經驗ノ時日ヲ減縮スルノ必要アルカ又ハ敬虔ノ人ニシテ俗服ヲ着シタル時ニ於テ既ニ修道的生活ヲ爲ス者ニ對シテハ此限ニ非ズ、蓋シ是ノ如キ人ノ爲メニハ全クノ經驗ノ爲ニ六ヶ月ニテモ充分ナリ、若シ之ニ違背スル者アラバ院長ニハ院長職ヲ褫奪シタル上服從ノ状態ヲ以テ其秩序違反ノ罰トスベク、修道式ヲ受ケタル者ヲバ修道ノ成規ノ嚴格ニ履行セラル、他ノ修道院ニ移スベシ。

第六條 修道士ハ毫モ自己ノモノヲ所有スベカラズ乃チ己レニ屬スルモノハ悉ク之ヲ修道院ニ屬スルモノト爲スベシ、蓋シ福タルルカハハリストスヲ信シテ

修道共同的生活ヲ爲セル者ノコトヲ指シテ己ガ財ヲ私スル者アルナク乃チ諸物ヲ公有セリト云ヘリ(三行實四章)故ニ修道ノ生活ヲ爲サント欲スル者ニハ先ヅ己ノ財産ニ就テ遺言シ己ノ欲スル所ノ人ニシテ律法ノ禁セザル者ニ之ヲ讓ルノ自由ヲ與ヘラル蓋シ既ニ修道院ニ入レバ修道院ハ其ノ悉クノ財ヲ處分スルノ權ヲ有シ其人ニ毫モ自己ノモノヲ左右シ若クハ遺言スルヲ許サズ若シ若干ノ財ヲ私シ之ヲ修道院ニ渡サズシテ貪慾ノ奴ト爲ル者アラバ院長若クハ主教ハ其財ヲ沒取シ衆人ノ面前ニテ之ヲ賣リ以テ乞食及貧者ニ施スベシ又彼ノ古ノアナニヤノ如ク心ニ謀リテ己ノ財ヲ匿ス者アラバ聖公會ハ相當ノ懲罰ヲ以テ之ヲ矯正スヘキ事ト定メタリ聖公會ガ修道士ニ就テ制定シタル規則ハ修道女ニ關シテモ之ヲ守ルベキヲ至當ト認メタルコト勿論ナリ

第七條 モリスコト 主教區ノ司長ガ其ノ主教區ニ盡スベキ掛念ト注意トヲ轉シテ新修道院ヲ建立スルニ傾ケ主教區ノ資力ヲ消盡シ收入ヲ喘着シテ修道院ヲ増築スルコトヲ慮ルヨリシテ主教區ノ衰頹シテ全ク荒廢セントスルノ危キニ居ルモノ多キヲ見ル故ニ聖公會議定セシコト左ノ如シ凡ソ主教ニハ何人タリトモ己ノ爲

メ特別ノ修道院ヲ建立シテ其ノ主教區ヲ衰頹セシムルヲ許サズ若シ敢テ之ヲ行フ者アラバ之ヲ相當ノ懲罰ニ處シ其ノ新築シタルモノハ修道院タルベキ正當ノ原因ヲ有セザル者タルヲ以テ主教區ノ所有トシテ之ニ合併スベシ蓋シ凡ソ法規秩序ニ違背シテ竊ニ行ヒタル所ノモノハ成規ニ準據シテ行ハル事ニ伴フ所ノ特權ヲ僭有スル能ハズ

第八條 聖使徒ノ神聖ナル規則ハ自ラ闕割スル者ヲ自殺者ト認定シ若シ司祭ナレバ除黜シ若シ然ラサレバ之ヲ神品職ニ登庸スルヲ禁ズ(使徒規則廿二)是ニ由リテ見レバ若シ自ラ闕割スル者ガ自殺者ナランニハ人ヲ闕割スル者ハ疑モナク兇行者タルコト明カナリ此ノ如キ人ハ造物其者ヲモ辱カシムト云フハ蓋シ至當ナルベシ故ニ聖公會議定セシコト左ノ如シ若シ主教或ハ司祭或ハ輔祭ニシテ手ヅカラ若クハ命令ヲ以テ他人ヲ闕割シタルコト發覺セバ其位ヨリ除黜セラルベク若シ俗人ナレバ教會ノ親與ヲ絶タルベシ但シ疾病ノ爲メ患者ヲ闕割スルノ已ムヲ得ザル場合ハ此限ニ非ズ蓋シニケヤ公會規則第一條ハ病ニ依リテ陰莖ヲ截斷セラレタル者ハ其病ノ故ニ由リテ之ヲ罰セズ故ニ我等モ病者

ヲ閣割スルヲ命スル司祭ヲ罰セズ又手ヅカラ閣割スル俗人ヲモ有罪トセズ何
トナレバ我等ハ之ヲ以テ受造物ヲ害スルモノ若クハ造化ノ作用ヲ誹議スルモ
ノト認メズシテ疾病ノ療方ト認ムレバナリ。

第九條 使徒ノ神聖ナル規則ハ犯罪セシ信者若クハ侮辱ヲ加ヘシ不信者ヲ毆打
スル司祭ヲ除黜スベキヲ命ス(使徒規則 二十七條)己ノ怒ニ媚ビントシ使徒ノ規定ヲ曲解
スル者ハ該規則ハ單ニ手ヅカラ毆打スル者ノコトヲ指スモノナリトス而モ該
規則ハ決シテ此ノ如キ意ヲ明示セズ且ツ本義固ヨリ此ノ如ク解釋スルヲ許サ
ザルナリ蓋シ若シ手ヅカラ三回若クハ四回毆打シタル者ハ除黜セラレ而モ命
令ヲ以テ毆打スルノ餘地アルヲ利シ拷問ヲ殘酷ニマデ及ボシ又ハ死ニ至ラシ
ムル者罰ヲ受ケザル如キハ是レ實ニ淺慮ノ至リニシテ事理ヲ誤ルノ甚シキモ
ノナリサレバ該規則ニテ一般ニ毆打ノ爲メ罰ヲ定メラレタルガ故我等モ之ニ
準ジテ規定ス蓋シ神ノ司祭タル者ハ品行ノ人アレバ須ク教諭訓誨ヲ以テ且
時トシテハ教會ノ懲罰ヲ以テ悔悟セシムベク決シテ鞭ト打撃トヲ以テ人間ノ
躰ニ迫ルベカラズ若シ全ク執拗ニシテ懲罰ヲ以テスルモ勸告ニ從ハザル者ア

ラバ其地方官吏ノ裁判ニ付シテ悔悟セシムルコトハ何人モ之ヲ妨ゲザルベシ
蓋シ教會ニ紛擾騷乱ヲ醸ス者ハ外部ノ權勢ニテ鎮壓スベキコトハアンティオヒ
ヤ公會規則第五條ヲ以テ制定セラレタリ。

第十條 顯然情慾ニ耽ケリタル者ハ管ニ聖ナル規則ニテ制定セラレタルノ罰ヲ
恐レザルノミナラズ之ヲ罵詈スルコトスラ憚ラズ蓋シ彼等ハ之ヲ曲解シ己ノ
情慾的ノ意旨ニ因リテ其真意ヲ傷ヒ慾ニ溺ル、ノ餘リ神學者グリゴリイノ言
フガ如ク惡ヲ見テ管ニ罪ト爲サ、ルノミナラズ之ヲ神聖ナルモノト見做スニ
至レリ(リイ規則第八條)使徒規則ニ曰ク聖トセラレシ金或ハ銀ノ器物若クハ
帳ハ復タ之ヲ取リテ私用ニ充ツベカラズ蓋シ是レ違法ナリ若シ此事ニ認メラル
ル者アラバ親與ヲ絶ツヲ以テ罰セラルベシ(使徒規則 七十三條)彼等ハ己ノ違法ヲ辨護
センガ爲メ此規則ヲ述ベテ聖晚餐ノ尊ブベキ服ヲ自己ノ褻衣又ハ其他ノ衣服
ニ轉用スル者及ビ甚シキハ——嗚呼不敬虔ナル哉——聖爵或ハ聖盃或ハ之ニ
似タルモノヲ自己ノ需要ニ消費シ又ハ之ヲ汚カス者タリトモ除黜ニ該當スル
者ト思料スベカラズト公言ス彼等曰ク何トナレバ該規則ハ此罪ヲ犯ス者ヲ除

黜ニ處セズシテ親與ヲ絶ツノ罰ニ處スルヲ至當ト認定シタレバナリト。然レモ誰カ能ク此ノ如キ大ナル聖物嘲笑ト不虔トヲ忍バンヤ。蓋シ規則ノ親與ヲ絶ツハ聖物ヲ取リテ單ニ私用ニ充ツル者ノミニシテ全ク竊取スル者ヲ云フニ非ズ。然ルニ彼等ハ至聖物ヲ竊取スル者、盜聖罪ヲ犯ス者ヲモ除黜ヨリ免ジ並ニ尊ブベキ聖盃或ハ聖爵ヲ己ノ考ヒノマ、通常ノ食用ニ供シテ之ヲ汚カス者ヲモ除黜ニ處スベカラズト認定ス。而モ此事タル現然タル汚辱ニシテ之ヲ行フ者ハ管ニ除黜ニ處スベキノミナラズ極メテ大ナル不虔ノ罪ニ處スベキコト論ヲ待タズ。故ニ聖公會議定セシコト左ノ如シ凡ソ聖爵或ハ聖盃或ハ聖匙或ハ尊ブベキ晚餐ノ服或ハ大氣ト稱スルモノ或ハ其他凡ソ高壇内ニ在ル神聖ナル器物若クハ服ヲ自己ノ利慾ノ爲メ竊取シ又ハ神聖ナラザル用ニ轉用スル者ハ全ク其位ヨリ除黜スベシ。何トナレバ其中ノ一ハ汚聖ニシテ一ハ盜聖罪ナレバナリ又高壇外ニ於テ使用セラル、器物若クハ衣服ヲ自己ノ爲メ又ハ他人ノ爲ニ取リテ神聖ナラザル用ニ充ツル者ハ規則モ之ガ親與ヲ絶ツヲ以テ我等モ亦共ニ之ガ親與ヲ絶テ而シテ全ク之ヲ竊取スル者ハ盜聖罪ニ處ス。

第十一條 司祭若クハ輔祭ニシテ世俗ノ首長タル職若クハ任務ヲ執リ又ハ首長タル人ノ家ニ在リテ執事ノ名稱ヲ受クル者ハ神聖ノ規則之ヲ除黜ニ處ス。我等モ之ヲ確定シツ、更ニ他ノ教衆ニ屬スル者ノ事ニ就テ議定スルコト左ノ如シ。若シ彼等ノ中世俗ノ首長タル職ニ就キ或ハ首長タル人ノ家若クハ市外ノ別荘ニ於テ執事ノ名稱ヲ受クル者ハ教衆ヨリ除黜セラル可シ。蓋シ我等ノ眞神ハリストスノ親ク言ハレタル確言ニ依ルニ何人モ二主ニ事フルコト能ハザレバナリ(馬太六章二十四節)

第十二條 第六聖全地公會ハ教衆タル者主教ノ許ヲ得ズシテ人家ニ在ル祈禱室ニ於テ聖體禮儀ヲ執行シ若クハ洗禮ヲ施ス片ハ之ヲ除黜ニ處ス(第六全地公會規則第卅一條)我等モ之ニ準據シテ制定セン。蓋シ聖教會ハ眞理ノ言ヲ正シク管理シ之ヲ教授擁護シ品行ノ端正ヲ守リ之ヲ教諭スベキモノナルニ主治者ヲ戴カザル者ヲシテ潜ニ人ノ家ニ入リテ教會ノ規律ヲ破リ多クノ紊亂誘惑ヲ以テ之ニ益タサシメ而シテ之ヲ罰セザルハ失當犯罪的ノコトナレバナリ。故ニ此ノ神佑ヲ蒙ルル聖公會ハ第六聖全地公會ニ適應シテ議定セシコト左ノ如シ宜ク人ノ家ニ在ル

祈禱室ニ於テ聖體禮儀ヲ執行スル者ヲ任定スベシ但シ其土地ノ主教ノ之ヲ任定スベキハ勿論ナリ若シ此人々ノ外ニ主教ノ許ヲ得ズシテ敢テ聖體禮儀ヲ執行スル者アラバ之ヲ除黜シ之ニ與ミシタル者ハ親與ヲ絶ツベシ。

第十三條 奸惡者ハハリストスノ教會ニ異端ノ種ヲ蒔キ而シテ其種ガ聖神ノ劔ニテ根絶セラル、ヲ見テ更ニ奸計ヲ運シ岐教ノ無智ヲ以テハリストスノ體ヲ分裂セントス然レモ聖公會ハ彼レノ此譎策ヲモ全ク阻止シテ今議定セシコト左ノ如シ若シ司祭又ハ輔祭ニシテ己ノ主教ノ告訴セラレタルニ由リ公會ノ探究審査ヲ經テ全ク罪定セラル、ニ先ダチ之ヲ凌蔑シテ之ト親與ヲ絶チ聖體禮儀ノ聖ナル祈禱ニ於テ教會ノ傳ニ循ヒ其名ヲ呼ビ揚ゲザル者アラバ神品タルノ名譽ヲ悉ク褫奪セラルベシ何トナレバ司祭ノ位ニ任セラレタル者ニシテ自ラ府主教ニ委セラル、ノ裁斷ヲ潜有シ裁判ニ先ダチテ自ラ己ノ父及主教タルモノヲ罪定セントスル者ハ司祭ノ名譽及ビ名稱ヲ帶ブルニ當ラザレバナリ此ノ如キ者ニ隨從スル者若シ神品ノ輩ナレバ同ク己ノ名譽ヲ褫奪セラルベク若シ修道士若クハ俗人ナレバ岐教徒ト交親ヲ絶チ己ノ主教ニ復歸スルニ至

ルマデ全ク教會ノ親與ヲ絶タルベシ。

第十四條 若シ主教タル者己ノ府主教ノ有罪ヲ口實トシテ公會ノ之ヲ審査スルニ先ダチ之ト親與ヲ絶チテ慣例ニ循ヒ神聖ナル機密式ニ於テ其名ヲ呼ビ揚ゲザルキハ聖公會此ノ如キ者ニ就テ左ノ如ク議定セリ若シ己ノ府主教ニ背キテ岐教ヲ作ルコト發覺セラル、ハ除黜セラルベシ蓋シ各人須ク己ノ分ヲ知リ司祭タル者ハ己ノ主教ヲ凌蔑セザルベク主教タル者モ己ノ府主教ヲ蔑視セザルベシ。

第十五條 司祭、主教及府主教ニ就テ制定セラレタル事ハ總主教ニモ適用スベキコト勿論ナリ故ニ若シ司祭或ハ主教或ハ府主教ニシテ己ノ總主教ト親與ヲ絶チ神聖ナル機密式ニ於テ會ヲ制定セラレタル規順ニ循ヒ其名ヲ呼ビ揚ゲズ公會ノ宣言シ及全ク罪定スルニ先ダチ岐教ヲ作ルキハ其不法ノ發覺セラル、ト共ニ聖公會全ク其ノ悉クノ神品職ヲ褫奪スベキ事ト議定セリ然レモ本條ハ告訴事件ヲ口實トシテ己ノ司長ニ背キ岐教ヲ作り教會ノ一致ヲ破ル者ニ就テ制定シタルモノナリ何トナレバ聖公會若クハ諸父ノ罪定シタル異端ノ爲メ其司

長ト親與ヲ絶ツ者即チ彼ガ公然異端ヲ唱ヒ聖堂ニ於テ公ケニ之ヲ教授スルハ公會ノ之ヲ審査スルニ先ダチ前記ノ主教トノ親與ヨリ己ヲ預防スル者ハ管ニ規則ニテ定メラレタルノ懲罰ニ服スベカラザルノミナラズ正教徒タルノ名譽ニ適當スルナリ蓋シ彼等ノ罪定シタルハ主教ニ非ズ僞主教及僞帥ニシテ岐教ヲ作リテ教會ノ一致ヲ破リタルニ非ズ乃チ教會ヲ守護シテ岐教及分裂ヨリ防ガント努メタレバナリ。

第十六條 神ノ教會ニ爭論紛擾ノ起ル故ニ因リ左ノ事制定スルコト亦必要ナリ即チ司長ノ尙生存シテ其位ニ居ル所ノ教會ニハ決シテ主教ヲ立ツベカラズ但シ彼若シ自ラ甘ジテ主教職ヲ退クハ此限ニ非ズ蓋シ先ツ彼ガ其ノ主教職ヨリ斥ゾケラルベキ罪ヲ合法的ニ審査シ其ノ除黜セラル、ニ及ビ彼レノ代リニ他人ヲ主教職ニ登庸セザルベカラズ若シ又主教タル者ニシテ其位ニ居リ退職スルヲ欲セズシテ而モ己ノ民ヲ牧スルヲ好マズ王命ニテ拘留セラレタルニモ非ズ己ノ總主教ノ依託ヲ遂行スルガ爲メニモ非ズ又ハ全ク動クコト能ハザル重病ニ罹リタルニモ非ズ此等源因ノ一ニモ妨ゲラレズシテ己ノ主教區ヲ去リ

六ヶ月餘他處ニ居ルハ全ク主教タルノ名譽ト位格トヲ褫奪セララルベシ蓋シ己レニ委テラレタル被牧者ノコトヲ慮ラズ六ヶ月餘他處ニ居ル者ヲバ聖公會全ク其ノ牧スルガ爲メ立テラレタルノ主教職ヲモ免ジテ彼レノ代リ其ノ主教區ニ他人ヲ登庸スベキ事ト議定セリ。

第十七條 我等ハ萬事ニ於テ教會ノ規律ノ守ラレン事ヲ勉メ左ノ事ヲモ議定スルヲ必要ト認メタリ即チ俗人若クハ修道士タル者ハ以後俄ニ主教職ノ高位ニ登用セラレズ乃チ各、先ヅ教會ノ諸職位ヲ經タル後主教タルノ按手ヲ受クベシ蓋シ假令從來修道士若クハ俗人ニシテ必要ノ場合ニ際シ俄ニ主教タル名譽ヲ受ケ德行他人ニ卓越シ其ノ托セラレタル教會ノ名ヲ揚ゲタル者アリト雖モ稀有ノコトハ立テ、以テ教會ノ常法ト爲サズ以後復タ此ノ如ク行ハズ乃チ正當ニ按手ノ禮ヲ受ケタル者ハ神品職ノ諸階級ヲ各、法律ニテ定メラレタル時ノ間履行經過スベキ事ト定ム。

神言ノ睿智ノ殿ニ開設サレシ聖公會ノ規則

第一條 聖全地公會議定セシコト左ノ如シ若シ亞細亞或ハ歐羅巴或ハリウヤニ居ルイタリヤノ教役者若クハ俗人若クハ主教タル者ニシテ至聖ナル「パバ」イヲア_ンニテ或ハ機密ヨリ斥ゾケラル、ノ縛ニ處セラレ或ハ其位ヲ除黜セラレ或ハ「アナフエマ」ニ處セラレタル者ハコンスタンティノポリノ至聖ナル總主教フ_、テイモ亦之ヲ教會ノ同一ノ罰則ニ處スベシ即チ或ハ「アナフエマ」ニ處シ或ハ親與ヲ絶ツベシ而シテ我等ノ至聖ナル總主教フ_、テイガ其ノ如何ナル地方ニ於テスルニ拘ハラズ教衆或ハ俗人或ハ主教ノ位或ハ司祭ノ位ニ居ル者ノ親與ヲ絶チ或ハ除黜シ或ハ詛ニ付シタル者ハ至聖ナル「パバ」イヲア_ン及彼ト共ニロマノ神ノ聖教會モ同ク懲罰中ニ在ル者ト認ムベシ且ロマ教會ノ至聖ナル寶座及其ノ司長ニ屬スル特權ニハ今モ此後ニモ決シテ全ク何等ノ新規ノモノヲモ加フベカラズ。

第二條 從來修道ノ狀態ニ下リタル主教ニシテ依然主教職ノ高尙ナル職務ニ居

ラント勉ムル者アリ而シテ此ノ如キ舉動ハ等閑ニ付セラレタリト雖モ此聖全地公會ハ斯カル不注意ヲ制止シ此ノ規律以外ニ默過サレタル行爲ヲ教會ノ成規ニ復セントシ若シ主教或ハ其他主教ノ位ヲ帶ブル者ニシテ修道ノ生活ニ下リ悔改ノ位置ニ立タント欲スル者ハ以後復タ主教タルノ位格ヲ利用センコトヲ企ツベカラズト議定セリ蓋シ修道士ノ誓約ハ服從及子弟タルノ義務ヲ旨トシ人ノ師タリ首長タルヲ旨トセズ彼等ハ他人ヲ牧セズシテ乃チ牧セラル、者トナランコトヲ誓フ故ニ我等前述ノ如ク茲ニ制定ス凡ソ主教及牧師ノ列ニ居ル者ハ何人タリトモ自ラ己ヲ被牧者及悔改者ノ地位ニ下スベカラズ若シ今宣言スル所ノ制規ヲ公布シ之ヲ世ニ知ラシメタル後敢テ此ノ如ク行フ者アラバ自ラ主教ノ位置ヨリ己ヲ除キ事實上棄テタル所ノ前職ニ復スベカラズ。

第三條 若シ俗人ニシテ高位ニ登リ神及王ノ命令ヲ蔑視シ尊重スベキ教會ノ成規及法律ヲ凌蔑シテ或ハ罪ナキニ或ハ捏造ノ罪ヲ口實トシテ主教ヲ毆打シ又ハ獄ニ幽スル者アラバ「アナフエマ」ニ處セラレメシ。

諸聖父規則

吾等ノ聖父アレキサンドリヤノ大主教及表信者デイオニシイノ主教ワシリドニ與フル規定書

第一條 忠實ニシテ英敏ナル我子ヨ汝ハ我ニ遣ハスノ書ニ於テ我ニ質問シテ曰ク「バスハ祭日ノ前ニハ何レノ時ニ齋ミヲ斷ツベキカト、蓋汝ノ言フガ如ク鷄鳴ニ於テ之ヲ斷ツベシト主張スルノ兄弟アリ又夕刻ヨリ斷タザルベカラズト云フ者アリ、ロマニ在ルノ兄弟ハ鷄鳴ヲ待ツト云ヒ而シテ茲ニ在ル者ハ更ニ早ク齋ミヲ斷ツト汝ハ云ヘリ、汝ハ正確ナル時間ヲ定メ全ク一定ノ時ヲ定メシト云フ求ム然レモ此事タル容易ナラズ且ツ危険ナキニ非ズ、蓋シ吾主ノ復活ノ時ノ後ニ於テ祝賀及歡樂ヲ始ムベク其時マデハ潔齋ヲ以テ靈魂ヲ謙遜ナラシムベキコトハ皆等シク確認スル所ナリ、然レモ汝ガ我ニ遣ハスノ書ニ於テ福音書ニ復活ノ時刻ニ關シテ一モ確乎タルモノナシト證シタルハ最モ理ニ適シ神ノ福音ノ解釋ニ符合スルモノナリ、蓋シ福音者等ガ各時ヲ異ニシテ墓ニ來ル者ノコトヲ記スル所各同シカラズ而シテ彼等皆主ヲ既ニ復活シタル者トシテ見タリ

ト云ヘリマトフイノ言フガ如クンバ安息日遅ク(廿八章)イヲアソノ記スル如ク
 ンバ朝未ダ味ミキウチニ(廿四章)ルカノ言フガ如クンバ味爽ニ(廿四章)マルクノ言フ
 ガ如クンバ平旦、日ノ出ル時(廿六章)ナリ。然レモ何レノ時復活セシヤニ就テハ何
 人モ之ヲ明示セズ。唯夫レ安息日ノ夜、日ノ輝キ出ルル。七日節ノ首日ニ墓ニ來リ
 タル者ガ既ニ主ノ墓ニ居ルヲ見ザリシハ疑ナシ。我等ハ福音者ヲ以テ互ニ齟齬
 撞着スル者ト爲サラン。然レモ若シ彼ノ夜ニ於テ世ノ光タル吾主ノ復活シタ
 ルコトニ就テハ皆一致スルニ其時刻ニ關シテ言フ所各異ナルハ何ゾヤト問フ
 者アルニ因テ異論起ルト思ハ。我等ハ適宜精確ニ其言フ所ヲ符合スルヲ勉メ
 ソマトフイノ言フ所左ノ如シ安息日遅ク七日ノ首日ノ黎明ニマダラノマリ
 ヤ及他ノマリヤハ墓ヲ觀ントテ來リシニ倏チ地大ニ震ヒタリ蓋シ主ノ使天ヨ
 リ降りテ墓ノ門ヨリ石ヲ轉マバシ其上ニ坐セリ。其容電ノ如ク其衣白キコト雪ノ
 如シ守ル者懼レ戰慄ウキテ死スルガ如シ。神使婦ニ謂テ曰ク懼ル、毋レ我爾等ガ
 十字架ニ釘セラレシイイスヲ尋ヌルヲ知ル彼ハ此ニ在ラズ其ノ曾テ言ヒシ
 如ク甦レリト(廿八章一節)遅クノ語ハ此語ノ一般ニ用フル意義ニヨレバ安息日

ノ晩ヲ指スモノナリト想像スル者アレドモ深く考フル者ハ晩ヲ指スニ非スシ
 テ深夜ヲ指スモノナリトス蓋シ遅クノ語ハ遲延及長キ時ノ意ヲ含メバナリ。且
 ツ晩ノコトヲ云ハスシテ夜ノコトヲ云フヲ示サシガ爲メ七日ノ首日ノ黎明ト
 云フノ語ヲ加ヘタリ。而シテ他ノ福音者ノ言フガ如ク既ニ香料ヲ携ヘ來レリト
 云ハスシテ墓ヲ觀ントテ來リ地震ノ起ルニ會シ天使ノ石ノ上ニ坐スルヲ見彼
 ハ此ニ在ラス甦レリトノ言ヲ之ヨリ聞ケリト云フイオアソモ亦之ト同ジク一
 週ノ首日ノ朝未ダ味ミキウチニマダラノマリヤ墓ニ來リテ石ノ墓ヨリ取去トア
 リシヲ見タリト云ヘリ(二十章)是ノ如ク此ノ福音者ノ言ニ依レバ彼女ハ未ダ味
 キウチニ墓ニ來レリルカ亦曰ク彼等誠ニ從ヒ安息日ヲ休ミ七日ノ首日ノ味爽
 ニ備置タル香物ヲ携ヘテ墓ニ來リシニ彼等石ノ墓ヨリ轉バサレシヲ見タリト
 (廿三章五十六節)味爽トハ思フニ七日ノ首日ノ黎明ノ光ヲ發セントスル時ヲ指
 スモノナラン蓋シ彼等ガ香料及ビ膏油ヲ携ヘテ來リシ時ニハ安息日ハ之ニ次
 クノ全夜ト共ニ全ク過キ去リテ次ノ日始マリタレバナリサレバ主ガ之ヨリ久
 シキ以前ニ復活セシコト明カナリマルクノ言フ所亦之ニ符合ス曰ク香料ヲ買

ヒ備へ彼レニ抹ントテ来リ七日ノ首ノ日最早ク日ノ出ル時墓ニ來レリ(十六節)
 此ノ最早クト云フハ味爽ト云フト意義同ジクシテ且之ニ加フルニ日ノ出ル時
 ノ語ヲ以テセリ。彼等ノ家ヲ出テ途ニ上リタルハ味爽即チ早朝ニシテ其ノ墓ニ
 至ルマデノ歩行ニ日ノ出ツルマデノ時間ヲ費セシコト明カナリ。時ニ白衣ヲ着
 タル少者彼等ニ謂テ曰ク彼ハ甦リテ此ニ居ラズト(馬可十六節)我等ハ之ヲ當然ノ
 事ト假定シ何レノ時或ハ何レノ時ノ半ニ或ハ何レノ時ノ四分一ニ於テ吾主ノ
 死ヨリノ復活ノ歡樂ヲ始ムベキカラ正確ニ解釋セント求ムル者ニ答フベシ。非
 常ニ急速ナランコトヲ欲シ假令久シカラズトモ夜半前ニ齋ミヲ廢スル者ハ我
 等之ヲ小膽不節制ノ者トシ將ニ終ラントスルノ行爲ヲ全フセザル者トシテ之
 ヲ嘉ミセズ。蓋シ賢人ノ言フガ如ク功ヲ一餐ニ欲クノ事モ生活上ニ於テ忽カセ
 ニスベカラサルノ事ナリ。更ニ長キ間齋ミヲ守リ四更即チ吾教主ガ海ヲ歩シテ
 航海者ニ現ハレタル時マデ之ヲ忍ビ齋ミヲ釋クコトニ於テ最後ノ者タラント
 欲スル者ハ剛毅及勉強ノ人トシテ我等之ヲ嘉ミス。又己ノ特別ノ意思若クハ己
 ノ力如何ニヨリテ彼此ノ時ノ間ニ齋ミヲ釋ク者モ我等深ク之ヲ咎メズ。蓋シ六

日ノ齋ミヲ守ルコトニ就テモ各人皆同等一様ナラズシテ乃チ或ハ食ヲ斷チテ
 悉ク彼ノ日ヲ送ルモノアリ又或ハ二日或ハ三日或ハ四日食ヲ斷ツモノアリ又
 或ハ一日モ之ヲ斷タザルモノアレバナリ。全週間全ク食ヲ斷タント力メ而シテ
 後疲勞シテ氣力ヲ失ハントスルニ至ル者ハ早ク食スルモ可ナリ。若シ夫レ齋ニ
 食ヲ斷チテ日ヲ送ラサルノミナラズ齋ヲモ守ラス甚シキハ前四日ノ間放逸ヲ
 事トシ而シテ最後ノ二日ニ至リ此ノ金曜土曜ノ兩日ノミ食ヲ斷チ齋ミヲ守リ
 テ曉明ニ至リ偉大赫々ノ事ヲ行ハント想像スル者ノ如キハ予之ヲ多クノ日數
 間齋ミヲ爲シタル者ト其功同ジキモノト思ハズ。予ハ予ノ見解ニ從ヒ之ヲ書シ
 テ汝ニ勸告ス。

第二條 月經中ノ婦ガ此ノ如キ情態ニ於テ之ニ神ノ堂ニ入ルコトヲ許シテ可ナ
 ルヤ否ヤニ就テハ問フモ無益ナリト思考ス。蓋シ彼等ニシテ若シ眞信者ニシテ
 敬虔ノ者ナランニハ敢テ或ハ聖晚餐ニ近接シ又ハハリストスノ體血ニ觸ルベ
 シトハ予ノ思惟セザル所ナリ。蓋シ十二年血漏ヲ煩ヒタルノ婦モ癒サレンガ爲
 メ彼ニ觸レズシテ只其裾ニ觸レタリ。如何ナル情態ニ在ルニセヨ將タ如何ナル

心地ナルニセヨ祈リテ主ニ頼ビ佑助ヲ求ムルコトハ禁セザル所ナリ然レモ靈
身共ニ全ク清カラザル者ノ至聖中ノ聖ナルモノニ近接スルコトハ宜ク禁スベ
シ。

第三條 結婚シタル者ハ須ク自ラ己ノ充分ナル裁判者タルベシ蓋シ彼等ハ互ニ
意ヲ合セテ祈禱ヲ務メンガ爲メ暫ク相別ルハ可ナリ後復タ合フベシ(哥林多
前書七
章五
節)ト書スルパウエルノ言ヲ聞ケリ。

第四條 夜中遺精シタル者モ亦宜ク己ノ良心ニ從ヒ自ラ之ニ由リテ疑惑中ニア
ルヤ否ヤヲ試ムベシ乃チ使徒ノ食物ニ就テ言フ所ノ如シ曰ク疑フ者若シ食ハ
バ罪ニ定メラルト(羅馬十四章
二三節)此場合ニ於テモ凡ソ神ニ接近スル者ハ宜ク自己
ノ考慮ニ由リテ善キ良心ト善キ決心トヲ有スベシ。
愛スル者ヨ汝ハ我輩ヲ尊ブヨリ蓋シ疑モナク知ラザル者トシテニ非ズ此ノ質
問ヲ我輩ニ提出シ我等ヲシテ現ニ有ル如ク汝ト一意同心ノ者タラシメントセ
リ予ハ師ノ如クセズ乃チ互ニ講究スルハ我等ノ當ニ爲スベキコトナル故淡泊
ニ我ガ説ヲ參考トシテ此ニ提出ス思慮深キ我ガ子ヨ汝ハ須ク之ニ就テ思考シ

而シテ汝ニ之レヨリ更ニ正シク更ニ善キ考セアルカ或ハ之ヲ當然ト見做スカ
ラ我輩ニ書セ愛スル所ノ我ガ子ヨ汝ガ壯健安和ニシテ主ニ事ヘンコトヲ希望
ス。

アレキサンドリヤノ大主教及致命者聖ヘートルノ痛悔ニ關スル説教中ノ規則

第一條 寤逐後第四回ノ「パス」既ニ近ツキタルニ因リ彼ノ告訴セラレテ獄ニ投セラレ苛酷ナル苦ト堪フベカラザルノ傷及其他多クノ慘虐ヲ受ケ後ニ至リ身體ノ羸弱之ニ背キタル者ニハ親與ヲ絶ツノ期充分ナリ彼等ハ極メテ重キ背教ノ罪ニ陥リタル故ニヨリテ初メ教會ニ容レラザリシニモセヨ彼等ハ多ク苦ヲ受ケテ長ク抵抗シタルニ因リ何トナレバ彼等ノ罪ヲ犯スニ至リタルハ其意ニ依ルニ非スシテ身體ノ羸弱之ニ背キタルニ因レバナリ蓋シ彼等ハ己ノ體ニイイススノ疵ヲ顯ヘシ且涕泣シテ既ニ二年ヲ經タル者アリ此ノ懲罰ニ加フルニ其ノ教會ニ近ツキタル時ヲ記憶シテ更ニ四十日ヲ以テスベシ我等ノ主及救世主イイススハリストスハ領洗後此ノ如キ日數ノ間禁食シテ魔ニ誘ハレタリ彼等モ此ノ如キ日數ノ間專ラ修法シ熱心ニ齋ミシ且ツ祈禱ニ於テ主ガ己レニ叩拜スルヲ要求シタルノ試惑者ニ向テ撒但我ヨリ退ケ蓋シ主爾ノ神ヲ拜シ獨

リ彼レニ事フヘシト録サレタリ(馬太四章十節)ト云ハレタルコトヲ絶ニス思念シテ傲醒スベシ

第二條 只邇卒ニ捕ヘラレ獄中ニ於テ恰モ籠城中ニ在ル如ク艱難ト臭氣トヲ忍ビ受ケテ後慘苦ト戰ハズシテ體力ノ甚ダ乏シキト蒙昧ナルトニ由リテ氣ヲ挫カレ囚虜トナリタル者ニハ前記ノ時期ニ一年ヲ加フルヲ以テ足レリトス何トナレバ彼等モ獄中ニ在テ兄弟ヨリ至大ノ慰藉ヲ受ケタリト雖モハリストスノ名ノ爲ニ全ク己ノ身ヲ苦難ニ投シタレバナリ彼等ハ魔ノ辛キ虜ヨリ脱センコトヲ望ミ就中左ノ言ヲ記憶シツ、之ガ爲メ多クノ利ヲ付シテ報恩スベシ曰ク主ノ神我ニ在ス彼レ我ニ膏ヲ沃キテ貧者ニ福音ヲ傳ヘシメ俘囚ニ釋サル、コトヲ醫者ニ明ヲ得ルコトヲ傳ヘシメ心ノ傷メル者ヲ釋シテ慰ヲ得セシメ主ノ禧年ト復仇ノ日ヲ傳ヘシム(以賽亞六十一章一、二節 路加四章十八、十九節)

第三條 又毫モ是クノ如キ苦ヲ受ケズ信ノ果ヲ示サズ乃チ小膽恐怖ニ襲ハレ自ラ甘ジテ奸惡ノ徒ニ投ジ而シテ今來リテ悔改スル者ニ對シテハ主ノ言フガ如ク無花果樹ノ譬喩ヲ適應スルコト必要且當然ナリトス曰ク或人其ノ葡萄園ニ

無花果樹ヲ植エ來リテ之ニ果ヲ求ムレドモ得ス乃チ園丁ニ語テ曰ク我三年來
 リテ此ノ無花果樹ニ果ヲ求ムレトモ得ズ之ヲ斫リ去レ何ソ徒ラニ地ヲ塞クヤ
 園丁對ヘテ曰ク主其周圍ヲ堀リテ之ニ糞コフスルマデ今歲モ容セ或ハ果ヲ結フベ
 シ否ラズバ則チ後ニ之ヲ斫ルベシト(路加十三章 六、七、八、九節)宜ク此譬喩ヲ己ノ眼前ニ置キ
 此ノ如キ歲月間即チ四年ノ間ニ悔改ニ相當スルノ果ヲ示シ以テ大ナル利益ヲ
 受クベシ。

第四條 全ク失望シテ悔改セズエフオビヤ人ノ易ハラザル面皮ト栗毛馬ノ栗毛
 ヲ受ケタル者ニ對シテハ他ノ無花果樹ニ就テノ宣告ヲ之ニ宣告スベシ即チ今
 ヨリ後爾ハ永ク果ヲ結バサラント云フ見也(馬太廿一 卅九節)是ヲ以テ彼レ立ロニ枯レ
 タリ傳道ノ書ニ言フ所亦彼等ニ應セントス曰ク曲クル者ハ直クスル能ハズ缺
 クル者ハ敷フベカラズト(傳道之書 卅五節)蓋シ曲カリタル者ハ先ニ之ヲ矯ムルニ非
 サレバ直クスル能ハズ缺ケタル者ハ先ニ補フニ非サレバ之ヲ敷フルコト能ハ
 サルナリ故ニ預言者イサイヤノ言フ所モ亦遂ニ彼等ニ遭遇スベシ曰ク彼等將
 ニ我ニ悖逆シタル者ノ屍ヲ視ントス蓋シ其蟲ハ死セズ其火ハ熄ニス凡ソ血氣

アル者ノ憎惡スル所トナラント(以賽亞六十 六章廿四節)蓋シ彼亦預言スル所ノ如シ曰ク惡
 人ハ激浪ノ如クニシテ恒ニ安靖ナラズ神曰ク惡者ハ終ニ安ヲ獲ズト(同上 五十二
 一及廿一)

第五條 自ラ狂者ニアラザルモ死ヲ免レンガ爲メ伴狂シタルダウイドノ如ク伴狂
 シタルモノアリ彼等ハ直接ニ信仰ニ背クコトヲ自記セス乃チ恰モ思慮アリ知
 識アルノ小兒ガ無智ノ兒ヲ嘲笑スル如ク甚ダ切迫シタル事情ニ際シ狡猾ヲ以
 テ敵ヲ嘲弄シ即チ或ハ偶像ノ祭壇ノ側ヲ通過シ或ハ手書ヲ交付シ或ハ異教人
 ヲシテ己ヲ代表セシメタル等ノ事ヲ爲セリ聞クガ如クンバ彼等ハ深ク注意シ
 ツ、己ノ手ヲ以テ不淨ナル魔ニ火ヲ焚キ香ヲ燻スルヲ避ケタルト其非ヲ悟ラ
 ス無智ニ依リテ之ヲ行ヒタル故ニ因リ表信者タル者ニシテ彼等ノ或者ニ寬典
 ヲ垂レタル者アリト雖モ彼等ガ悔改ヲ以テ神ニ歸スルニ至ルマデニハ之ニ六
 ケ月ヲ定ムベシ蓋シ是クノ如クセバ彼等モ亦預言者ノ言ヲ思考シツ、之レニ
 テ更ニ多クノ利益ヲ得ン曰ク一嬰兒我等ノ爲ニ生レタリ一子我等ニ賜ハリタ
 リ政事ハ其肩ニアリ其名楯シテ奇妙ト曰ヒ策士ト曰ヒ全能ノ神ト曰フ(以賽亞六

節)此子ハ汝ノ知ル如ク其ノ世ニ臨ムニ先ダチ赦罪ノ悔改ヲ宣ベタル他ノ子ノ
 懷孕シタル後六ヶ月目ニ於テ同ク悔改ヲ傳ヘンガ爲メニ孕マレタリ蓋シ我等
 ハ二人ノ宣教者ガ先ツ誓ニ悔改ノコトノミナラズ天國ノコトヲ傳フルヲ聞ケ
 リ而シテ其天國ハ我等ニ諭サレタル如ク我等ノ衷ニ在リ(路加十七)何トナレバ
 我等ガ信スル所ノ言ハ近キニアリテ我等ノ口ト我等ノ心ニアレバナリ即チ天
 國ノ事ヲ記臆セラル、ヤ彼等ハ己ノ心ニ神ガイイススハリストスヲ死ヨリ甦
 ラシタルヲ信ジ己ノ口ヲ以テ彼ヲ主ナリト認ムベキヲ教諭セラル、ナリ蓋シ
 我等ハ人ハ心ニ信ジテ救ハルト聞ク(羅馬十章)

第六條 又或者ハ僕タルハリステアニシテ己ノ代表者トシ而シテ僕ハ隸屬者ニ
 シテ恰モ己ノ主人ニ束縛セラル、ガ如キ觀アルヨリ彼等ニ威嚇セラレ彼等ヲ
 恐ル、ヨリシテ偶像崇拜ヲ爲シ罪ニ陥リタル者アリ此ノ如キ僕ハ一年間悔改
 ノ事實ヲ示シ以テ以後ハリストスノ僕ニシテ神ノ旨ヲ遵行シ之ヲ畏ルベキヲ
 教ヘラレ就中僕ニモアレ自主ノ者ニモアレ凡ソ善ヲ行フ者ハ主ヨリ報ヲ受ケ
 ン(以弗所六)ト云フノ言ヲ聽クベシ

第七條 自主ノ者ハ其ノ僞善ノ事ヲ行ヒタルト己ノ僕ヲシテ強テ偶像ニ献祭セ
 シメタル故ニ因リ三年ノ間悔改ニ於テ試ミラルベシ蓋シ彼等ハ之ヲ以テ主人
 タル者ガ我等ニモ亦彼等ニモ天三人ヲ偏視セサルノ主アルヲ知リテ其僕ヲ遇
 シ属言ヲ用フルナカラシムコトヲ欲スルノ使徒ニ逆ヘバナリ(以弗所六)或ハ夷狄
 或ハスキフ人或ハ僕或ハ自主ノ別ナクハリストスハ万物ノ上ニ在リ又萬物ノ
 中ニ在ルガ故ニ(哥羅西三)我等人ヲ偏視セサル惟一ノ主ヲ戴クトセンニ己ノ
 靈ヲ救ハント欲スル者ハ使徒ノ言フガ如ク若シ義ニ循ヒ公平ヲ以テ彼等ニ施
 シタランニハ(同上四)避クルコトヲ得ベカリシ所ノ己ノ僕ヲシテ偶像崇拜ニ陥
 ラシメ以テ自ラ如何ナル事ヲ爲シタルカヲ顧ミサルベカラズ

第八條 捕ヘラレテ仆レタルモ自ラ進ンテ苦ヲ受ケントシ己ヲハリステアニシ
 ナリト宣言シ獄ニ投セラレテ苦シメラレタル者ハ心ノ喜ビヲ以テ之ヲ堅メ萬
 事ニ於テ即チ祈禱ニ於テモハリストスノ鉢血ヲ領スル事ニ於テ之ト相與ニシ
 言ヲ以テ之ヲ慰メ之ヲ苦ヲ忍ビ以テ天職ノ名譽ヲ得セシムベシ蓋言フアリ
 曰ク義人ハ七タビ厥ル、モ復タ起ツト(箴言廿四)若シ仆レタル者亦皆此ノ如ク

行ハンニハ是レ完全熱心ノ悔改ヲ表シタルモノナリ
 第九條 又未ダ發覺セラレス只拘引セラレントスルニ際シ恰モ夢ノ醒メタルモ
 ノ、如ク進ンテ苦ヲ受ケントシ自ラ己ヲ激波怒濤ニ等シキ誘ヒニ己ヲ投ジ就
 中罪人ノ火ヲ兄弟ニ向ケテ更ニ烈シク燃起シタル者ニ對シテモ亦親與ヲ保ツ
 ベシ蓋シ此ノ如キ輩ハタトヒハリストスガ祈禱シテ誘ニ入ルヲ免カルベキヲ
 諭シ(馬太廿六章)復タ祈禱ニ於テ父ニ向ヒ我等ヲ誘惑ニ導カス乃チ我等ヲ兇惡
 ヨリ救ヘト言フヘキヲ教ヘタル(路加十二)ノ言ニ意ヲ注カスト雖モハリストス
 ノ名ノ爲メニ進ンテ之ヲ爲シタレバナリ想フニ彼等ハ我等ノ主宰且師タル者
 ガ屢彼ヲ陷レントセシ者ヲ避ケ時トシテハ彼等ノ爲ニ公ケニ歩行セズ受苦ノ
 期近ツクニ及ンデモ自ラ己ヲ交付セス乃チ及ト挺トヲ以テ彼ニ向ヒ來ルヲ待
 チ之ニ爾等盜ヲ捕フルガ如ク刃ト挺トヲ以テ來リテ我ヲ執フルカ(馬可十四章)
 ト云ヘルヲ知ラサルナラン福音者ノ言フ所ニ依ルニ彼等ハ之ヲヒラトニ付シ
 タリ彼レノ驥尾ニ付スル者モ亦彼レノ神言ヲ服膺シ彼レニ倣ヒテ苦ヲ受ケタ
 リ蓋シ彼レハ其言ヲ以テ我等ヲ獎勵シツ、窘逐ノコトヲ謂テ曰ク謹ミテ人々

ニ注意セヨ蓋シ彼等ハ爾等ヲ裁判所ニ解シ又其會堂ニ於テ爾等ヲ鞭タントス
 ト即チ彼ハ爾等ヲ解サントスト云ヒ自ラ己ヲ付セヨト云ハズ又爾等我が名ノ
 爲ニ侯伯及王ノ前ニ曳キ往カレントスト云ヒ(馬太十章十)自ラ己ヲ曳キ往ケト
 云ハズ蓋シ彼レノ望ム所ハ我等ヲシテ彼レノ名ノ爲メニシテ窘逐セラル、キ
 ハ是ヨリ彼ニ轉セシメントスルニアリ即チ復タ彼レノ言フ所ノ如シ曰ク爾等
 一ノ邑ニテ迫害セラレバ他ノ邑ニ逃レヨト(馬太十章十)是レ即チ彼ガ我等ヲシテ
 自ラ魔ノ楯ト劔トヲ執ル者ニ近ツキ以テ益、彼等ヲ激シテ兇殺ヲ行ハシメ彼等
 ノ爲メ多クノ死ヲ生スルノ因タラシムルヲ欲セズ乃チ我等ヲシテ自ラ持重シ
 己ヲ慎ミ警醒祈禱シテ誘ヒニ導キ入レラル、ヲ免レシメント欲スルナリ例ヘ
 バ彼レノ轍ヲ履ミ始テ苦ヲ受ケタルステファンノ如キイエルサリムニ於テ暴徒
 ニ執ヘラレ議會ニ曳キ往カレテ主イエイススハリストスノ名ノ爲ニ石擲セラル
 ルニ際シ祈禱シツ、頌讚シ謂テ曰ク主ヨ此罪ヲ彼等ニ負ハシムル勿レト(行實
六十)又イヤコフハイロドニ執ヘラレ劔ニテ其頭ヲ刎ラレタリ又諸使徒中ヨリ
 選拔セラレタルペートルハ數捕ヘラレ獄ニ幽セラレ辱ヲ蒙リ遂ニロマニ於テ

十字架ニ釘セラレタリ。又彼ノ最モ稱讃スヘキパウエルハ屢捕ヘラレ殆ト絶命スルホドノ苦ヲ受ケ多ク艱難ヲ冒シ多クノ窘逐憂悲ヲ以テ自ラ誇リタル後同府ニ於テ劔ニテ頭ヲ刎ラレタリ。彼ハ艱難ヲ以テ誇リナガラダマスキニ於テ夜半筐ヲ以テ牖ヨリ石垣ニ沿ヒ縋リ下サレテ彼ヲ捕ヘントセシ者ノ手ヲ脱セリト云ヘリ(福音三十二節)蓋シ彼等ノ主眼トスル所ハ福音ヲ傳ヘ神ノ言ヲ教フルニ在リ彼等之ヲ以テ兄弟ノ心ヲ堅ウシ其ノ常ニ信仰ニ居ランコトヲ勸メツ、我等ハ多クノ艱難ヲ歷テ神ノ國ニ入ラサルヘカラズト云ヘリ(行實十四章)蓋シ彼等ハ己ノ利益ヲ求メズシテ多クノ人ノ救ヲ得ンコトヲ謀レリ。此ノ如キ人々ノ爲メ此事ニ關シ深思熟考シテ行ハンコトヲ言フヘキコト多々アルベシト雖モ使徒ノ言フカ如ク我之ヲ説クノ時足ラサルナリ(希伯來十一節)

第十條 故ニ教衆ニシテ自ラ好ミ出テ、苦ヲ受ケ仆レテ而シテ再ビ苦ヲ受ケタル者ハ後ニ至リ之ヲシテ聖務ニ與カラシムルコト其當ヲ得ズ蓋シ彼等ハ主ノ群ヲ棄テ、自ラ己ヲ辱カシメタル者ニシテ使徒ノ中何人モ行ハサル所ナレバナリ。蓋シ幾多ノ窘逐ヲ經、苦中ニ於テ屢勝利ヲ表シタル福タル使徒パウエルノ如

キ寧ロ形體ヲ脱シテハリストト共ニ在ルノ更ニ美事タルヲ知レリト雖モ又我ガ肉身ニ居ルハ爾等ノ爲ニ更ニ必要ナリトノ言ヲ加ヘタリ(腓立比一節)蓋シ彼ハ己ノ利益ヲ顧ミズ乃チ衆人ノ益ヲ謀リ其ノ救ヲ得ンコトヲ欲スルヨリ兄弟ト共ニ居リ彼等ノコトヲ慮ルヲ以テ自己ノ安息ヲ求ムルヨリモ更ニ必要ノ事ト見做セシナリ。彼ハ又教フル者ニモ自ラ學ビ信者ノ模範ト爲ルヘキヲ命ズ故ニ仆レテ而シテ獄ニ於テ再ビ苦ヲ受クルニ至リタル者聖務ニ與カルノ權利ヲ得ントスルハ全ク無知ノ所爲ナリ。蓋シ斯カル時代ニ際シ兄弟ヲ益スルヲ得ヘキ時ニ於テ棄テタルモノヲ蓋ゾ復タ求ムベケンヤ彼等ニシテ驟カサル以上ハ其ノ無分別ノ所爲ヲ赦サルヘシト雖モ仆レタル者ハ秩序ヲ亂リ自ラ己ヲ辱カシメタル者トシテ既ニ聖務ヲ執行スル能ハズ。乃チ宜ク虛榮心ヲ去リ心ヲ謙遜ニシテ専ラ如何ニシテ己ノ分ヲ盡スヘキカヲ慮ルベシ。蓋シ鄭重且正確ニ守ラル、ノ親與ハ二箇ノ理由ニ由リテ彼等ニ充分ナリ即チ一ハ彼等ヲシテ憂悲ニ堪ヘス斯世ヲ去ランコトヲ熱切ニ希望セザラシメンガ爲メ一ハ或ル仆レタル者ヲシテ恰モ其ノ負ハセラル、懲罰ノ故ニ因リテ氣力ヲ失ヒタル如キ口實

ヲ得セシメサラシガ爲メナリ此ノ如キ輩ハ彼ノ基ヲ置テ之ヲ全ウスルコト能ハサリシ者ノ例ニ由リテ最モ甚シク耻辱ヲ受クベシ蓋シ言フ所ノ如ク基ヲ置テ成ス能ハズバ見ル者必ス皆之ヲ晒フテ此人ハ築キ始メ而シテ成シ遂ゲサリシト曰ハン(路加三十四章廿九節)

第十一條 曾テ沸騰セル窘途ニ自ラ投ジタル者アリ彼等ハ審廷ノ周圍ニ立チ聖致命者ノ進ンデ天職ノ名譽ヲ得ントスルヲ傍觀シシ、就中多クノ人ノ誘ハレテ信仰ニ背クヲ見ル時ニ於テ善良ナル熱心ニ勵マサレ毅然トシテ自ラ之ニ投ジタリ彼等ハ之ガ爲メ衷心燃ユルガ如ク高慢ナル敵ニ反抗セントノ内心ノ聲ニ喚起セラレ進ンデ苦ヲ受ケ以テ彼ヲシテ夫ノ毅然トシテ截斷毆打ノ鋒先火責メ水責メ等ヲ甘受スル者ニ勝ダレタルヲモ知ラズシテ狡猾手段ヲ以テ勝タント思惟シ以テ自ラ賢ナリト思ハザラシメントセリ此ノ如キ人々ニシテ或ハ獄中ニ在テ苦ヲ受ケ飢渴ノ爲ニ屈シ又ハ獄ノ外ナル審廷ニ於テ截斷及毆打ニテ苦メラレ後チ肉身ノ羸弱ノ爲ニ屈シタル者ノ爲メ信仰ニ由リ祈禱懇求ヲ獻グルコトヲ請フ者アルキハ之ヲ諾スルコト至當ナリ蓋シ苦ヲ受クルニ當リ

奸惡ナル魔ノ大力ノ爲メ屈シタル兩親或ハ兄弟或ハ子女ノ爲ニ涕泣號哭スル者ト憂苦ヲ共ニスルハ何人ニ取リテモ毫モ害トナラザルナリ何トナレバ我等ハ他人ノ信仰ニ由リテモ罪ノ赦免ト身體ノ健全及死者ノ復活ニ對スル神ノ慈悲ヲ受クル者アルヲ知レバナリ是ヲ以テ我等宜ク彼等ガ曾テハリストスノ名ノ爲ニ受ケタル多クノ苦難災厄ヲ記憶シ且ツ獨リ之レノミナラズ彼等ガ痛悔シテ其節ヲ變ジタルノ行爲ヲ哭スルニ身体ヲ疲勞戕害スルヲ以テシ隱遁シテ品行ニ就テノ善キ證明ヲ有スル者ハ我等之ト共ニ祈禱シ夫ノ我等ノ爲メ父ニ對シテ仲保ト爲リ我等ノ罪ノ爲ニ其怒ヲ宥メタル者ニ依リテ贖罪及其他適當ノ幸福ヲ得ンコトヲ請フベシ蓋シ言ヘルアリ曰ク若シ人罪ヲ犯セバ我等ノ爲ニ父ノ前ニ仲保アリ即チ義人イイススハリストスナリ彼ハ我等ノ罪ノ爲メ贖罪ノ祭物ナリト(約翰第一節二節)

第十二條 全ク何等ノ奸惡ニテモ煩ハサル、事無カラシ爲メ金銀ヲ予ヘタル者ニハ之ヲ以テ其罪ト爲ス可ラズ何トナレバ主ガ曾テ人若シ全世界ヲ獲ルトモ己ノ生命ヲ失ハ、即チ亡サバ何ノ益アラシヤト云ヒ(馬太十六章二十六節)又爾等神ト財

トニ兼子事フルコト能ハズ(註加十六)ト云フニモ拘ハラヌ貪婪ニ由リテ之ヲ爲
 サマル者アルニ彼等ハ己ノ靈魂ヲ失ヒ即チ亡サマランガ爲メ損害ヲ蒙リテ金
 錢ヲ失ヘリ蓋シ彼等ハ窘逐者ノ前ニハ神ニ事フル者金銀ヲ厭惡蹂躪シ之ヲ蔑
 視シタル者ト見做サレ以テ録スル所ノ事ヲ遵行セリ曰ク人ノ資財(タカラ)ハ其生命ヲ
 贖フモノトナルト(註百十三)蓋シ使徒行實ニモソルンニ於テパウエル及シラノ爲
 メ邑宰ニ曳キ往カレタル者ハ保金ノ爲ニ釋サレタリト記ス即チハリストスノ
 名ノ爲メ大ニ彼等ヲ辱カシメ民ト邑宰トヲ煽動シタル後イアソント其餘人ト
 ノ保ヲ取リテ之ヲ釋シ兄弟ハ夜ニ乗ジパウエル及シラヲシテベリヤニ往カシメ
 タリ(行實十七及十九)

第十三條 故ニ靈魂ノ救ヒノ爲メ一切ヲ棄テ、遁走シタル者ハ他人ガ彼等ノ爲
 ニ捕ハレタリトテ有罪トセラル可ラズ蓋シエフェスニ於テモパウエルノ代リニバ
 ウエルニ同行シタルガイ及アリスタル執ヘラレテ辱メヲ受ケ而シテ此等擾タル彼
 ガ多クノ民ヲ敬虔ニ導キ之ニ歸セシメタル故ニ因リテ起リタルガ故ニ彼レ民
 衆ノ間ニ入ラント欲セシニ録スル所ノ如ク門弟等之ヲ許サズ又アッシリヤノ牧

伯數人會テパウエルト友タル者モ人ヲ遣ハシ其ノ自ラ鐵圍ニ投セザランコトヲ
 勸告シタリ(行實十九及二十一)若シ執拗ニシテ夫ノ逃遁シテ爾ノ生命ヲ救ヘ回顧ス
 ル毋レ(創世記十九)ト云フノ言ヲ誠心服膺スル者ト論争スル者ハ宜ク諸使徒中
 ヨリ選拔セラレタルベイトルヲ記憶スベシ彼レ既ニ執ヘラレテ獄ニ投セラレ
 十六人ノ兵卒之ヲ守リタルニ夜半主ノ使ノ命ニ因リ逃レテイロドノ兇殺ノ手
 トイウデヤ民ノ願望スル所ヨリ脱シタリ曰ク且ニ及ビベイトルハ如何ナリシ
 乎ト兵卒ノ中ニテ其騷擾容易ナラサリキイロド之ヲ索メテ獲ス守卒ヲ審問シ
 命ジテ之ヲ殺サシメタリト(行實二十九)而モ彼等ノ爲メベイトルハ何等ノ罪ヲ
 モ負ハセラレザリキ蓋シ該事件ヲ目撃シタル者ハ猶ホ夫ノウィフレエム及其附
 近ニ居リタルノ小兒ガ若シ其兩親ガ將ニ起ラントスルノ事ヲ知リタランニハ
 爲シタラン如ク逃遁シテ可ナリ蓋シイロドガ殺害セントシテ尋ヌル嬰兒ハ神
 ノ使ノ命ニ依リテ逃遁シタルニ録スル所ノ如ク彼レニ命セラレタルノ名ニ應
 ジテ既ニ囚虜ヲ迅速ニシ掠奪ヲ擅ニシ彼ノ小兒等ハ兇殺者イロドニ依リテ一
 嬰兒ノ爲ニ殺害セラレタリ曰ク其名ヲ「マゲルセラル」ハシバズ囚虜ヲ迅速ニシ

掠奪ヲ擅ニスト稱ヘヨ蓋シ嬰兒ノ未ダ我父我母ト呼ブモトヲ識ラザルノ先キ
 ダマスクノ富トサマリヤノ財ハ奪ハレテアッシリヤ王ノ前ニ到ルベケレバナリ
 ト(以賽亞八章三四節)故ニ博士等ハ既ニ生擒セラレ捕虜ト爲リタルモノ、如ク其寶盒ヲ
 啓キ最モ貴重ノ禮物タル黄金乳香沒藥ヲ献ジ嬰兒ヲ王及神並ニ人トシテ謹シ
 デ恭ク之ヲ拜セリ故ニ彼等ハ照管ニ導カレテ再ビアッシリヤ王ニ歸ルヲ欲セザ
 リキ蓋シ福音者曰ク彼等夢ニイロドニ返ル勿レトノ默示ヲ得テ他ノ道ヨリ己
 ノ國ニ歸レリト故ニ慘酷ナルイロドハ其ノ欺カレタルヲ知リテ大ニ怒リ博士
 ヨリ探知シタル時ヲ度リ人ヲ遣ハシテウフレエムト其ノ凡テノ境ノ内ニアル
 二歳以下ノ嬰兒ヲ悉ク殺セリ(馬太二章十及十六節)又之ト共ニ彼ヨリ先キニ生マレタル
 他ノ嬰兒ヲモ殺サントシ之ヲ索メ獲ズシテ其父ザハリヤヲ聖所ト祭壇トノ間
 ニテ殺セリ而シテ嬰兒ハ母エリサウタト共ニ逃レタリキ然レモ之ガ爲メ彼等
 ヲ非難スル者ナシ

アッシリヤ王ノ稱ハ聖ヘルトル之ヲ前ニ引用セシイサイヤノ預言ヨリ取リタルモノ
 ニシテ神聖ノ嬰兒ハリストスニ敵抗シ之ニ勝タレタルイロドニ適用シタルナリ

第十四條

リウイヤニ在ル者ニ就テ至福ナル致命者及ビ其他ノ同役者ノ獄中ヨリ
 予ニ書セシ如ク多クノ壓制強迫ヲ受ケ口ニ鐵ヲ押當テラレ桎梏ヲ受ケ而シテ
 信仰ヲ愛スルヨリ依然志ヲ易ヘズ強テ不淨ノ献祭ニ近ヅケラレタル己ノ手ノ
 燒クルヲ毅然トシテ忍ブ者アリ此ノ如キ輩ハ就中若シ他ノ兄弟モ之ヲ保證ス
 ルニ於テハ聖務ニ與カルヲ得テ表信者ノ數ニ加ヘラルベシ多クノ苦ヲ受ケテ
 氣絶シ既ニ言モ聲モ放ツ能ハズ或ハ空シク壓制スル者ニ抵抗スル能ハザル者
 モ亦之ニ同ジ蓋シ彼等ハ予ノ復々同役者ヨリ聞ク所ノ如ク彼等ノ醜穢ニ同意
 セザレバナリ又凡ソライモフエイノ例ニ倣ヒ其ノ言フ所ニ從テ生活スル者モ表信
 者ニ加ヘラルベシ曰ク宜ク義ト敬虔ト信仰ト愛ト堪忍ト柔和トヲ慕フベシ宜
 ク信ノ善戰ヲ爲シテ永生ヲ取ルベシ爾之ガ爲ニ召ヲ蒙リタリ且己ニ多證者ノ
 前ニ善キ信認ヲ表シタリト(提摩太前書六章十一及十二節)

第十五條

彼レノ「パスハラ」説教中ノ語
 我等ガ水曜及金曜日即チ古傳ニ由リテ我等ニ齋ミスルコトヲ當然ニ誠メラル
 ルノ日ヲ守リタリトテ何人モ我等ヲ譴責スベカラズ水曜日ニ於テハイウデヤ

人ガ主ヲ交付スルコトノ協議ヲ爲シタル故ニ依リ、金曜日ニ於テ、ハ彼ガ我等ノ爲ニ苦ヲ受ケタルニ依ルナリ。日曜日ハ此日ニ復活セシ者ノ爲メ喜ビノ日トシテ之ヲ送ルベシ。我等ハ此日ニ膝ヲ屈ムル事ヲモ傳承セズ。

子オケサリヤノ大主教奇蹟者聖グリゴリイノ規程書

第一條 至聖ナル「パパ」ヨ捕虜ガ假令其ノ制御者ヨリ供セラレタルモノヲ食スルトモ食物ハ我等ヲ害セス況ンヤ我等ノ國ニ侵入シタルノ夷狄ガ偶像ニ献祭セズトハ衆人ノ齊シク唱道スル所ナルニ於テヲヤ使徒曰ク食ハ腹ノ爲メ腹ハ食ノ爲メナリサレド神ハ此モ彼モ滅スベシト(哥林多前書六章十三節)救主モ凡ソノ食物ヲ清淨ナリトシ謂テ曰ク口ニ入ル者ハ人ヲ汚サズ乃チ口ヨリ出ル者ハ人ヲ汚スト(馬太十五章十一節)

此書ハアレキサンドリヤノ大主教ニ與フルモノナリ該主教ハ舊慣ニ依リテ「メ」ト稱セラル

第二條 捕虜ト爲リタル婦女ガ其身体ヲ辱カシムル夷狄ノ爲メ汚サル、モ亦罪ニ非ズ然レモ彼等ノ中ノ或者ニシテ其品行曾テ聖書ニ言フ所ノ如ク縦淫者ノ轍ヲ履ムモノナルトキハ則チ四處ノ時ニ於テモ其ノ邪淫ノ意向ハ疑フヘキモノナルヲ以テ此クノ如キ者ハ直ニ祈禱ノ親與ニ受クベカラズ。只若シ全ク貞操

ノ生活ヲ爲シ既往ノ品行潔白ニシテ毫モ疑フベキ所ナキ者ニシテ今強迫壓制ニ由リテ辱メニ遇ヘタルキハ此事件ニ就テハ復傳律例書ニ野ニ於テ人處女ニ遇ヒ強テ之ト苟合シタルノ例アリ律法ニ曰ク其女ニハ何ヲモ爲スベカラズ蓋シ女ニハ死ニ當ルノ罪ナシ人其隣ニ起チ向ヒテ之ヲ殺スト其事同シ女號呼スレドモ之ヲ救フ者ナカリキ(廿二章二十レドモ之ヲ救フ者ナカリキ六二七節)

第三條 然レモ貪婪ハ重罪ニシテ神ノ書ニ言フ所ノコト此一書ニ述ブル能ハズ之ニ依ルニ獨リ掠奪ノミナラズ概シテ貪婪及厭惡スヘキ利慾ノ爲メ他人ノモノヲ我ガモノトスル事ヲ以テ嫌惡スヘキ事恐ルヘキ事ト爲シ總テ此罪ヲ犯シタル者ハ神ノ教會ヨリ放逐スヘキモノタリ又夷狄侵入シテ壓虐ヲ蒙リ悲嘆スル時ニ際シコノ衆人ノ滅亡セントスル恐アル時ヲ以テ己ノ爲ニ利慾ヲ遂クルノ時ト爲シタル者アリ是レ不敬虔ニシテ神ニ逆ヒ醜惡ノ極端ニ達シタル者ノ爲スヘキ所業タリ故ニ此クノ如キ輩ハ悉ク之ヲ教會ヨリ放逐シテ衆民就中ノガ處分ヲ爲サリシ司長其人ニ天怒ノ臨マサランコトヲ勉ムルハ至當ノ事ト認ム蓋シ聖書ニ言フガ如ク義者ヲモ惡者ト俱ニ滅サンコトヲ恐ルハナリ(創十

八章二節)蓋シ聖書ニ曰ク姦淫及貪婪ハ神ノ怒此等ノ事ニ因リテ背逆ノ人ニ臨ム十三節)故ニ彼等ニ與ミスル勿レ爾等素ト暗カリシガ今主ニ在テ光レリ宜ク光ノ子ノ如クシテ行フベシ蓋シ光ノ結ブ所ノ果ハ諸ノ仁ト義ト誠ニアレバナリ宜ク主ノ悦ブ所ヲ察シテ之ヲ行フベシ果ヲ結ハザル暗昧ノ事ニハ爾等與ミスルコトナク反テ之ヲ責メヨ彼等ガ隠ニ行フ所ノ事ハ之ヲ言フモ醜ナリ凡ソ責ヲ受クヘキコトハ光ニ由リテ顯ハサルナリト(以弗所五章六節乃至十三節)使徒ノ言フ所是クノ如シ若シ平時ニ於テ行ヒタル既往ノ貪婪ノ爲メ罰ヲ受ケタル者ニシテ怒ノ時ニ於テ再ビ貪婪ニ復シ逃遁スル人又ハ殺害セラレタル捕虜ノ血ト滅亡トニヨリテ利慾ヲ遂クル者ニ至リテハ貪婪ニ役スル者ガ己レ自身ト全國民トニ天怒ヲ招クト云フノ外ナシ

第四條 ガラノ子孫ノアハルハ禁セラレタルモノヲ取り此罪ヲ犯シテイズライリノ全裔ニ天怒ヲ來タシタルニ非ズヤ(約書亞七章)彼ハ獨リ罪ヲ犯シタレドモ獨リ己ノ罪ノ爲ニ死セザリキ今又我等モ凡テノ利慾即チ我等ノ利慾ニアラズ他人ノ利慾ヲモ禁セラレタル者ト見做サバルベカラズ蓋シアハルハ捕獲物中ヨリ

取リシ如ク彼等モ今又捕獲物中ヨリ博取スレバナリ然レモ彼ハ敵ノモノヲ執
リ此レハ兄弟ノモノヲ貪ル。是レ滅亡ヲ招クノ利慾ナリ。

第五條 何人タリトモ拾ヒ取リタリトテ自ラ欺クベカラズ蓋シ拾ヒ取リタルモ
ノヲモ貪ルコト不可ナリ。復傳律例書ニ曰ク爾ノ兄弟ノ牛又ハ羊ノ迷ヒ居ルヲ
見テ之ヲ見棄テ置クベカラズ必ズ之ヲ爾ノ兄弟ニ牽キ往テ還スヘシ爾ノ兄弟
若シ爾ニ近カラザルカ又ハ爾彼ヲ知ラザルモハ之ヲ爾ノ家ニ牽キ往テ爾ノ許
ニ置キ爾ノ兄弟ノ尋子來ルニ及ビテ之ヲ彼ニ還スベシ。爾ノ兄弟ノ驢馬ニ對シ
テモ是クノ如ク爲シ又其衣服ニ對シテモ斯ク爲スベシ凡テ爾ノ兄弟ノ失ヒタ
ル遺失物ヲ得タル時モ亦斯ク爲スベシト(廿二章一節)復傳律例書ノ言フ所是ノ如
シ。出埃エジプト及記ニハ番ニ兄弟ノ所有物ヲ得タル時ノミナラズ敵ノモノヲ得タル時
モ之ヲ牽キ往キテ其主ノ家ニ還スベシト云ヘリ(四十五章)若シ平時ニ於テスラ
懶惰ニシテ安逸ニ耽リ己ノ所有物ヲ慮ラザル兄弟若クハ敵ノモノヲ貪ルベカ
ラズトセンニハ况ンヤ艱難ニ遭遇シ敵ヲ避ケテ已ムヲ得ザルノ場合ニ迫リ己
ノ所有物ヲ遺棄スル時ニ於テヲヤ。

第六條 又己ノ失ヒタル物ノ代リニ其ノ拾ヒタル他人ノ物ヲ所持ストテ自ラ欺
ク者アリ。夫ノウヲラド及ゴット人ハ彼等ヲ仇敵トシテ遇シタルガ故ニ彼等ハ是
ノ如キ事ヲ爲シテ他人ニ對シ自カラウヲラド人及ゴット人ト爲ルナリ。是ニ因テ
我等ハ兄弟タル老人エウフロシンヲ汝ニ遣ハシ彼ヲシテ當所ノ爲ス所ノ例ニ
則リ彼處ニモ同様ノ事ヲ行ハシメ何人ヨリ告訴ヲ受理スベキカ及何人ヲ祈禱
ヨリ斥ゾクベキカヲ諭サシメントス。

第七條 又汝ノ地方ニ於テ殆ト信スベカラザルノ事行ハルトノ事我等ニ傳ヘラ
レタリ是レ疑モナク不信不敬虔ニシテ主ノ名ヲモ識ラザル人々ノ爲ス所ナラ
ン即チ夷狄ノ囚虜ヲ脱シテ逃ケ來リタル者ヲ己ノ家ニ束縛スルホド猛惡殘忍
ニ達シタル者アリト云フ之ヲ探ルガ爲メ該地方ニ人ヲ遣ハシ之ヲ行フ者ニ電
ノ隨チ來ルヲ免レシムベシ。

第八條 若シ夷狄ニ與ミシ己ノ捕虜ト爲リタル時ボント人及ハリスティアニシタ
ルヲ忘レ彼等ト共ニ侵襲ニ加ハリ殘酷ヲ極メ或ハ木ヲ以テ或ハ絞ルヲ以テ己
ノ同族ヲ殺戮シタル者並ニ不案内ノ夷狄ニ路或ハ家ヲ指示シタル者ハ諸聖父

並ニ彼等ニ先ダチ聖神ガ俱ニ相會シ彼等ノ事ニ就テ議スル所アルニ至ルマデ之ニ聽聞者ノ列ニ入ル事ヲモ妨ケザルベカラズ。

第九條 他人ノ家ニ侵入シタル者若シ告發ノ後罪定セラル、并ハ聖書聽聞者ノ列ニモ入ルヲ許スベカラズ。然レモ若シ自白シテ竊取シタルモノヲ返戻スル并ハ悔改者ノ列ニ在テ叩拜スベシ。

第十條 野又ハ己ノ家ニ於テ夷狄ノ遺棄シタルモノヲ拾ヒ取り告發ノ後罪定セラレタル者ハ叩拜者ノ中ニ居ルベシ。若シ自白シテ拾ヒ取りタルモノヲ還付スル并ハ祈禱ニモ與カラシムベシ。

第十一條 本誠ヲ遵行スル者ハ毫モ貪ルノ汚念ナクシテ之ヲ遵行シ其ノ物ヲ指シタル爲メ或ハ保存シタル爲メ或ハ見付ケタル爲メ或ハ其他如何ナル口實ヲ以テモ報酬ヲ要求スベカラズ。

第十二條 涕泣ハ祈禱スル聖堂ノ戶外ニ於テシ犯罪者茲ニ立チテ入ル所ノ信者ニ己ノ爲メ祈ランコトヲ請フベシ。聽聞ハ戸内ノ啓蒙所ニ於テシ罪人ハ啓蒙者ノ爲ニ祈ル時マデ茲ニ立チテ然ル後出テサルベカラズ。蓋シ規則ニ曰ク聖書及

教誨ヲ聞テ出テ祈禱ニ與カルベカラズト。叩拜者ノ順ハ悔改者ガ堂内ニ立チテ啓蒙者ト共ニ出ルニアリ。又俱ニ立ツ者ノ順ハ悔改者ガ信者ト共ニ立テ啓蒙者ト共ニ出テザルニアリ。聖機密ヲ領スルヲ得ルハ勿論ナリ。

アレキサンドリヤ大主教聖大アフナシイノ修道士アン
ムンニ與フル書

神ノ造物ハ皆善ニシテ且潔シ何トナレバ無益ノモノ若クハ不淨ノモノハ神ノ言
一モ之ヲ造ラザルナリ蓋シ使徒ノ言ニ依ルニ我等ハ救ハル、者ニ對スルハリ
ストスノ馨香ナリ(哥林多後書二章十五節)惡魔ノ箭ハ種々多端ニシテ思想不正ナラザル者
ノ心ヲ攪亂シ之ニ不淨汚穢ノ念慮ヲ蒔キ兄弟ヲシテ常業ヲ執ルヲ得サラシム
ルニ因リ我が救主ノ恩寵ニ依リ簡短ノ言ヲ以テ奸惡者ノ誘惑ヲ絶チ眞摯者ノ
思想ヲ鞏固ニセン蓋シ潔キ人ニハ凡テノ物潔ク汚カレタル人ニハ一トシテ潔
キ物ナク良心トモニ汚カレタリ(提多一章十五節)惡魔ハ自ラ壞亂及滅亡ニテアリ乍ラ
潔白ト見ユルガ如キ思想ヲ起サシメントスル其ノ詭惑ニハ驚カザルヲ得ズ然
レモ彼レノ爲ス所ハ寧ロ陷擠若クハ誘惑ナリ蓋シ予ノ言ヒシ如ク修徳者ヲシ
テ其ノ通常ナル救贖的思慮ヲ放棄セシメ其ノ自ラ想像スル如ク之ニ勝タンガ
爲メ生活ニハ何等ノ利益ヲモ來タサズ單ニ空論虛説ニ過キザルノ風説ヲ流布

ス是レ須ク避クベキ事タリ蓋シ我が愛スル敬虔ノ者ヨ請フ我ニ告ケヨ自然ノ
遺精ニ何ノ有罪又ハ不淨アルカ是レ例ヘバ猶鼻孔ヨリ鼻液ノ出テ又ハ口ヨリ
唾ノ出ルヲ以テ罪ト爲サントスルガ如キノミ更ニ之ヲ極言スレバ動物ノ生活
ノ爲ニ必要ナル腹中ノ分泌物ノ如シト云フモ可ナリ若シ聖書ノ言ニ循テ人ハ
神ノ手ノ工ナリト信セバ爭デカ清潔ナル能力ヨリ汚穢ノモノ出ツルヲ得ン且
夫レ使徒行實ノ神書ニ據リテ我等神ノ裔(廿七章廿八節)タランニハ己レノ衷ニ毫モ不
淨ノモノヲ有セザルナリ蓋シ我等ハ凡ソノ汚臭ヨリモ更ニ醜ナル罪ヲ行フ時
ノミ汚ル、ナリ不知不識的ニ出ル自然ノ遺精ノ如キハ前ニモ言ヒシ如ク自然
已ムヲ得サルニヨリテ我等亦他ノ分泌ト共ニ之ニ服スルヲ免カレズ然レモ只
管正理ノ言ニ抗抵セント欲スル輩ハ不條理ニモ復タ神ニ創造セラレタル者ニ
對シ入ルモノハ人ヲ汚サズ乃チ出ツルモノハ汚カスト云ヘル福音ノ言ヲ引用
スルニ依リ此ノ妄誕蓋シ予ハ之ヲ質議ト稱セズヲモ詰責セサルベカラズ第一
彼等ハ未タ確固タラサルガ故蒙昧ニ由リテ聖書ヲモ曲解ス神言ノ意義ハ左ノ
如シ或者此輩ノ如ク食物ニ就テ疑ヲ懷キシ時主自ラ其蒙ヲ啓キ或ハ寧ロ其迷

認ヲ詰責シテ入ル者ハ人ヲ汚サスシテ出ルモノハ汚カスト云ヘリ(馬太十五節)此
 後何處ヨリ出ルモノナルヤヲ説明シテ心ヨリ出ツトノ言ヲ加ヘタリ蓋シ邪ナ
 ル思想及其他ノ罪ノ惡倉彼處ニ在ルヲ知レバナリ之ガ教ヲ受ケタル使徒ハ極
 メテ簡單ニ食物ハ我等ヲ神ニ近ツクルモノニ非ズト云ヘリ(哥林多前書八節)今ノ境
 合ニ際シテ自然的ノ遺精ハ我等ヲ罰ニ服スルモノニ非ズト云フ者アルモ當然
 ナルベシ想フニ醫師モ之ヲ辯護シテ曰ハシ(抗言者ハ須ク外形ニテナリトモ悟
 ルベシ)動物ニハ我等ノ各肢ニ存スル液物ノ餘分例ヘバ頭髮ノ餘分頭ヨリ分タ
 ル、ノ液物腹中ヨリ出ルモノ並ニ夫ノ精液管ノ餘分ノ如キモノヲ排泄スル爲
 メ欠クベカラザルノ出口ヲ予ヘラレタリトサレバ深ク神ヲ愛スルノ老人ヨ自
 ラ動物ヲ造リタルノ主ガ其諸肢ヲシテ此ノ如キ出口ヲ有セシメント欲シテ之
 ヲ造リタランニハ此事神ノ前ニ何ノ罪タラン然レバ則チ機官ニシテ造物主ニ造ラレ
 防セサルベカラズ蓋シ彼等或ハ曰ハシ然ラバ則チ機官ニシテ造物主ニ造ラレ
 タランニハ之ガ使用モ罪ナラサルベシト我等左ノ如ク之ニ答ヘ此ノ如キ質疑
 ヲシテ默セシメン汝等如何ナル使用ヲ言フカ合法的ノ使用カ即チ神ガ生育繁

殖シテ地ニ滿盈セヨト云ヒテ(創世記一章二十八節)許セシ所ノモノカ使徒ガ婚姻ヲ重シ
 牀ヲ汚ス毋レト云ヒテ(希伯來十許セシ所ノモノカ將又夫ノ人々ノ間ニ隱密邪
 淫的ニシテ行ハル、所ノモノナルカ何トナレバ他ノ行爲ノ如キモ場合ニ由リ
 テ相異ナルコトアリ例ヘバ人ヲ殺スコトハ許サル所ナリト雖モ戰闘ニ於テ
 敵ヲ殺スハ合法ニシテ稱讚スベキ事タリサレバ戰闘ニ於テ勇ヲ示シタル者ハ
 大ナル名譽ヲ得テ其偉功ヲ傳フルノ碑之ニ建テラル此ノ如ク同一ノ事ニシテ
 時ニ依リ或場合ニ由リテ許スベカラザルモ他ノ場合ニ際シテハ時宜ニ適シテ
 許サル、コトアリ肉體上ノ交接モ亦斯ク思考セサルベカラズ凡ソ壯年ニシテ
 自由ノ配合ヲ爲シ天然物ヲ生兒ノ用ニ供スル者ハ幸ナリ然レモ若シ之ヲ情慾
 ノ用ニ供スルハ苟合姦淫者ニシテ使徒ノ言フ所ノ罰ニ服ス(希伯來十蓋シ本
 件ニ關シテ生活上ニ二個ノ途アリ一ハ乃チ通常世俗的ノモノニシテ婚姻即チ
 是ナリ又一ハ神使的ノモノニシテ之ニ勝ルモノナシ貞操即チ是ナリ人若シ世
 俗的ノ途即チ婚姻ヲ選ハバ非議セラレズト雖モ彼レノ如キ恩賜ヲ受ケズ但シ
 彼レ亦三十倍ノ果ヲ結ブニ因リ若干ノ恩賜ヲ受クルナリ潔白超世的人途ハ前

者ニ比シテ殿且難ナリト雖凡^レ人若シ之ヲ受クルニ於テハ更ニ奇異ナルノ恩賜
 ヲ受ク蓋シ彼ハ完全ナル百倍ノ果ヲ結ビタルナリ夫レ是ノ如ク不淨且狡猾ナ
 ル彼等ノ質議ニ對シテハ聖書ニテ夙ニ準備セラレタル相當ノ解釋アルナリサ
 レバ父ヨ汝ニ委テラレタルノ群ヲ堅ムルニ使徒ノ勸諭ト福音ノ慰藉ト聖詠ノ
 勸言トヲ以テシ主ニ向テ願クハ爾ノ言ニ循テ我ヲ生カシ給ヘ(聖詠百廿五)ト云フ
 ベシ而シテ其言ト云フハ赤心彼レニ事フルニアリ蓋シ彼ノ預言者ハ之ヲ知リ
 其意ヲ説明スルガ如クニシテ謂テ曰ク神ヤ潔キ心ヲ我ニ造リ(同上五十二)不淨ノ
 念ヲシテ我心ヲ攪亂セシムル勿レト云ヒ而シテ復タ假令汚念ハ我心ヲ攪亂ス
 ルトモ爾ヨリ出ツル能力ヲシテ堅城ノ如ク我ヲ固メシメンガ爲メ主宰タルノ
 神ヲ以テ我ヲ固メ給ヘ(同上五十四)ト云ヘリ汝モ亦是等及之ニ似タルノ勸告ヲ述
 メツ、眞理ニ服従スルヲ躊躇スル者ニ對シ我不法ノ者ニ爾ノ道ヲ教ヘン(聖詠
 五十二)ト云ヒ彼等ヲシテ此ノ如キ邪惡ヨリ遠ザケシムルヲ得ント主ニ望ヲ屬シ
 ツ、不虔ノ者ハ爾ニ歸ラントス(同上)ト謳歌スベシ故ラニ惡意ヲ以テスルノ質議
 者ハ宜ク斯カル徒勞ニ屬スル事ヲ中止スベク質扑ニシテ疑フ者ハ宜ク主宰タ

ルノ神ニテ固メラルベシ而シテ汝確然眞理ヲ知ル者ハ我が主ハリストスイイ
 ススニ因リテ不變不易ニ之ヲ守ルベシ光榮權能ハ彼ト共ニ父及聖神ニ世々ニ
 歸ス「アミン」

アレキサンドリヤ大主教聖フランシスコのルフィニアンニ
與フル書

子及敬慕スル同役者ルフィニアン足下ニアフナシイ主ニ在テ喜バンコトヲ請フ。
 汝ハ愛子ニ適スル如クニシテ父ニ書セリ故ニ我が最モ敬慕スル所ノルフィニア
 ノヨ予ハ書東ニ由リテ近接スル所ノ汝ヲ抱ケリ予モ汝ヲ子タル者トシテ初ニ
 モ半ニモ將タ終ニモ汝ニ書スルヲ得タリト雖モ之ヲ中止シ書ニ由リテ親交及
 證憑ヲ知ラレザラントセリ蓋シ聖書ニ言フ所ノ如ク(哥林多後三ノ二)汝ハ乃チ我が書
 ニシテ心ニ於テ知ラレ且讀マル、所ノ者ナリ予ハ此ノ如キ心情ヲ以テ我言ヲ
 信セヨ必ス信セヨ汝ヲ招キ汝ニ書スル事ヲ勸告ス蓋シ斯クセバ汝ガ我ヲ慰ム
 ルコト少々ニ非ズシテ甚多シ汝ハ善ヲ愛シ教會ヲ思フノ心ヲ以テ即チ汝ノ敬
 虔ニ適スル如ク已ムヲ得ザルノ事情ニ際シテ誘ハレタルモ妄信ニテ其心ヲ攪
 亂セラレザル者ノ事ニ就テ我ニ質問シ公會及四方ニ於テ彼等ニ關シテ制定セ
 ラレタル所ノ事ヲ汝ニ書センコトヲ望ミタルニ因リ我が敬慕スル足下ヲ請フ

知レ初メ既往ノ歴虐ノ歎ミタル後外邦ヨリ來集シタル諸主教ノ公會アリ又エ
 ルラダニ居ル者並ニイスパニヤ及ガリリヤニ在ルノ同役者ニモ亦之レアリキ
 而シテ此ニ於テモ何處ニ於テモ仆レタル者及不虔ノ代表者ニシテ悔改スル者
 ニハ寛宥ヲ垂ル、モ之ヲ教衆ニ列セシメザルベク又自ラ好ンデ不虔ヲ行セタ
 ルニ非ズ乃チ已ムヲ得ザル場合ニ迫リ又ハ強迫ニヨリテ陷イレラレタル者
 ハ宥恕シテ教衆ニ列スルヲ得セシムベシ就中彼等ニシテ信仰ニ適當スルヲ辨
 解ヲ爲シ其事ノ深慮ニ出テタル情狀アルニ於テハ殊ニ然リトス蓋シ彼等ハ自
 ラ不虔ニ心ヲ傾ケタルニ非ズ乃チ或者ヲシテ甚シキ不虔者ト爲リテ教會ヲ紊
 亂セシメザランガ爲メ人民ヲ亡ボサンヨリモ寧ロ強迫ニ讓歩シ自ラ軛ヲ負フ
 ヲ以テ得策ナリト思惟セリト斷言ス吾輩ノ意見ニ依ルモ彼等ノ之ヲ言フハ受
 クルニ足ルノ辞柄ナリ蓋シ彼等ハ又推諉スルニモイセイノ兄弟アローンヲ舉
 グ彼ハ曠野ニ於テ民ノ犯罪的要求ニ讓歩セシモ是レ民ヲシテエギベトニ還リ
 偶像崇拜ニ復歸セザラシメントノ意ニ出テタリトテ推諉セリ蓋シ民ニシテ曠
 野ニ在ラバ或ハ不虔ヲ避クルヲ得ルモエギベトニ入ラバ其ノ不敬虔ヲ增長ス

ルハ必然ト見エタレバナリ。此故ニ因リテ斯カル輩ハ教衆ニ列スルコトヲ釋サ
 レ誘ハレテ強迫ヲ受ケタル者ニハ宥恕ヲ予ヘラル。之ヲ敬肅ナル汝ニ告ゲ敬虔
 ナル汝ヲ亦此制規ヲ遵奉シテ斯ク協議シタル者ノ寛典ヲ誹議セサラシメン
 コトヲ希望ス。願クハ神品ノ前並ニ汝ニ從属スル人民ノ前ニ之ヲ朗讀シ彼等ヲ
 シテ亦之ヲ知リ汝ガ斯クノ如キ輩ニ對スルノ意向ヲ明カニシテ憂愁セザラシ
 メヨ。蓋シ敬肅ナル汝ガ我等ノ彼等ニ對スル好意ヲ彼等ニ傳ヘ足ラサル所ハ悉
 ク之ヲ補フヲ得タランニハ余ノ之ヲ書スルハ恐ラク至當ニアラザルベシ。諸ノ
 言ト諸ノ知識ヲ以テ汝ニ滿被セシ主ニ感謝ス。悔改者ハ公然エウドクシイ及エ
 ウゾイノ僞教ヲアナフエマニ付スベシ。蓋シ此輩ハ^{カモトス}神言ヲ造物ト稱シテ
 自ラアリイ異端ノ辯護者タルヲ表明シタリ宜クニケヤニ於テ諸父ノ承認シタ
 ル信仰ヲ承認シ如何ナル公會タリトモ此公會ニ勝サルト爲スベカラズ。願クハ
 汝ト共ニ在ル兄弟ノ安ヲ問ヘ我等ト偕ニ在ル者亦主ニ在テ汝ノ安ヲ問フ。

△聖アファナシイハ既往ノ歴慮ナル語ヲ以テ實テ正教徒ノアリイ輩ニ歴慮セラレタル
 コトヲ指ス

△茲ニ不虔ト云フハアリイ教ヲ指シトレタル者トハアリイ黨ト交通シタル者ヲ云ヒ
 不虔ノ代表者トハ自ラアリイ教ニ歸化シテ他人ヲモ之ニ誘引スル者ヲ指ス

アレキサンドリヤ大主教聖アファナシイノ祭日ニ關スル
第三十九書翰中ノ拔

然レモ予ハ異端者ヲ指シテ死者ナリトシ我等自身ヲバ救贖ニ益スル神書ヲ有スル者トシテ記シタルト且夫ノパウエルガコリンフ人ニ書セシ如ク(哥林多後書三節)質樸ナル者ニシテ人ノ詐術ニ罹リテ其質樸及潔白ヲ失シ而シテ後所謂不入典書ノ名稱ガ眞誠ノ書ト同一ナルニ欺カレテ之ニ其意ヲ注グニ至ル者アランコトヲ懼ル、ガ故ニ請フ汝ノ已ニ知ル所ノモノニ就テ教會ノ必要及利益ノ爲メ予ノ復タ茲ニ記臆スルヲ容忍セヨ予ハ之ヲ記臆セント欲シ己レノ大膽ヲ廻護セシガ爲メ福音者ルカノ文句ヲ假リ予モ又曰ハン所謂不規程書ナルモノヲ自ラ編述シテ之ヲ我等ガ夫ノ始ヨリノ實見者言ノ役者ヨリ諸父ニ傳ヘラレタリト確信スル天啓ノ書ト混ゼントスル者アルガ故ニ予モ亦眞誠ノ兄弟ニ勵マサレ如何ナル書ガ規程ニ編入シテ傳ヘラレ神書トシテ信セラシム、カヲ敢テ初メヨリ順ヲ追フテ之ヲ記述シ以テ誘惑サル、者ヲシテ各誘惑者ヲ排セシメ潔白ノ

人ヲシテ各新タナル警戒ヲ聞テ喜バシメントセリサレバ舊約聖書ハ合計廿二アリ蓋シ余ノ曾テ聞キシ如クエウレイ人ノ使用スル文字モ亦之ト同數ナリ其順序及名稱ニ依レバ左ノ如シ第一創世記次ニ出埃及記次ニ利未記次ニ民數記終ニ復傳律例書之ニ次グモノハイイススナウイン記士師記次ニルラ記以下ノ順ハ列王紀四卷其中第一及第二卷ハ一書ト見做サレ第三及第四卷モ亦一書ト見做サル次ニ歷代志略上下二卷一書ト見做サル、モノ次ニエズドラ記上下二卷同ク一書ト見做サル、モノ次ニ聖詠書次ニ箴言次ニ傳道之書及雅歌ナリ次ニイオフ記終ニ預言者ノ書十二卷一書ト見做サル、モノ次ニイサイヤ記イエレミヤ記之ト共ニワルーフ記哀歌及公書次ニイエセキイリ記及ダニイル記ニシテ此等ハ乃チ舊約タリ而シテ新約書ノ事モ亦躊躇セズシテ言ハザルベガテズ其書乃チ左ノ如シ福音書四卷即チマトフエイ傳マルク傳イラアン傳是ナリ次ニ使徒行實及使徒ノ公書ト稱スルモノ七卷即チイヤコフノ書一卷ペートルノ書二卷次ニイオアンノ書三卷及イウダノ書一卷次ニ使徒パウエルノ書十四卷其順序ヲ記スレバ左ノ如シロマ人ニ達スルノ書一卷次ニコリンフ人ニ達ス

ルノ書ニ卷次ニガラタイヤ人ニ達スルノ書及エフェス人ニ達スルノ書次ニフィリッ
 人ニ達スルノ書コロス人ニ達スルノ書次ニソルン人ニ達スルノ書ニ卷エウレ
 イ人ニ達スルノ書ティモフェイニ與フルノ書ニ卷タイトニ與フルノ書一卷最後ニ
 フィリモンニ與フルノ書一卷終ニイオアンノ黙示録ナリ此等ハ乃チ救贖ノ源泉
 ニシテ渴者ハ之ニ記スルノ言ニテ渴ヲ醫スベク敬虔ノ教ハ獨リ之レニ於テ宜
 傳セラル、ナリ何人タリトモ之ニ附會セサルベク又一モ之レヨリ削除セザル
 ベシ主ハ「サドケイ等ヲ恥カシメツ、此事ヲ謂テ曰ク爾等聖書ヲモ其能力ヲモ
 識ラザルニ因リテ謬ルナリト(馬太廿二章二十九節)又イウデヤ人ニ諭シテ曰ク爾等聖書
 ヲ探索スベシ我カ爲ニ證ヲ作スモノハ即チ是ナリト(約翰五章三十九節)必要ニ際シテ之
 ヲ書スルガ故ニ更ニ之ヲ精確ニセンガ爲メ茲ニ亦附言スベシ此等ノ外他ニ成
 典ニ編入セラレサルモ諸父ガ新進者及敬虔ノ言ニテ啓蒙セラレント欲スル者
 ニ讀ムベキモノトシテ定メタルノ書アリ即チソロモンノ智慧書シラフノ智慧
 書エシフィリ記イウデフ記及トウイヤ記並ニ使徒ノ教訓ト稱スルモノ及牧師書是
 ナリ然レモ愛スル者ヨ此等誦讀スベキ書及夫ノ入典書ノ外ニハ何處ニモ不入

典書ノコトハ記載セラレズ此書タル異端者ノ捏造シタルモノニシテ彼等ハ欲
 スルキ之ヲ著述シ之ガ時日ヲ指定増加シテ恰モ古書ノ如クニ之ヲ提示シ以テ
 質樸者ヲ惑ハスノ具ト爲サントス。

×不入典書ノ稱ハケレナキ譯ニ依ルニ秘密書ノ義ナリ異端者ハ其ノ編述セシ偽造ノ
 書ニ此稱ヲ冠シ以テ此書ガ新タニ編述セラレタルニ非ズ只秘密的ノ書トシテ世ニ
 知ラレザリシヲ信ヒシメントセリ
 △聖アファナシイハ使徒ノ教訓ト云フヲ以テ使徒ノ最後ノ規則ニ記載セラレ、使徒ノ
 規律ヲ指スコト疑ヒナシ

ルノ書ニ卷次ニガラテイヤ人ニ達スルノ書及エヌエス人ニ達スルノ書次ニフィリップ
 人ニ達スルノ書コリス人ニ達スルノ書次ニソルン人ニ達スルノ書ニ卷エウレ
 イ人ニ達スルノ書テイモフエニ與フルノ書ニ卷テイトニ與フルノ書一卷最後ニ
 フィリモンニ與フルノ書一卷終ニイオアンノ黙示録ナリ此等ハ乃チ救贖ノ源泉
 ニシテ渴者ハ之ニ記スルノ言ニテ渴ヲ醫スベク敬虔ノ教ハ獨リ之レニ於テ宜
 傳セラル、ナリ何人タリトモ之ニ附會セサルベク又一モ之レヨリ削除セザル
 ベシ主ハ「サドケイ等ヲ恥カシメツ、此事ヲ謂テ曰ク爾等聖書ヲモ其能力ヲモ
 識ラザルニ因リテ謬ルナリト(馬太廿二章二十九節)又イウデヤ人ニ諭シテ曰ク爾等聖書
 ヲ探索スベシ我カ爲ニ證ヲ作スモノハ即チ是ナリト(約翰五章三十九節)必要ニ際シテ之
 ヲ書スルガ故ニ更ニ之ヲ精確ニセンガ爲メ茲ニ亦附言スベシ此等ノ外他ニ成
 典ニ編入セラレサルモ諸父ガ新進者及敬虔ノ言ニテ啓蒙セラレント欲スル者
 ニ讀ムベキモノトシテ定メタルノ書アリ即チソロモンノ智慧書シラフノ智慧
 書エシフィリ記イウデフ記及トウイヤ記並ニ使徒ノ教訓ト稱スルモノ及牧師書是
 ナリ然レモ愛スル者ヨ此等誦讀スベキ書及夫ノ入典書ノ外ニハ何處ニモ不入

典書ノコトハ記載セラレズ此書タル異端者ノ捏造シタルモノニシテ彼等ハ欲
 スルキ之ヲ著述シ之ガ時日ヲ指定増加シテ恰モ古書ノ如クニ之ヲ提示シ以テ
 質樸者ヲ惑ハスノ具ト爲サントス。

×不入典書ノ稱ハケレチト譯ニ依ルニ秘密書ノ義ナリ異端者ハ其ノ編述セシ偽造ノ
 書ニ此稱ヲ冠シ以テ此書ガ新々ニ編述セラレタルニ非ズ只秘密的ノ書トシテ世ニ
 知ラレザリシヲ信ヒシメントセリ
 △聖アファナシイハ使徒ノ教訓ト云フヲ以テ使徒ノ最後ノ規則ニ記載セラル、使徒ノ
 規律ヲ指スコト疑ヒナシ

聖大ワシリイノ規則

我等ノ聖父カパドキヤケサリヤノ大主教ワシリイノイコニヤ主教アル
ムフィロヒイニ與フル第一規程書

緒言 書ニ言フガ如ク愚者ハ知識ノコトヲ問ハレテ知識ヲ得(福音十七章二十八節)智者ノ
質問ハ想フニ愚者ヲシテ智識ヲ増サシムルナリ。此事ハ汝ガ勤勉ナル靈魂ノ書
ヲ受クル毎ニ神ノ恩寵ニ因リテ余ニ遭遇ス。蓋シ余ハ質問其者ニ依リテ曾テ知
ラザル所ノ事ヲ多ク講究シテ知識ト思考力ヲ増シタリ。答辨ノ爲メノ思慮ハ我
ニ取リテ餘師ナリ。余ハ實ニ今ニ至ルマデ未ダ曾テ汝ノ質問ノ條件ニ意ヲ注ガ
ザリシニ之レヲ精密ニ調査シ先輩ヨリ聞キシ所ノコトヲ記憶ニ喚起シ亦自ラ
余ガ曾テ學ビシ所ト符合スル事ヲ想念スルノ必要ニ迫レリ。
第一條 「カプアラ」黨ノ問題ニ關シテハ予ハ既ニ述ブル所アリ且ツ彼等ノ洗禮ノ事
ニ就テハ此事ヲ討議セシ者其當時ニアリテ思惟スル所各相異ナルガ故ニ各地
方ノ慣習ニ從フヲ至當トスト汝ノ注意セシハ好案ナリ。ペプジアン黨ノ洗禮ハ

余ノ意見ニ依ルニ毫モ自ラ辨解スヘキ口實ナシ大ディオニシイガ制規ニ通曉シ
テアリ乍ラ之ヲ認メザリシハ余ノ怪ム所ナリ。何トナレバ古人ハ毫モ信仰ニ違
背セサル者ノミ洗禮ヲ受クベキ事ト定メタリ故ニ彼等ハ或者ヲ異端ト稱シ或
者ヲ岐教ト稱シ又或者ヲ僭越ノ徒黨ト稱シタリ。彼等ガ異端者ト稱セシ所ノモ
ノハ全ク分離シテ信仰ニ背キタル者ニシテ岐教徒ト稱セシ所ノモノハ教會ノ
或ル條件及矯正シ得ベキ問題ニ就テ意見ヲ異ニシタル者ヲ云ヒ又僭越ノ徒黨
ト稱セシ所ノモノハ不從順ナル司祭或ハ主教及愚昧ナル人民ノ組織スル集會
ナリ。例ヘバ此ニ人アリ罪定セラレテ聖務ヨリ斥ゾケラレ乍ラ規則ニ從ハズ自
ラ司長タルト聖務執行ノ權トヲ握リ他ノ輩亦之ト共ニ背キテ公教會ヲ去ルハ
ハ是レ即チ僭越ノ徒黨ナリ又悔改ニ就テ教會ニ屬スル者ト意見ヲ異ニスルハ
乃チ岐教ナリ異端トハ例ヘバ「マニヘイ」黨ワレンティニアン黨マルキオニト黨及
此ノ「ペプジアン」黨等ナリ蓋シ此等諸派ニハ神ニ對スルノ信仰ニ就テ顯然タル
差違アルナリ故ニ前代ノ諸父ハ異端者ノ洗禮ハ初ヨリ全ク之ヲ斥ゾケ岐教徒
ノ洗禮ハ未ダ教會ヨリ隔離セザル者タルヲ以テ之ヲ受ケ僭越タル集會ニ與ル

ル者ハ相當ノ悔改ト歸順トヲ以テ之ヲ矯正シ再ビ教會ニ加フルヲ可トセリ此
 故ニ假令教會ノ位ニ在ル者ニシテ不順ノ輩ト共ニ背離スルモ悔改スルハ時
 トシテ再ビ其位ニ受ケラルヽコトアリ、ペブジアン黨ハ無論異端者ナリ、蓋シ彼
 等ハ不敬虔且破廉耻ニモ撫恤者ノ名稱ヲモンタン及プリスキラニ付シテ聖神
 ヲ褻瀆シタリ、故ニ彼等ハ人間ヲ神ニ擬センカ之ガ爲ニ定罪ニ服スベク聖神ヲ
 人間ニ比シテ之ヲ辱カシメンカ之ガ爲ニ永遠ノ定罪ニ當ルベシ、蓋シ聖神ヲ褻
 瀆スルノ罪ハ赦サルベカラズ、夫ノ父及子及モンタン若クハプリスキラニ托シ
 テ授洗スル者ノ洗禮ヲ是認スルハ豈ニ當然ナランヤ蓋シ我等ニ傳ヘラレザル
 モノニ托シテ洗禮ヲ受ケタル者ハ洗禮ヲ受ケタルニ非ズ、故ニ假令大デイオニシ
 イハ此ニ思到ラザルニセヨ我等ハ不正ニ傲フノ事ヲ固執スベカラズ蓋シ其ノ
 不條理タルヤ自カラ明白ニシテ苟モ少ク思量アル者ハ皆之ヲ知レバナリ、カフ、
 ラ黨ハ岐教徒ノ一ニ屬ス、サレド古人例ヘバキブリアンノ如キ及我ガフィルミリ
 アンノ如キ、カフ、ラ黨、エンク、ライト、黨、エド、ロ、バ、ラ、ス、タ、ト、黨、及、ア、ボ、タ、ク、ラ、イト、黨、等
 ハ悉ク之ヲ同一ノ制規ニ服スルヲ可トセリ、蓋シ背離ノ源ハ岐教ニ由リテ起レ

リト雖モ教會ヨリ隔離シタル者ハ既ニ己レニ聖神ノ恩寵ヲ有セザレバナリ、蓋
 シ合法ノ繼承斷絶シタルガ故ニ恩寵ヲ授クルノ權亦絶ニタルナリ、蓋シ初メ背
 離シタル者ハ諸父ニ叙聖セラレ彼等ノ按手ニヨリテ神靈的恩賜ヲ得タリ、然レ
 モ逐斥セラレタル者ハ俗人ト爲リテ授洗又ハ按手スルノ權ヲ有セス、其ノ自ラ
 離レタル聖神ノ恩寵ヲ他人ニ授クルコト能ハズ、故ニ彼等ノ中ヨリ教會ニ就ク
 者アレバ俗人ニ授洗セラレタル者トシテ古人ハ教會ノ真正ノ洗禮ヲ以テ再ビ
 之ヲ洗滌スベキヲ命ゼリ、然レモアシヤニ在ル或人々ハ多クノ人ノ訓誨ト爲サ
 ンガ爲メ彼等ノ洗禮ヲ受ケンコトヲ全然可トセシガ故ニ宜ク之ヲ受クベシ、我
 等ハ須ク、エンク、ライト、等ノ奸計ヲ明察セザルベカラズ、彼等ハ己ヲ教會ニ受ケ
 易カラザル者ト爲サンガ爲メ期ニ先チテ自派ノ洗禮ヲ行ハントコトヲ企テ之ニ
 由テ、自派ノ慣例ヲモ變改シタリ、サレバ彼等ノ事ニ關シテ未ダ一モ言明セラレ
 ザルガ故ニ余ハ彼等ノ洗禮ヲ擯斥シ且ツ彼等ヨリ之ヲ受ケテ教會ニ來ル者ア
 ラバ之ニ洗禮ヲ施スコトヲ至當ナリト思惟ス、然レモ此事タル若シ一般救治ノ
 障碍ト爲ルガ如キコトアラバ乃チ復タ慣例ヲ守リ我等ノ事件ヲ適宜ニ規定シ

タル諸父ニ從ハザルベカラズ蓋シ我等ガ彼等ノ速ニ洗禮ヲ受ケルヲ制セント
 シツ、遲延ノ嚴格ヲ以テ被救者ノ妨害ヲ爲スニ至ラシコトハ余ノ恐ル、所ナ
 リ若シ彼等ニシテ我等ノ洗禮ヲ守ルトモ是レ我等ノ耻辱ト爲ルモノニ非ス蓋
 シ我等ハ之ガ爲メ彼等ニ感謝スヘキニ非ズシテ只制規ヲ嚴守スルノ義務アル
 ノミナレバナリ彼等ノ洗禮ヲ受ケタル後教會ニ來ル者ハ信者ニ由リテ傳膏セ
 ラレ而シテ機密ニ近接スル事ト嚴格ニ制定スベシ然レモ彼等ノ社會ニアリタ
 ル兄弟ゾイン及サトルニシテ我等主教ノ教座ニ受ケタルハ余ノ知ル所ナリサ
 レバ其ノ主教ヲ受ケタルヲ以テ恰モ彼等ト親與ヲ保ツノ例規ヲ定メタルガ如
 クナルガ故ニ彼等ノ社會ニ與ミスル者ハ我等既ニ嚴轄ヲ以テ之ヲ教會ヨリ逐
 斥スル能ハサルベシ

「カフアラ」トハ深淨者ノ事ナリ第二全地公會規則第七條ヲ參看スベシ

第二條 故意ニ胎兒ヲ害スル婦ハ兇殺ノ罪ニ處ス胎兒ノ既ニ形ヲ成シタルヤ或
 ハ未タ形ヲ爲ササルヤニ就テハ我等之ガ精密ノ區別ヲ爲サズ蓋シ茲ニ罪ヲ問
 フハ管ニ生レントスル者ノ爲メノミナラズ其ノ己レニ對シテ害ヲ謀リタルガ

爲メナリ何トナレバ婦女ハ斯カル事ヨリシテ往々死スルコトアレバナリ胎兒
 ノ殺害ハ又一種ノ兇殺トノ故意ニ之ヲ企テタル者ヨリシテ之ニ追加セラル然
 レモ臨終ニマデ其痛悔ヲ及ボスベカラズ乃チ十年經過シタル後之ヲ親與ニ受
 クベシ之ガ醫治ノ如何ヲ測ルニハ時日ヲ以テセス宜ク悔改ノ狀ヲ以テスベシ

第三條 輔祭ニシテ輔祭職ヲ受ケタル後邪淫ヲ行ヒシ者ハ輔祭職ヨリ除黜セサ
 ルベカラズト雖モ俗人ノ位置ニ下シタル後其ノ親與ヲ絶ツベカラズ蓋シ神品
 職ヨリ除黜スル者ハ只此罰則ヲノミ科シタル古規アリ是レ想フニ古人ハ一罪
 ノ爲ニ二罰ヲ科スベカラズ(第九節)トノ法ニ遵ヘタルナリ他ニ又之ガ理由アリ
 蓋シ俗人ノ列ニ在ル者信者ノ位置ヨリ逐斥セラル、モ其ノ斥ゾケラレタルノ
 位置ニ再ビ受ケラル、コトアリ然ルニ輔祭ハ永久ニ繼續スル除黜ノ罰ニ處セ
 ラレ之ニ輔祭職ヲ復セラレザルヲ以テ彼等ハ只此ノ一罰則ニ止メタリ成規ニ
 依ルニ此ノ如シ要スルニ眞誠ノ醫治ハ罪ヨリ遠ザカルニアレバ肉慾ノ快樂ノ
 爲メ恩寵ヲ斥ソケタル者若シ心ヲ痛メ節制ヲ以テ全ク肉慾ヲ制シ其ノ會テ行
 ヒタル所ノ快樂ヨリ遠ザカルハ則チ我等ニ己ノ醫治ノ完全ナル證ヲ示スモ

ノナリ。ザレバ我等ハ悔改ノ完全ニ属スルモノト習慣トシテ採用セラル、所ノモノトヲ彼此明知シテ悔改ノ完全ニ達セザル者ノ爲メニハ古來ノ成規ニ従ハザルベカラズ。

第四條 三婚者及ビ多婚者ニ就テハ我等再婚者ニ關スルト同様ノ規則ヲ斟酌シテ制定シタリ。再婚者ハ一年間親與ヲ絶チ又或ハ二年間之ヲ絶ツ者アリ。三婚者ニ至リテハ三年間之ヲ絶チ又往々四年間絶ツ者アリ而シテ此ノ如キ配偶ヲバ既ニ婚姻ト稱セズシテ多妻者若クハ寧ロ罰セラルベキ邪淫ト名ヅク。故ニ主モ會テ五人ノ夫ヲ易ヘタルサマリヤ婦人ニ向テ今有ル所ノ者ハ爾ガ夫ニ非ズ(約翰四章十)ト云ヒ以テ再婚ノ區域ヲ超ヘタル者ハ既ニ夫若クハ妻ノ名ヲ以テ稱スルニ當ラザルヲ示セリ。三婚者ヲ五年間親交ヲ絶ツノ習慣ハ我等之ヲ規則ヨリ受ケタルニ非ズシテ先代ノ例ニ倣フノミ。然レモ彼等ノ爲ニ全ク聖堂ニ入ルノ門ヲ塞クベカラズ乃チ彼等ヲシテ二年或ハ三年間聖書ヲ聽聞スルヲ得セシメ而シテ後起立者ニ列セシメ只聖物ヲ領スルヲ禁ジ斯ノ如クニシテ悔改ノ果ヲ呈スル者ハ之ヲ親與ノ位置ニ復スベシ。

第五條 異端者ニシテ臨終ノ際悔改スル者ハ宜ク受クベシ。但シ輕忽ニ之ヲ受ケズ乃チ果シテ眞實ノ悔改ヲ表スルヤ救贖ヲ慮ルコトヲ證スルニ足ルノ果ヲ有スルヤ否ヲ驗シタル後ニ於テスベシ。

第六條 神ニ獻セラレタル者ノ淫行ハ之ヲ化シテ婚姻ト爲スベカラズ乃チ必ス其ノ交合ヲ絶ツベシ。蓋シ此事タル教會ヲ固ムルガ爲メニモ益アリ又異端者ヲシテ我等ヲ誹謗シ我等ガ恰モ罪ヲ不問ニ付スルヲ以テ人ヲ導キ入ル、ガ如ク言ハシムルノ口實ヲ得セシメザルナリ。

第七條 男色者獸淫者兇行者毒殺者姦淫者及偶像崇拜者ハ同罰ニ處スベキモノタリ。故ニ他ノ件ニ關シテ有スル所ノ規則ハ此等ニ關シテモ守ルベシ。但シ其ノ識ラズシテ犯シタル所ノ不淨ヲ三十年間悔改スル者ヲ受クルコトハ我等之ニ疑ヲ容ルベカラズ。蓋シ其ノ識ラザル事ト自由ノ告解ト斯ク久シキ時日ヲ經過シタル事トハ彼等ヲ寬恕スルニ足ルナリ。蓋シ彼等ハ殆ト人間ノ一生涯擲ヤナ但ニ付セラレタルヲ以テ宜ク壞倫ノ事ヲ爲スベカラザルヲ諭スベシ。故ニ躊躇スルコトナク彼等ヲ受クルヲ命セヨ。就中汝ヲシテ憐愍ノ情ヲ起サシムル涙ヲ垂レ

寛恕スベキ品行ヲ表スルニ於テハ殊ニ然リトス。
 第八條 怒ニ乘シ己ノ妻ニ對シテ斧ヲ用フル者ハ兇行者ナリ。汝ガ此事ニ就テ詳
 説セシコトヲ我ニ記憶シタルハ當然ニシテ汝ノ伶俐ニ適セリ蓋シ故殺ト誤殺
 トノ間ハ其差大ナレバナリ。若シ人アリ犬或ハ木ニ石ヲ投シテ人ニ中リタラン
 ニハ是レ全ク誤殺ノ所爲ニ之ヲ行フ者ノ本意ニ非ザルナリ蓋シ彼レノ意ハ
 獸畜ヲ追ヒ若クハ果實ヲ打チ落スニアリタルニ其打撃ヲ受ケタル人ハ傍ヲ通
 過シツ、自ラ之ニ中リタルナリ故ニ此事タル誤殺ナリトス。又人アリ誰ヲカ矯
 正セント欲シ紐若クハ杖ヲ以テ輕ク毆打シ而シテ毆打セラレタル者死スル片
 モ亦誤殺ナリ何トナレバ茲ニ彼ガ犯罪者ヲ矯正セント欲スルノミニシテ殺サ
 ントスルノ意ナキコト明カナレバナリ。又人アリ闘争ニ於テ己ヲ防衛セントシ
 テ木若クハ手ヲ以テ對手ノ急所ニ無殘ニ打撃ヲ加ヘ其意只痛傷ヲ感センメン
 トスルニ在リテ全ク殺意ナキ片ノ如キモ同ク誤殺ナリトス。然レモ此事タル既
 ニ故殺ニ近シ蓋シ防衛ノ爲メ斯カル器具ヲ用ヒシ者若クハ無殘ニ打撃ヲ加ヘ
 シ者ハ怒ニ制セラレテ人ヲ憐惜セサルコト明カナレバナリ。又人力ニ超ヘタル

重キ木若クハ石ヲ器具トシテ使用シタル者ハ其意思ト其行爲トハ相異ナルヲ
 以テ同ク誤殺者ニ算入セラル。蓋シ彼ハ怒ニ乘シテ其打ツ所ノ者ヲ殺スホドノ
 打撃ヲ加ヘタリト雖憶フニ彼レノ意思ハ單ニ打ツニアリテ全ク殺サントスル
 ノ意ナケレバナリ。然レモ刃劔若クハ之ニ類スルモノヲ使用セシ者ハ決シテ推
 諷スベキナシ。就中人ニ向テ斧ヲ投シタル者ノ如キ殊ニ然リトス。蓋シ彼ハ打ツ
 ニ手ヲ以テシ其打撃ノ程度ヲシテ彼レニ關係スルガ如クセズ乃チ物ヲ投シ以
 テ或ハ鐵ノ重サニ由リ或ハ其ノ尖リタルニ由リ或ハ廣キ場所ヲ通過シテ銳進
 スルニ由ルモ其打撃ハ勢ヒ必ス致死ト爲ラザルヲ得ザルナリ。又全然故意ニ出
 テ、毫モ之ニ疑ヲ容ルベカラザルモノハ乃チ強盜ノ所爲及敵ノ襲撃ナリトス
 蓋シ強盜ハ金ヲ得ンガ爲メ惡事ノ告訴ヲ免カレントシテ人ヲ殺シ軍ニ加ハル
 者ハ敵手ヲ懲シ或ハ論サントセズ乃チ之ヲ亡ボサントスル現然タル意思ヲ以
 テ殺戮ニ向ヘバナリ。若シ秘密ナル化合物ヲ以テ人ニ飲マシメ其原因他ニアル
 ニセヨ之ヲ殺ス片ハ之ヲ故殺者ト認定ス。婦女ハ蠱惑幻妖以テ男子ノ變愛ヲ買
 ハントシ之レニ其智ヲ味マスベキ藥劑物ヲ予ヘテ屢之ヲ行フ。假令此クノ如キ

體ハ人ヲ死ニ致シテ其本意ニアラザル事ヲ行ヘリト雖モ其幻妖的ナルト禁セラル、事ヲ行ヒタルトニ依リテ故殺者ニ算入セラル。故ニ胎兒ヲ墮胎セシムルノ藥劑ヲ予フル者並ニ墮胎ノ毒劑ヲ受クル者モ亦共ニ兇行者ナリトス。本件此ニ終ル。

第九條 姦淫ノ故ナラズシテ離婚スルコトヲ許スベカラズトスル主ノ言ハ(馬本二節)其本義ニ依レバ男ニモ婦ニモ等シク適當セリ。然レモ習慣上然ラズ。婦ニ就テハ嚴格ナル言頗ル多シ。使徒曰ク妓ニ合セバ之ト一體ト爲ルト(哥林多後書六章十六節)又イエレミヤ曰ク婦若シ他人ニ適クトキハ則チ復タ其夫ニ歸ラズ汚カレタル者トシテ汚カサルヘシ(耶利米三章一節)又曰ク姦婦ヲ蓄フル者ハ愚ニシテ且不敬虔ナリト(箴言十八章)習慣ハ婦ニ其夫ニシテ假令姦通シ淫ヲ行フトモ之ヲ抑止スベキヲ命ズ。故ニ己ノ妻ニ棄テラレタルノ夫ト同住スルノ婦ハ直ニ之ヲ姦婦ト稱スルヲ得ベキヤ我之ヲ知ラズ何トナレバ此場合ニ於ケルノ罪責ハ如何ナル故ニ因リテ離別シタルニセヨ夫ヲ棄テタルノ婦ニ歸スレバナリ。蓋シ若シ毆打セラレテ毆打ヲ忍ブベカラザルガ故ナリトセンカ則チ同住者ト離別センヨリ寧ロ

之ヲ忍ブハ當然ナリ。若シ所有物ノ損耗ヲ忍ブベカラザルガ故ナリトセンカ此口實亦取ルニ足ラズ。若シ又其夫ノ淫ヲ行フガ故ナリト云フモ我等教會ノ習慣ニ此例アルヲ見ズ反テ婦ニハ不信ノ夫タリトモ之ト離別セズ乃チ其ノ將來如何ナラントスルヤ知ルベカラザルガ故ニ之ト同居スベキヲ命スルナリ。蓋シ婦歟爾焉ゾ能ク夫ヲ救フヤ否ヲ知ラン(哥林多前書七章十六節)故ニ己ノ夫ヲ棄テタル婦ニシテ他ノ夫ニ適クキハ則チ姦婦タリ。而シテ棄テラレタルノ夫ハ寬宥スベク之ト同住ノ婦モ亦罪定セラレズ。若シ又夫タル者妻ト離別シテ他ノ婦ヲ娶ルキハ其妻ヲシテ姦淫セシムルモノナルガ故ニ自ラ姦淫ヲ犯ス者ニシテ之ト同居スルノ婦モ亦姦婦タリ。蓋シ他ノ夫ヲシテ己レニ意ヲ傾ケシメタルニ依ルナリ。

第十條 按手ヲ受ケサランコトヲ誓フ者若シ既ニ宣誓シタルキハ強テ之ヲ破ラシムベカラズ。蓋シ是ノ如キ者ニ寬恕ヲ垂ル、ヲ可トスル規則モアリト雖モ我等ハ實驗上誓ニ背キテ行ヒタルニ幸運ナキヲ知ル。宜ク宣誓ノ狀態ト其言ト其ノ宣誓シタル時ノ意向ト其言ニ合メタル機微ノ意トヲ精察シ而シテ若シ如何ナル方面ヨリスルモ決シテ宣誓ノ勢力ヲ緩ムルニ由ナキキハ乃チ此ノ如キ人

ヲ其儘ニ爲シ置カサルベカラズ。セウイル若クハ彼ニ擧ケラレタル司祭ノ件ノ如キハ(若シ汝ノ意見予ト同ジカリセバ)左記ノ如クニシテ少シク誓ヲ緩ムルヲ得ベシト思惟ス。即チ此人ノ擧ケラレタル村ハ從來ミシフィヤノ管屬ナルモ宜ク命ジテミサダニ屬セシムベシ。蓋シ是ノ如クセバ彼ハ任所ヲ轉ゼスシテ背誓者ト爲ラズ。ロッキンモキリアクヲ己ノ許ニ有シテ教會ヲ荒廢セズ其荒廢ノ爲メ靈魂ヲ定罪ニ服スルニ至ラザルベシ。而シテ我等ガキリアクニ寬恕ヲ垂ル、モ毫モ規則ニ違反シテ行フモノト思ハズ。彼ハミングナニ居ルコトヲ誓ヒタルモ移サル、事ヲ承諾シタレバナリ。蓋シ彼レノ復歸ハ宣誓ノ格守トナルベク命令ニ對スル服従ハ彼ガ背誓ノ罪ト爲ラサルベシ。何トナレバ彼レノ宣誓中ニ假令暫時タリトモミングナヲ去ラズシテ常ニ必ス彼處ニ居ルベシトノ言ヲ添ヘタル事ナケレバナリ。セウイルニ至リテハ遺忘ヲ以テ推諉スルニ由リ我等之ヲ赦シテ夫ノ秘密ノ洞見者ハ初メ規則ニ循ハズシテ行ヒツ、福音ニ背キ誓ヲ以テ己ヲ束縛シ轉任ヲ以テ背誓ヲ勸メ乍ラ今詐僞ノ遺忘ニ托シテ僞ル如キ者ニ由リテ己ノ教會ニ害ヲ及ボスコトヲ許サズト斷言セン。我等ハ人心ノ審判者ニ非ズ乃チ

聞ク所ニ循テ審判スルガ故ニ報復ハ主ニ之ヲ一任シ遺忘ハ人間ノ荏弱トシテ之ヲ恕シ自ラ疑ハズシテ彼ヲ受ケン。

第十一條 誤殺ヲ行ヒタル者ハ拾一年間親與ヲ絶タレテ既ニ充分ノ罰ヲ荷ヘリ蓋シ負傷シタル者ニ就テハ我等モイセイノ律法(出埃及記廿一章十八及十九節)ヲ守ルベキコト固ヨリ當然ニシテ負傷ノ爲メ牀ニ臥シタルモ後再ビ杖ニ倚リテ歩行スル者ハ殺サレタル者ト認ムベカラズ。若シ又負傷後起タサルモ毆打者ニシテ之ヲ殺サント欲スルノ意ナキハ彼レ假令兇行者タルモ其意思ニ依テ誤殺者ナリ。

第十二條 再婚者ハ規則ニテ(使徒規則十七條)全ク教會ノ役者タルコトヲ禁セラレタリ

第十三條 我等ノ諸父ハ戰場ニ於テスル殺戮ハ予ノ想像スル如ク貞節及敬虔ノ防禦者トシテ兇殺ト爲サズ。然レモ彼等ガ不淨ノ手ヲ有スル者トシテ之ニ三年間聖機密ヲ領スル事ヲ慎ムベキヲ勸告スルハ可ナルベシ。

聖アファナシイノ修道士アンムンニ與フル誓ヲ參看スヘシ。ワリサモン及ゾナルノ等シク認ムル所ニ依ルニ聖ワシイノ提起シタル勸告ハ不便ナルト本條ノ初ニ述ブル所ノ理由トニ依リテ實施セラレサリト云フ。

第十四條 利息ヲ取ル者若シ其ノ不正ノ利ヲ貧者ニ施シ且ツ以後利慾ノ病ヲ脱
セント欲スルハ神品職ニ登庸セラル、ヲ得可シ。

第十五條 汝ガ聖書ニ就テ字義的解釋ヲ求メ譯文ハ善ク其ノ言フ所ノ主旨ヲ表
明シテ單ニエウレイ語ノ意味ノミヲ示スニアラザルニ汝ガ之ヲ不正當ナリト
思惟スルハ予ノ怪ム所ナリ。然レモ好シテ見聞ヲ博クセントスル士ノ提起スル
質議ヲ等閑ニ付スベキニ非ズ。天空ノ鳥ト海中ノ魚トハ世界創造ノ時ニ際シテ
其生出ヲ同フセリ是レ此二種ノ動物ガ共ニ水中ヨリ出タルガ故ニシテ其源因
ハ兩ナガラ同一ノ性質ヲ有スルニ因ルナリ。蓋シ一ハ水中ニ游泳シ一ハ空中ニ
翔翺スルナリ。故ニ彼等ノ事亦併記セラレタリ。聖詠ノ言ノ組立ハ魚類ニ關シテ
精確ニ適應セザルモ水中ニ棲息スル諸造物ニ關シテハ全ク正確ナリ。蓋シ人ニ
服従スルハ天空ノ鳥ト海中ノ魚及ビ獨リ之レノミナラズ海路ヲ通行スルノ諸
造物亦皆然リトズ。蓋シ水中ニ棲息スル者ハ皆悉ク魚ノミニ非ズ例ヘバ鯨ニ類
似スル動物、鯨、海豚、海豹、海馬、海犬、鋸沙魚並ニ海蟹及其他凡ソノ螺類ニシテ彼等
ハ一モ魚ニ非ズシテ皆海路ヲ通行スル者タリ。是ノ如ク其種類三アリ即チ天空

ノ鳥ト海中ノ魚ト水中ニ棲息スルモ魚ト異ナリテ同ク海路ヲ通行スル動物是
ナリ。

本條ニ聖詠ノ言ト云フハ五十聖詠九節ノケレナチ註原文ヲ指スモノニシテ其文法
上ノ首尾徹底セザルノ觀アルヨリ聖アムフイロヒイ實問ヲ提起シ聖アムフイロヒイ本條
ノ說明ヲ付シタル所以ナリ。

第十六條 子エマンハ主ノ前ニ大ナルニ非ズ己ノ主人ノ前ニ大ナル者ニシテ即
チ彼ハシリヤ王ノ貴紳ノ一人ナリ。故ニ深ク聖書ニ意ヲ注ケヨ。然ラバ彼ニ於テ
質問ノ解釋ヲ得ン。

同人ニ與フル第二規程書

緒言 敬虔ナル汝ヨリ我ニ提出シタル質問ニ對スル答ハ予夙ニ之ヲ記シ乍ラ一ハ長キ危篤ノ病ト一ハ役者ノ不足トニ由リテ此書ヲ送ラザリキ蓋シ能ク途ヲ知リテ此ノ如キ聽從ヲ甘ンズル者我等ノ中ニ多カラズ故ニ延引ノ原因ヲ知リテ請フ恕セヨ予ハ汝ノ講學ニ熱心ナルト併セテ汝ノ謙遜ナルトニ驚嘆セリ蓋シ汝ハ師タルノ職ヲ托セラル、ニ自ラ學バント欲シ而モ識見ニ關シテ我等ニ毫モ偉ナルコトナキニ我等ニ就テ教ヲ乞ハント欲セリ然レモ汝ハ神ヲ畏ル、ヨリシテ他人ノ容易ニ行フベカラザル事ヲ行フヲ辭セザルニ依リ我等モ亦假令力及ハズトモ汝ノ好意ト善キ盡力トニ幫助セサルベカラズ

第十七條 汝ハ司祭ウアノルノ事ニ就テ彼ハ其ノ宣誓シタル後ニ於テ教衆ニ受ケラル、ヲ得ベキヤ否ヲ我等ニ質問セリアンテイオヒヤ教衆ノ爲メ予ハ既に彼ト共ニ宣誓シタル者ニ就テ一般ノ成規ヲ記述シタルコトハ予之ヲ記憶ス即チ彼等ガ公衆ノ集會ヲ避ケテ私ガニ司祭トシテ務ヲ行フベシト云ヘリ彼レノ務

メノ釋サル、モ亦之ガ爲メナリ何トナレバ彼レノ神品職ハアンテイオヒヤニ在ルニ非ズシテ汝ノ書スル如ク彼ガアンテイオヒヤノ代リニ住所トシテ選ビタルイコニヤニ在レバナリ故ニ彼ノ人ハ受ケラル、ヲ得ベシ只敬虔ナル汝ハ彼ヲシテ其ノ微々タル艱難ノ苦ミヲ忍ブ能ハズシテ不信ノ人ニ宣誓シタル輕忽ヲ痛悔セシムベシ

第十八條 貞潔ニシテ度生スルコトヲ主ニ誓ヒ乍ラ後肉慾ニ陥リ己ノ誓ヲ破リテ墮落セシ童貞女ニ就テ我等ノ諸父ハ温乎トシ輕卒者ノ荏弱ヲ寬恕シテ一年間經過セシ後之ヲ受クベキ事ト議定シ再婚者ノ例ニ準シテ之ヲ制定シタリ然レモ教會ハハリストスノ恩寵ニ由リ時ヲ經ルニ從ヒ益鞏固ト爲リ童貞女ノ數モ今増加スルガ故ニ其本義ニ由リテ自ラ明白ナルノ事實ト推測ニヨリテ發見シ得ベキ聖書ノ本意トニ深ク意ヲ注カサル可ラズト思惟ス蓋シ寡居ハ童貞ニ劣レリ故ニ寡婦ノ犯罪ハ童貞女ノ罪ニ比シテ遙ニ輕シ請フパウエルノテイモフニニ書スル所ヲ看ソ曰ク年少ノ寡婦ハ之ヲ辭セヨ蓋シ彼等ハリストスニ背キテ心ヲ乱スルハ則チ嫁セントスレバナリ彼等ハ其初メノ信仰ヲ棄ルニ因リテ罪

ニ定メラルベシト(提摩太前書五章十一、十二節)若シ夫レ寡婦ガハリストスニ於ケルノ信仰ヲ棄テタル者トシテ重キ定罪ニ處セラルトセンニハハリストスノ新婦ニシテ主ニ獻セラルタルノ聖器タル童貞女ニ就テ我等如何ニ推測スベキ乎若シ家婢タル者秘密的配耦ヲ爲シ淫乱ヲ以テ其家ヲ盈タシ不品行ヲ以テ已ヲ贖ヒタル者ヲ辱ムルニ於ラスラ其罪大ナリトセンニハ新婦ガ姦淫ヲ行ヒ新夫トノ契約ヲ辱カシメ情慾ヲ恣ニスルハ其罪ヤ更ニ重シ故ニ寡婦ハ淫乱ノ婢トシテ罪ニ定メラレ童貞女ハ姦婦ノ罪ニ處セラル他人ノ妻ト通スル者ヲ姦夫ト稱シ其罪ヲ絶ツニ非ザレバ之ヲ親與ニ受ケサル如ク童貞女ヲ誘拗シタル者モ亦是ノ如ク遇待スベシ今茲ニ童貞女ト稱スルハ自ラ甘ジテ己ヲ主ニ獻ジ婚配ヲ謝絶シテ成聖中ニ生活スルヲ優レリト爲ス者ナルヲ言明スルコト必要ナリ其誓ヲ有効ト認定スルハ全ク理解シ得ル年齢ニ達シタル者ニ限ルベシ蓋シ此事件ニ於ケル幼稚ノ語ハ充分鞏固ナル者ト見做スベカラズ乃チ十六若クハ十七歳以上ニシテ己ノ思想ノ上ニ權ヲ有シ長時間經驗ヲ經志望堅固ニシテ己ノ受ケラレシ事ヲ祈願スル者ハ遂ニ之ヲ童貞女ノ列ニ受ケ其誓ヲ確固ニシ之ヲ破ルルハ

必ス罰スベシ蓋シ父母兄弟及親戚ノ者ニシテ其人ノ成年ニ達スルニ先ダチ本人ノ獨身の生活ヲ爲サント欲スル意ニ依ラズ己ノ爲ニ俗事的ノ考ヲ以テ導キ來ル者多シ是ノ如キ者ハ明ニ本人ノ意向ヲ確知セサル以上ハ容易ニ之ヲ受クベカラズ

第十九條 男ノ誓ハ無言ニシテ獨身ノ式ヲ受ケタルヲ表示スル修道者ノ列ニ加ハル者ノ外之レアルヲ知ラズ然レモ予ハ預メ質問シ彼等ヨリ貞節ヲ守ルノ明答ヲ得ルヲ以テ彼等ノ爲メニモ適當ナリト思惟ス而シテ若シ肉慾情慾ノ生活ニ陥ルルハ行淫者ノ爲ニ定メラレタルノ懲罰ニ處スベシ

第二十條 若シ女性ノ者ニシテ異端ヲ奉スル間ニ童貞ノ誓ヲ爲シ而シテ後婚姻ヲ擇ビタル者ハ之ヲ罪定スルニ及バズト思惟ス蓋シ律法ノ言フ所ハ皆夫ノ律法ノ下ニ在ル者ニ言フナリ(羅馬書十九)然ルニ夫ノ未ダハリストスノ轆ヲ荷ハザル者ハ主ノ立法ヲモ知ラザルナリ故ニ彼等ハ衆ト共ニ教會ニ受ケラルトテ得ベク而シテ此場合ニ於テハ其ハリストスニ於ケルノ信仰ヲ受クルニ由リテ赦免セラレ且凡ソ啓蒙者タル時ニ於テ行ヒタル所ノモノハ一切糾問セラレザルベ

シ、但シ教會ガ此クノ如キ輩ヲ授洗セズシテ受クベカラサルハ勿論ナリ、故ニ更
生ノ特典ハ彼等ニ取リテ緊要欠クベカラザル者ナリトス。

第二十一條 若シ夫其妻ト同居シツ、後其配偶ヲ以テ満足セズ邪淫ニ陥ルルハ
之ヲ行淫者ト見做シ長ク之ヲ懲罰ノ下ニ置クベシ。然レモ若シ未配偶者ト其罪
ヲ行フニ於テハ之ヲ姦淫ノ罪ニ處スルノ規則ナシ。蓋汚サレタルノ姦婦ハ汚サ
レタル者トシテ其夫ニ復歸スヘカラズト云ヒ(耶米利三章二)又姦婦ヲ止メ置ク者ハ愚
ニシテ不敬度ナリ(箴言二十八)ト云ハレタリ。然レモ邪淫ヲ行ヒタル夫ハ其妻トノ
同住ヲ絶タレズシテ妻ハ邪淫ヨリ改心シタル己ノ夫ヲ受ケサルヘカラズ而モ
夫ハ汚カサレタルノ妻ヲ己ノ家ヨリ放逐ス。此理由ヲ述ブルハ容易ナラズト雖
モ習慣トシテ斯ク採用サレタリ。

第二十二條 強奪ヲ以テ婦女ヲ取リタル者若シ他人ニ許嫁セラレタル者ヲ離ス
ルニ於テハ其婦女ノ彼等ヨリ取戻サル、ニ非ザレバ之ヲ悔改ニ受クベカラズ
以テ先キニ之ト契約シタル者ニ若シ欲スレバ之ヲ嫁リ或ハ之ヲ離別スルノ權
利ヲ與フベシ。若シ又未タ許嫁セラレサル者ヲ強奪シタルハ之ヲ取戻シテ親

戚ニ返シ其父母タルト兄弟タルト或ハ其他處女ノ事ヲ慮ル者タルヲ問ハズ其
女ノ縁親ノ者ノ意ニ一任シ而シテ若シ彼ニ之ヲ與ヘント欲セバ其同居ヲ確固
タラシムベク若シ諾セザルハ之ヲ強ユヘカラズ。又秘密ナルト或ハ強迫ナル
トヲ問ハズ女ヲ犯シタル後之ヲ娶リタル者ハ必ス教會ノ邪淫ヲ罰ラ受ケザル
ベカラズ。行淫者ニ對スル罰ハ四箇年ト定メラル。第一年ニハ彼等ヲ祈禱ヨリ遠
ザケ聖堂ノ戸口ニ立テ涕泣セシム。第二年ニハ之ヲ聖書聽聞者中ニ受ケ、第三年
ニハ悔改ニ受ケ、第四年ニハ公衆ト共ニ立タシメ只之ニ領聖ヲ禁スベシ。而シテ
後之ニ聖機密ヲ受クルヲ許スベシ。

第二十三條 二人ノ姉妹ヲ娶リタル者又ハ二人ノ兄弟ニ配偶シタル者ノ事ニ就
テハ我等既ニ書スル所アリ(マテウスノアイオドニ與テル書第二十七條參看)其際本ヲ敬虔ナル汝ニ送レリ
己ノ兄弟ノ妻ヲ取リタル者ハ之ヲ離別スルニ非ザレバ受クベカラズ。

第二十四條 教會ヨリ給養ヲ受クル寡婦ノ數ニ加ヘラレタル寡婦ニシテ若シ嫁
セントセバ使徒之ヲ棄テ、慮ルベカラザルヲ命ズ。鰥ト爲リタル者ニ就テハ何
等ノ法律ヲモ制定セラレズ。再婚者ノ懲罰ヲ科スルヲ以テ充分ナリトス。六十歲

ノ寡婦ニシテ若シ再ビ夫ト同居セント欲セバ其ノ情慾ノ不淨ヲ絶ツニ非ザレバ之ニ領聖スルヲ許スベカラズ若シ六十歳未満ニシテ之ヲ寡婦ノ數ニ加ヘタルニ於テハ是レ我等ノ罪ニシテ其婦ノ罪ニ非ズ

第二十五條 己ノ犯シタル女ヲ妻トスル者ハ其汚辱ノ爲メ懲罰ニ處セラルベシ但シ彼ニ其女ヲ妻トスルコトヲ許スベシ

第二十六條 交合ハ婚姻ニ非ズ又婚姻ノ端緒ニモ非ズ故ニ交合ヲ以テ配耦シタル者ハ若シ能フメクバ離別スルヲ可トス若シ強テ同居セントセバ交合ノ懲罰ヲ受クベシ但シ依然配耦的同居ヲ爲シ悲ムベキ事ノ起ラザラントコトヲ致スベシ

第二十七條 自ラ識ラズシテ不正ノ婚配ヲ爲シタル司祭ノ事ニ就テハ予ハ曾テ其ノ當ニ爲スベキ事ヲ規定シタリ即チ彼ハ司祭ノ座ヲ利用シ自餘ノ司祭ノ業務ハ之ヲ制止スベシトノコト是ナリ蓋シ此ノ如キ輩ハ赦免スルニ足ルナリ自己ノ傷ヲ醫スヘキ者他人ニ祝福スルハ其當ヲ得ズ蓋シ祝福ハ成聖ヲ賜フモノナリ然ルニ識ラザル罪ノ故ニ由リテ之ヲ有セサル者ハ爭デカ他人ニ之ヲ予フ

ルヲ得ベキ故ニ公然ニセヨ又ハ私カニセヨ祝福スベカラズ又ハリストスノ體ヲ他人ニ頒與スベカラズ又其他ノ務メヲモ行フベカラズ乃チ聖役者ノ座ニ満足シテ他人及主ノ前ニ涕泣シ其ノ不識ノ罪ノ赦サレンコトヲ求ムベシ

第二十八條 豚肉ヲ節制スルヲ約シタル者アリト云フハ予之ヲ笑フベキ事ト見做ス故ニ此ノ如キ輩ニハ宜ク淺慮ナル誓言及誓約ヲ爲スベカラザルヲ諭シテ異常ナラサル物ノ使用ヲ許スベシ蓋シ神ノ造物ハ一トシテ棄ツヘキモノナク惟感謝シテ受クベケレバナリ(提摩太前四章四節)故ニ夫ノ誓約ハ笑フベキモノナルヲ以テ亦節制スルノ要ナキナリ

第二十九條 首長タル者部下ノ者ヲシテ害ヲ加ヘシメント誓ヒタル者ハ之レヲ矯正スルコト極メテ必要ナリ之ガ矯正ニ二様アリ一ハ輕卒ニシテ宣誓スベカラサルヲ諭スコアリ一ハ惡意ヲ固執スベカラザルヲ諭スニアリ故ニ若シ他人ニ害ヲ加ヘントスルノ誓ヲ爲シタル者アラバ須ク其誓ノ鹵莽ナリシヲ悔ユベク誓ヲ尊ブヲ口實トシテ己ヲ惡ニ固定スベカラズ誓ヲ守ルコトハイロドニ益セザリキ彼レハ誓ヲ破ラザラントシテ預言者ノ兇殺者トナレリ誓ハ概シテ禁

セラル、モノタリ況ヤ惡事ニ對シテ宣誓シタルモノヲヤ宜ク之ヲ罪定セザルベカラズ。故ニ宣誓シタル者ハ須ク己ノ意志ヲ翻シ其ノ惡事ヲ固執スルヲ務ムベカラズ。請フ更ニ詳ニ此事ノ不當ナルヲ探究セヨ。若シ人アリ己ノ兄弟ノ目ヲ挾クヲ誓ヘリトセンニ之ヲ實行スルヲ善シトスルカ。若シ又人アリ人ヲ殺シ或ハ概ノ何等カノ誠命ヲ犯サンコトヲ誓ヘリトセバ如何。蓋シ我ハ罪ヲ行フヲ誓ハズ。乃チ爾ノ義ナル定メヲ守ルヲ盟ベリ。即チ之ヲ成サン(聖詠四十八)誠命ハ志ヲ渝ヘスシテ之ヲ格守スルノ當然ナル如ク罪ハ充分力ヲ竭シテ之ヲ排シ之ヲ絶滅セサルベカラズ。

第三十條 婦女ヲ強奪シタル者ニ關スル古規ハ我等ニ之レ無ク乃チ自家ノ意見ヲ以テ制定セリ。彼等并ニ彼等ニ幫助シタル者ハ三年間公衆ノ祈禱ヨリ斥ゾケラルベシ。強迫ヲ用ヒザルモノニシテ汚辱若クハ私通之ニ伴ハザルトキハ罰ニ處セラレサルベシ。寡婦ニ至リテハ自ラ己ヲ御スルノ權アリ強奪者ニ從フト否トハ彼ニ關繫ス。外見ヲ裝フ者ニ關シテハ我等之ヲ慮ルニ及ハズ。

第三十一條 若シ夫ト離レ居ルノ婦其夫ノ所在不分明ニシテ其死亡ノ報ヲ得ル

ニ先ダチ他人ト同室スル時ハ是レ姦淫ヲ行フモノナリ。

第三十二條 教衆ノ者ニシテ死ヲ致スノ罪ヲ犯シタル者ハ其位ヨリ斥ゾケラル、モ俗人ト共ニ領聖スルコトヲ禁セラルベカラズ。蓋シ一罪ノ爲ニ二罪ヲ科スベカラズ(章九節)

第三十三條 途中ニテ分娩シ而シテ其ノ生兒ヲ粗略ニスル者ハ兇殺ノ罪ニ處セララルベシ。

第三十四條 姦淫ヲ行ヒ敬虔ニ依リテ告解シ若クハ何等カノ情狀ニテ罪セラレタルノ婦ハ我等ノ諸父之ヲ公ケニスルヲ禁ジ以テ罪セラレタル者ノ死ノ因ト爲ルヲ免カレシメントセリ。乃チ痛悔ノ期ノ盡クルマデ領聖セズシテ信者ト共ニ立ツコトヲ命セリ。

第三十五條 若シ夫ニシテ妻ニ棄テラレタルトキハ其ノ棄テラレタル所以ヲ審究スベシ而シテ妻若シ故ナクシテ去リタルコト判然スルトキハ彼ハ乃チ寬恕セラレ婦ハ懲罰ニ付セラルベシ。其寬恕ハ教會トノ親與ニ受ケラル、ニ於テ之ニ表セラルベシ。

第三十六條 所在不分明ナル軍人ノ妻ニシテ他人ニ配偶シタル者ハ不在ナル夫ノ歸還スルヲ待タザル者ト同罪ニ處セラル。然レモ此場合ニ於テハ其死ヲ推測スルハ最モ信據スベキコトナルニ依リ少ク寛恕シテ可ナリ。

第三十七條 他人ノ妻ノ取リ去ラレタル後結婚シタル者ハ其ノ前妻ノ爲メニハ姦淫ヲ以テ罪セラレ後妻ノ爲メニハ罪セラレザルベシ。

第三十八條 父ノ許諾ヲ得ズシテ嫁スル處女ハ淫ヲ行フナリ。然レモ父母ト議熟スルニ於テハ此件醫スルヲ得ベシト思惟ス。但シ此ノ如キ處女ハ直ニ領聖スルヲ許サレズ三年間之ヲ禁ゼラル。

第三十九條 姦夫ト同居スルノ婦ハ其ノ同居スル間姦婦タリ。

第四十條 己ノ主人ノ意ニ背キテ男子ニ其身ヲ委テタル婦ハ淫ヲ行フナリ。若シ其後許ヲ得テ結婚スルルキハ正當ノ配偶ヲ爲シタル者ト見做サル。故ニ前者ハ邪淫ニシテ後者ハ婚配ナリ。蓋シ他人ノ權下ニ屬スル者ノ契約ハ決シテ有効ナラサレバナリ。

第四十一條 寡婦ニシテ自身ノ上ニ權力ヲ有スル者若シ其同居ヲ離スル人アル

ニ非サレバ配耦スルモ罪ナシ。蓋シ使徒曰ク夫若シ死セバ自由ニシテ其ノ欲スル所ノ者ニ嫁スベシ。惟宜ク主ニ在ルベキノミ。(羅馬七章二節林多前書七章卅九)

第四十二條 有權者ノ意ニ背キテ爲シタル婚配ハ邪淫ナリ。父若クハ主人ノ存生中配耦スル者若シ其上ニ權ヲ有スル者其同居ニ承諾ヲ表スルニ非ザレバ罪ナキニ非ズ。蓋シ之ヲ諾スレバ其結婚ハ有効ト爲ルナリ。

第四十三條 隣ニ致死ノ毆打ヲ加ヘタル者ハ其ノ最初ニ毆打シタルト又ハ復讐シタルトニ拘ハラズ兇殺者ナリ。

第四十四條 女輔祭ニシテ異教人ト淫セシ者ハ祈禱ノ親與ニ受ケラル、ヲ得ベシト雖トモ聖機密ノ領聖ハ若シ清潔ノ生活ヲ爲スニ於テハ七年目ニ許サルベシ。異教人若シ教ヲ奉シタル後再ビ瀆聖罪ヲ犯スニ於テハ之ニ由リテ己ノ嘔吐ニ立歸ルナリ。故ニ我等ハ女輔祭ノ身躰ハ成聖セラレタル者トシテ既ニ内慾的使用ニ供スルヲ許サズ。

第四十五條 凡ソ「ハリスティアニン」ノ名ヲ受ケテハリストスヲ辱カシムル者ニハ其名稱ヨリシテ如何ナル益ヲモ來タサズ。

第四十六條 暫時本妻ニ棄テ去ラレタル者ト識ラズシテ配偶シ後チ前妻ノ還歸シタル故ニ因リテ離別セラレタル婦ハ斯カル配偶ニ依リテ淫ヲ行ヘリト雖モ識ラザルニ依レリ故ニ其ノ婚配スルヲ妨ケス然レモ若シ此ノ如クニシテ居ラバ更ニ善シトス。

第四十七條 「エンクライト」「サッコホール」「アボタクイト」等ハ「ノワト」黨ト同一ノ定罪ニ處ス蓋シ彼等ノ或者ニ關シテハ假令一樣ナラズト雖モ成規ヲ發布セラレモ他ノ者ニ關シテハ規定セラレ、所ナキモ我等ハ同一ノ理由ニ因リテ是ノ如キ罪ヲ再洗ス而シテ汝等ニ在テハ「ロマ」人ニ於ケルガ如ク或趣意ニ由リテ此ノ再洗ノ風習採用セラレズト雖モ我等ノ理由ハ其効力ヲ有スベシ何トナレバ彼等ノ異端ハ夫ノ婚配ヲ厭ヒ酒ヲ嫌ヒ神ノ造物ヲ稱シテ汚穢ト爲ス「マルキオン」徒ノ異端ノ分岐ナレバナリ故ニ彼等ニシテ若シ我等ノ洗禮ヲ受ケサレバ我等之ヲ教會ニ受ケサルベシ蓋シ彼等ハ「マルキオン」及其他ノ異端者ト等シク神ヲ以テ惡ノ造者ト爲スニ由リ父及子及聖神ニ由リテ領洗シタリト云フベカラズ故ニ若シ之ヲ可トセバ宜ク最多數ノ主教相會シテ成規ヲ編成シ以テ一ハ實行者

ヲシテ安全ノ思ヲ爲サシメ一ハ此ノ如キ輩ニ就テノ問ニ答フル者ヲシテ答辨ノ確乎タル理由ヲ有セシムベシ。

第四十八條 夫ニ離別セラレタル婦ハ予ノ意見ニ依ルニ須ク寡居スベシ蓋シ主ハ姦淫ノ故ナラデ其妻ヲ出ス者ハ之ニ姦淫ヲ爲サシムルナリ(馬太五章三十二節)ト云フニ當リ之ヲ姦婦ト稱シ以テ之ニ他人ト同居スルコトヲ禁ジタルナリ蓋シ夫ハ姦淫ノ因ヲ作りタル者トシテ罪セラル、ニ婦ハ他人ト配偶シタルガ爲メ主ニ姦婦ト稱セラル、ニ拘ハラズ爭テカ罪ナシト云フヲ得ベキ。

第四十九條 強迫ニ由リテ身ヲ汚サル、ハ之ヲ罪トスベカラズ故ニ家婢ニシテ若シ其主人ニ強姦セラル、モ無罪ナリトス。

第五十條 三婚ニ關シテハ法律ナシ故ニ三婚ハ法律ニ依リテ成リ立タス此ノ如キ所爲ハ我等之ヲ教會ニ於ケル不淨事件ト見做ス然レモ淫亂ノ所爲ニ勝サル者トシテ之ヲ公然タル定罪ニ處セズ。

右同人ニ與フル第三規程書

第五十一條 教衆ノ職ニ在ル者ニ就テハ規則ハ區別セスシテ規定ス。即チ其ノ神品ノ位ニ在ルト或ハ神品ノ按手ヲ受ケズシテ務メヲ爲ストニ拘ハラズ罪ヲ犯シタル者ニハ一次ノ罰ヲ科シ其職ヲ黜クベキヲ命ス。

第五十二條 途中ニテ生兒ヲ粗略ニシタル者若シ之ヲ守護スルノ便宜ヲ有シナガラ或ハ己ノ罪ヲ蔽ハントシ或ハ全ク殘忍無情ノ意思ニ由リテ粗略ニシタルキハ兇殺者トシテ審判セラルベシ。若シ又守護スル能ハスシテ生兒ハ其場所ノ空漠タルニ依リ或ハ需要物ノ不足ナルニ依リテ死スルキハ其母ハ寬恕スルニ足ル。

第五十三條 寡居ノ婢若シ誘拐ノ口實ヲ以テ再婚ヲ諾スルモ其罪蓋シ重カラズ故ニ決シテ之ガ爲メ彼ヲ罪スベカラズ蓋シ外見ヲ裁判スヘキニ非スシテ其意思ヲ裁斷スベケレバナリ但シ彼ガ再婚ノ懲罰ニ處セラルベキハ勿論ナリ。

第五十四條 誤殺ニ就テハ記臆スル如ク會テ予ノ力ニ應ジテ敬虔ナル汝ニ書セ

リ之ヨリ更ニ言フコト能ハズ事情ノ格別ナルニ由リテ其罰ヲ永續スルト或ハ輕減スルトハ汝ノ酌量スル所タルベシ。

第五十五條 強盜ヲ互ニ殺ツ者ハ若シ教會ノ職ヲ奉スル者ニ非ザレバ聖機密ヲ受クルコトヲ禁セラルベシ若シ教衆ノ者ナレバ其位ヲ除黜セラルベシ。蓋シ凡ソ劔ヲ取ル者ハ劔ニテ亡ブト云ハレタリ(馬太廿六章五十二)

第五十六條 故意ニ人ヲ殺シタル者ニシテ後ニ至リ悔改スル者ハ二十年間聖機密ヲ領セサルヘシ此ノ二十年ハ之ニ左ノ如ク割り定メラル即チ四年間祈禱室ノ入口ノ外ニ立チ己ノ罪ヲ告解シツ、堂ニ入ルノ信者ニ己ノ爲メ祈禱センコトヲ請フテ涕泣スヘシ四年ノ後ニハ聖書聽聞者ノ中ニ加ヘラレ五年ノ間之ト僭ニ出ツヘシ次ニ七年間伏拜者ト共ニ祈リ且ツ出ツヘシ次ニ四年間唯信者ト共ニ立ツノミニシテ領聖スルヲ得サルベシ此期限經過シタル後聖機密ヲ領スベシ。

第五十七條 誤殺者ハ十年間領聖セサルベシ此ノ十年ノ割り定メハ左ノ如クナルヘシ即チ二年間涕泣シ三年間聽聞者ノ中ニ加ハリ四年間伏拜者ト共ニシ

年間唯信者ト共ニ立ツノミニシテ其後聖體ヲ受クヘシ
 第五十八條 姦淫者ハ十五年間聖機密ヲ領セサルヘシ此ノ十五年ノ割リ定メハ
 左ノ如シ四年間涕泣者ト爲リ五年間聖書聽聞者ト爲リ四年間伏拜者ト爲リ二
 年間領聖セスシテ信者ト偕ニ立ツヘシ
 第五十九條 行淫者ハ七年間聖機密ヲ領セサルヘシ即チ二年間涕泣シ二年間聽
 聞シ二年間伏拜シ一年間信者ト共ニ立ツノミニシテ第八年目ニ領聖スルヲ許
 サルベシ

第六十條 童貞ヲ守ルヲ約シ而シテ其約ニ背キタル者ハ其品行ニ應ジ適宜ノ割
 定メヲ以テ姦淫ノ罪ノ爲ニ定メラレタル割ノ時期ヲ遂行スヘシ修道ノ生活ヲ
 爲スヘキ誓ヲ立テ、之ニ背キタル者モ亦同ジ

第六十一條 竊盜セシ者若シ自ラ痛悔シテ己ヲ罪セバ一年間唯聖機密ヨリノミ
 斥ソケラルベシ若シ告發セラル、或ハ二年間タルヘシ此時期ハ彼レノ爲ニ伏
 拜及信者ト共ニ立ツコトニ割リ當テラルヘク而シテ後領聖ヲ許サルベシ

第六十二條 男性ニ對シ汚行ヲ加ヘタル者ニハ悔改ノ時間ヲ姦淫ヲ犯シタル者

ノ時間ニ準ジテ定ムベシ

第六十三條 獸畜ニ對シ汚行ヲ表シタル者モ痛悔セバ同時禁遏セラルヘシ

第六十四條 背誓者ハ十年間領聖セサルヘシ即チ二年間涕泣者ノ間ニ三年間聖

書聽聞者ノ間ニ四年間伏拜者ノ間ニ居リ一年間信者ト共ニ立チ而シテ後領聖

スルヲ得ベシ

第六十五條 行妖若クハ毒殺ノ痛悔ヲ爲シタル者ハ其ノ自ラ各罪ヲ自白シタル

ニ應スルノ割當テヲ以テ兇行者ノ爲ニ定メラレタルノ時期ヲ悔改ノ中ニ送ル

ベシ

第六十六條 竊取ノ爲メ墓ヲ發キタル者ハ十年間聖機密ヲ領セサルベシ即チ二

年涕泣シ三年聽聞シ四年伏拜シ一年信者ト共ニ立チ而シテ後受ケラルベシ

第六十七條 兄弟及姉妹ノ朋淫ハ兇行者ノ爲ニ定メラレタル悔改ノ時期ヲ要ス

第六十八條 婚配ヲ禁セラル、血屬ニ屬スル者ノ配偶若シ其事人間ノ罪トシテ

行ハレタルモノト認メラル、或ハ姦淫者ノ懲罰ニ處ス

第六十九條 誦經者若シ婚配ニ先ダテ其ノ許嫁セシ女ト交合スルハ一年間其

務メヲ罷メラレタル後誦經者ニ受ケラルベシ然レモ上級ニハ登庸セラル、コトナカルベシ若シ許嫁ナクシテ密カニ交合スルキハ其務ヲ停止スベシ副輔祭モ亦之ニ同シ。

第七十條 輔祭ニシテ口ニテ汚カレタル事ヲ行ヒ而シテ其罪更ニ深ク進マズト告解スル者ハ聖務執行ヲ禁止サルベシト雖モ輔祭ト共ニ聖機密ヲ領スルヲ得可シ司祭モ亦之ニ同シ若シ之ヨリ深ク罪ヲ犯シテ發見セラレタルキハ其ノ如何ナル位ニ在ルニ拘ハラス除黜セララルベシ。

第七十一條 前記ノ罪ノ孰レカニ干係シ告解セスシテ發見セラレタル者ハ惡ヲ行ヒタル者ノ懲罰ニ服スルト同様ノ時期間懲罰ニ處セララルベシ。

第七十二條 妖術者若クハ其他類似ノ者ニ己ヲ委テタル者ハ兇行者ト同様ノ時期間懲罰ニ處セララルベシ。

第七十三條 ハリストスニ背キ救贖ノ機密ニ對シテ犯罪者ト爲リタル者ハ畢生間涕泣者ノ中ニ加ハリテ告解セサルベカラス而シテ臨終ノ際ニハ神ノ仁慈ヲ信スルニ依リテ聖體ヲ領スルヲ許サルベシ。

第七十四條 凡ソ前記ノ罪ニ陥リタル者ニ告解シタル後悔改ニ熱中スルキハ神ノ仁慈ヨリシテ釋キ且ツ繁クノ權ヲ受ケタル者罪人ノ告解ノ極メテ熱切ナルヲ見テ憐愍ヲ垂レ懲罰ヲ減縮スルモ定罪セラレサルベシ何トナレハ聖書ノ記事ハ我等ニ示スニ至大ノ勞苦ヲ以テ告解スル者ガ神ノ慈憐ヲ受クルコト最モ速カナルヲ以テスレバナリ。

第七十五條 父方又ハ母方ノ姉妹ト通ジテ其身ヲ汚シタル者ハ其ノ背法ニシテ且ツ厭フヘキ所爲ヲ斷タサル間ハ祈禱ノ室ニ入ルヲ許サス宜ク其罪ノ恐ルヘキヲ悟リ三年間祈禱室ノ入口ニ立テ涕泣シ祈禱スルガ爲メ入ル者ニ各憐愍ヲ垂レテ己ノ爲メ主ニ熱切ノ祈禱ヲ獻センコトヲ請フベシ其後他ノ三年間只ハ聖書聽聞ニノミ與カリ聖書及訓誨ヲ聞キタル後聖堂ヨリ出テ、祈禱ニ與カルヲ得サルベシ其後若シ涕泣シテ之ヲ哀願シ心ヲ痛メ深ク謙遜シテ主ニ伏拜セシコトヲ請ハハ他ノ三年間之ヲシテ伏拜セシムベシ此クノ如クニシテ悔改ニ適應スルノ果ヲ表示セバ第十年目ニ至リ信者ト共ニ祈禱ニ與カルヲ得ベキモ領聖スルヲ得サルベシ二年ノ間祈禱ノ時信者ト共ニ立チ而シテ遂ニ聖體ヲ領

スルヲ得可シ。

第七十六條 己ノ媳ト通ジタル者ニ對シテモ亦此規定ヲ適用ス。

第七十七條 合法的ニ配偶シタルノ妻ヲ棄テ、他ノ婦ヲ娶リタル者ハ主ノ言ニ

依ルニ(馬太九)姦淫ノ罪ニ服ス吾等ノ諸父ノ規則ニテ此ノ如キ者ハ一年間涕泣

シ二年間聽聞シ三年間伏拜シ第七年目ニ信者ト共ニ立チ而シテ若シ流涕痛悔
セバ領聖スルヲ得可キ事ト定メラレタリ。

第七十八條 二人ノ姉妹ヲ娶リタル者ニ對シテモ其ノ時各相異ナルニ拘ハラヌ
同ク此規定ヲ遵守スベシ。

第七十九條 己ノ繼母ニ對シテ汚行ヲ加ヘタル者ハ己ノ姉妹ニ對シテ汚行ヲ加
ヘタル者ト同一ノ定規ニ服ス。

第八十條 多妻ヲ娶ルコトハ諸父之ヲ獸行ニシテ全ク人類ニ有ルヘカラサルモ
ノトシテ黙々ニ付セリ我等ハ此罪ヲ以テ邪淫ヨリ重キモノト見做ス故ニ此ノ
如キ者ハ定規ニ循テ懲罰ニ服スルコト當然ナルベシ即チ一年間涕泣シ三年間
伏拜シ而シテ後受ケラル、ヲ得可シ。

第八十一條 蠻民ノ來襲シタル時異教ノ宣誓ヲ爲シ妖術ヲ以テ偶像ニ獻シタル

ノ汚サレタル食物ヲ食シテ神ニ於ケルノ信仰ニ對シテ罪ヲ犯シタル者多キニ
依リ此ノ如キ者ハ既ニ諸父ノ發シタル法律及規則ニ據リテ處分スヘシ又慘苦

ニテ衰弱甚シク苦難ヲ忍ビ遂クル能ハスシテハリストスニ背クニ至リタル者
ハ三年間教會ニ受ケラレザルベシ其期限經過セシ後二年間聖書ヲ聽聞シ三年

間伏拜シ而シテ後親與ニ受ケラル、ヲ得可シ重大ノ故ナクシテ神ニ於ケルノ
信仰ヲ棄テ惡鬼ノ食臺ニ觸レ異教風ノ宣誓ヲ爲シタル者ハ三年間教會ヨリ逐

斥セラレ二年間聖書ヲ聽聞シ三年間俯伏シテ祈禱シ他ノ三年間ハ祈禱ノ時信
者ト共ニ立チ而シテ後聖機密ヲ領スルニ與カルヲ得ベシ。

第八十二條 若シ誓ニ背キタル者強迫及已ムヲ得サルニ出テ、之ニ背キタルニ
於テハ稍輕キ罰ニ服シ六年ノ後全ク受クルヲ得ベシ已ムヲ得サルニ非スシテ

己ノ信仰ヲ棄テタル者ハ二年間涕泣シ二年間聽聞シ第五年ニ至リテ伏拜者ト
共ニ祈リ更ニ二年間領聖セズニ祈禱ニ與カルヘシ此ノ如クニシテ相當ノ悔改
ヲ表セバ遂ニ主ノ體ヲ領スルヲ得ベシ。

第八十三條 妖術ヲ行使シ異教ノ風習ニ從フ者若クハ潔淨ノ爲メ或人々ヲ己ノ家ニ入ル、者ハ六年ノ定規ニ服スベシ即チ一年間涕泣シ一年間聽聞シ三年間伏拜シ一年間信者ト共ニ立チ而シテ後受ケラルベシ。

第八十四條 予ガ凡ソ此等ノ事ヲ書スルハ悔改ノ結果ヲ驗センガ爲メナリ蓋シ我等ハ獨リ時間ニ由リテノミ之ヲ審按セス乃チ悔改ノ情狀ヲ觀察ス若シ執拗ニシテ己ノ舊慣ヲ固執シ主ニ事フルヨリ寧ロ肉身ノ快樂ニ役セント欲シ福音ニ循フノ生活ヲ爲サ、ルハ我等ハ之ト毫モ與カル所ナシ蓋シ我等ハ不順悖戾ノ民ノ中ニ於テ逃レテ爾ノ生命ヲ救ヘ(創世記十)ト云フヲ聞キタレバナリ。

第八十五條 サレバ我等ハ自ラ此クノ如キ輩ト滅亡スルカ如キ事ナク乃チ重キ審判ヲ畏レ主ノ報復ノ恐ルヘキ日ヲ目前ニ見テ他人ノ罪ト共ニ滅亡スルヲ望マサルベシ蓋シ主ノ恐ルベキ審定モ我等ヲシテ悟ル所アラシメス我等ノ不法ノ爲メ主ガ我等ヲ棄テ、蠻民ノ手ニ付シ人民敵ノ捕虜ト爲リテ離散スルニ至リタル如キ(蓋シ)ハリストスノ名ヲ戴ク者此ノ如キ事ニ遭遇セリ(大)打擊モ我等ヲシテ猛省スル所アラシメス神ノ怒之ガ爲メ我等ニ臨メル所以ヲ了解認セ

サルニ於テハ我等亦彼等ト何ノ與カル所アラシヤ乃チ我等ハ晝トナク夜トナク公然及私カニ彼等ニ眞理ヲ證明セザルベカラス然レモ自ラ彼等ノ不法ニ誘ハル、カ如キコトナク就中彼等ヲ獲之ヲ奸惡者ノ手ヨリ救脱センコトヲ祈ルベシ若シ之ヲ爲シ得ベカラスバ少クトモ己ノ靈魂ヲ永遠ノ定罪ヨリ救フコトヲ努ムベシ。

右同人ニ與フル他ノ規程書中ノ拔

第八十六條 傑出セル「エンクライト」節制者等ニハ我等モ亦何故ニ悉クノモノヲ食セサル乎トノ重要ナル質問ニ對シテ猶ホ我等ノ分泌物ヲ厭フガ如シト答ヘン蓋シ本質ヲ以テスレバ我等ニ取リテハ草モ猶ホ肉ノゴトシ而カモ其益ヲ論スルニ於テハ草ノ中ニ有害ノモノト滋養ノモノトヲ區別スル如ク肉ノ中ニモ有害ノモノ有益ノモノトヲ區別スルナリ蓋シ失鳩答モ草ナレバ鷓ノ肉モ亦是レ肉ナリ然レモ健全ノ知識ヲ具フル者ハ何人タリトモ荷モ極メテ已ムベカラザルノ必要アルニ非ザル以上ハ菲沃^{ヒウス}ヲ食ハズ犬ノ肉ニ觸レサルベシ故ニ食フ者ハ惡ヲ行ヒシニ非ズ

タルスノ主教デイオドルニ與フル書

緒言 我等ニ達セシ一書アリデイオドルノ署名アルモ他ハ皆デイオドルヨリ寧ロ他ノ人ニ適當セリ蓋シ予按スルニ狡獪ナル者汝ノ面ヲ藉リテ聽者ノ前ニ信ヲ博セント欲セシナラン彼ハ或人ヨリ死セシ妻ノ姉妹ヲ娶リテ可ナリヤトノ質問ヲ受ケ此質問ヲ懼レズ乃チ冷然トシテ其聞ク所ノコトヲ容レ質問者ニ對シ頗ル勇敢強硬的ニ其耻ツ可キ希望ヲ補助シタリ此書若シ我ニ在ラバ予之ヲ汝ニ送リ而シテ汝ハ己ト真理トヲ充分廻護スルヲ得タルナラン然ルニ之ヲ示セシ者我ヨリ取り戻シテ曾テ斯卡ル婚配ヲ禁ジタル我ニ對シ恰モ勝利ヲ得タル徵章ノ如ク到ル處ニ之ヲ携ヘ往キテ免狀ヲ得タリト揚言スルニ因リ今汝ニ之ヲ書シ二重ノ手ヲ以テ夫ノ偽造書ニ反抗シ之ヲシテ全ク其効力ヲ失ハシメ容易ニ之ヲ讀ムノ徒ヲ害スルコトヲ得ザラシメントス

第八十七條 サレバ此ニ陳述セントスル首要ノ件ハ我等ノ遵守シツ、アル法律ノ効力ヲ有スル習慣ナリトス何トナレバ此規定タル諸聖人ヨリ我等ニ傳ヘラ

レタレバナリ而シテ其習慣タルヤ若シ不淨ノ慾ニ制セラレテ二人ノ姉妹ト背
 法ノ配偶ヲ爲ストキハ其配偶タル婚配トモ見做サレズ此ノ如キ輩ハ互ニ相別
 ルトニ非サル以上ハ教會ノ集合ニモ受クベカラズト云フ是也故ニ若シ外ニ言
 フ能ハストセバ此習慣ヲ以テナリトモ弊害ヲ防クニ足ルベシ然ルニ書セシ者
 ハ不正ノ論理ヲ以テ品行上ニ斯カル弊害ヲ入レント試ミタルニ依リ假令最モ
 明確ナル事件ニ於テ僻見ハ考量ヨリ強キヲ例トスルモ我等亦考量ヲ援ヲ藉ラ
 ザル可ラズ蓋シ彼レ曰ク利未記ニ云フ爾妻ノ尙生ケル時其姉妹ヲ娶リ彼レノ
 前ニテ其体ヲ露ハシ之ヲシテ妬婦タラシムル勿レト(利未十八節)彼曰ク是ニ因テ
 視レバ妻ノ死後ニ於テ娶ルコトノ不可ナキハ明カナリト予ハ之ニ對シテ先ツ
 律法ニ言フ所ハ法下ニ在ルモノニ言フノミ(羅馬九章)ト云ハシ蓋シ然ラザレバ我
 等ハ割禮ヲモ安息日ヲモ又或食物ヲ避クルヨヲモ守ラサル可ラサレバナリ蓋
 シ我等苟モ己レノ情慾ニ適合スルモノアルヲ見バ己レヲ律法ノ奴隸ノ範ニ服
 シ而シテ律法ノ命ニシテ難シト見ユル所ノモノアレバハリストスニ在ル自由
 ノ下ニ投セントスルガ如キ豈可ナランヤ我等聖書ニ妻ノ亡后其姉妹ヲ娶ルヲ

許スノコトアリヤトノ質問ヲ受ケ答ヘテ否ト云ヘリ是レ實ニ我等モ取リテ安
 全ニシテ且ツ眞理ニ適セリ然ルニ理アルニ似タルノ論斷ヲ以テ明言セラレザ
 ルノ事ニ就キ説ヲ立ツルハ是レ即チ自ラ法ヲ定ムルモノニシテ律法ノ言ヲ引
 用スルモノニ在ラザルナリ蓋シ此ノ如ク行ハント欲スル者ハ妻ノ生存中ニ於
 テモ其姉妹ヲ娶ルヲ可トスベシ何トナレバ斯ル詭辨ハ此場合ニモ適用スルヲ
 得ベケレバナリ彼レ曰ハシ娶リテ妬婦タラシムル勿レト録サレタリサレバ嫉
 妬セサルノ婦ヲ娶ルコトハ律法ノ禁セザル所ナリト故ニ情慾ノ辨護者曰ク姉
 妹ハ嫉妬セザルノ性質ヲ有スサレバ二人ノ同居ヲ禁セラレタル原因ニシテ既
 ニ之レ無シトセバ姉妹ヲ娶ルモ何ゾ妨グント我等ハ曰ハシ此事録セラレザル
 モ亦規定セラレタルニ非ズ論斷ヲ以テ推定スルトキハ彼此共ニ可ナリ少ク律
 法ノ言ニ先立ツ所ノ事情ヲ顧ミテ困難ヲ脱スルコト當然ナリトス蓋シ按スル
 ニ立法者ノ意ハ罪ノ悉クノ種類ヲ枚舉セズ乃チ專ライズライリノ出テ來レル
 地エギベト人ト其ノ移住シタル地ハナチヤ人ノ罪ヲ排スルニ在ルモノ、如シ
 蓋シ其記スル所ニ曰ク爾等昔居レル所ノエギベトノ地ニ行ハル、所ノ事ヲ傲

ヒ行フベカラズ我ガ爾等ヲ導キ至レルハナアンノ地ニ行ハル、所ノ事ヲ傲ヒ
 行フベカラズ又其例ニ循ヒ行フベカラズ(利未十)憶フニ此種ノ罪ハ當時異邦人
 ノ品行上ニ許サザル所ナリシナラン故ニ立法者モ之ヲ防グノ必要ナク乃チ教
 ニテ先立タレザル風習ハ此ノ醜惡ヲ排スルニ充分ナリキ然ルニ大事ハ之ヲ禁
 シツ、小事ハ何故黙々ニ付シタルヤト云フニ是レ蓋シ情慾ニ耽ル多クノ者ニ
 ハ生存スル妻ノ姉妹ト同居スル事ニ關シテ列祖ノ先例之ニ害ヲ爲サントスル
 ノ恐アリタルニ依ルナリ我等當ニ何ヲ爲スヘキカ明記サレタル所ノ事ヲ言フ
 ベキカ將又黙々ニ付セラレタル所ノ意ヲ探究ス可キカ蓋シ此律法ニ於テ父子
 共ニ一人ノ妾ニ通ス可ガラストノコトヲ明記セラレサルモ預言者ハ之ヲ極メ
 テ重キ定罪ニ處ス蓋シ曰ク父子共ニ一人ノ婢ニ通セリト(亞摩七)此他ニ魔鬼ノ
 徒ノ發明シタル所ニシテ聖書ニ言ハザル所ノ不淨ナル情慾ノ種類幾何ゾ神ノ
 書ハ醜惡ノ名稱ヲ列舉シテ己レノ神聖ナル要點ヲ破ラントフ好マス概稱ヲ
 以テ悉クノ汚穢ヲ示セシコト使徒パウロノ言フガ如シ曰ク聖徒タルニ適フガ
 如ク姦淫ト凡ソノ汚穢ハ之ヲ爾ノ中ニ言フ勿レト(以弗四)彼ハ汚穢ノ語中ニ男

女ノ行爲言フニ堪ヘサル名稱ヲ包含シタルナリ此ノ如ク黙々ニ付シタリトモ
 情慾家ニ之ヲ行フヲ許シタルニ非ズ且ツ予ハ明言ス立法者此不法ノ種類ヲ默
 ヲニ付セス即チ之ヲ嚴禁シタリト蓋シ爾ハ凡ソ爾ガ骨肉ノ親戚ニ近ツキテ其
 体ヲ露ハス勿レ(利未十)ト云フノ語ニハ此種ノ血屬ヲモ含ムナリ蓋シ夫ニ取リ
 テ其妻即チ己レノ体ヨリ近キ者アラシヤ蓋シ彼等ハ既ニ二人ニ非スシテ一体
 ナレバナリ此ノ如ク妻ノ故ニ由リ其姉妹ハ轉シテ夫ノ血屬ト爲ルナリサレバ
 彼レハ己ノ母若クハ己ノ女ヲ娶ルコト能ハサルト同一理ニテ己レノ妻ノ母若
 クハ其女ヲ娶ル能ハザル如ク己ノ妻ノ姉妹ヲ娶ル能ハズ何トナレバ彼レ己ノ
 姉妹ヲ娶ルコト能ハザレバナリ之ニ反シテ妻タル者モ夫ノ親戚ト配偶スル能
 ハズ何トナレバ血屬ノ權利ハ兩者共ニ相均シケレバナリ凡ソ婚姻ニ付テ勸告
 ヲ請フモノアレバ予ハ之ニ對シテ斯世ノ形狀逝キ時茲ニ竭レバ妻アル者モ妻
 無キ者ノ如クナラントノコトヲ証ス(哥林多前書七)若シ繁殖蔓延セシメヨ(創一)
十トノ言ヲ擧ケテ余ヲ難セントスルモノアラバ予ハ其立法ノ時代ヲ區別セ
 ザルヲ笑フ再婚ハ邪淫ヲ防クノ療法ニシテ縱慾ノ發端タルモノニ非ズ若シ自

ラ禁スル能ハズバ嫁娶スルモ可ナリ(書林多前七章九)ト云ハレタリ。然レモ嫁娶スレバトテ慾ヲ縱ニスベカラズ。夫ノ不虔ノ情慾ヲ以テ靈魂ヲ汚シツ、古ヨリ血属ノ名稱ヲ區別シタル人性ヲ顧ミサル者ハ此ノ如キ二次ノ結婚ヨリ生シタル者ヲ稱スルニ如何ナル血属ノ名稱ヲ以テセントスルカ骨肉ノ兄弟ト名ツケントスルガ將タ從兄弟ト稱セントスルカ蓋シ血属ノ混シタルニ依リテ孰レノ名稱モ之ニ適當スヘケレバナリ。人ヨリ子女ノ叔母ヲシテ其繼母タラシメ死セシ母ニ代リテ彼等ヲ寵愛スヘキ人ヲシテ限リナキ嫉妬心ヲ以テ之ニ敵セシムル勿レ。蓋シ繼母ノ嫉妬ニ限リテ死后ニマデ其嫉妬ヲ及ボスモノタリ否他ノ讎敵タル者ハ死セシ者ト和スルコトアルモ繼母ハ寧ロ死スルト共ニ嫉妬シ始ム。前述スル所ノ要領ハ凡ソ法ニ循テ結婚セント欲スル者アラバ全世界之ニ開始セラルル而其望ニシテ若シ慾ニ制セラル、ニ於テハ之ニ結婚ヲ禁シ己レノ器ヲ貞潔ニ守リ之ヲ慾ニ任カス可ラザルヲ知ラシムベシト云フニ在リ(結婚前書四章四五)予ハ更ニ多ク言ハント欲スルモ此書ノ程度ハ余ヲシテ之ヲ言ハシメス。予ハ此勸告ガ情慾ヲ制スルニ非ズシバ此弊風ノ我方地方ニ行ハレズシテ其ノ行バル、地方ニノ

ミ止マランコトヲ希望ス。

三同人人同共...

右同人ノ司祭グリゴリイニ與フル書

第八十八條 予ハ頗ル容忍シテ汝ノ書ヲ閱シ而シテ汝ガ事實ヲ以テ容易簡短ニ
 余ノ前ニ辯明スルヲ得ベキニ拘ハラズ其罪セラレタルコトヲ固執セント決心
 シ到底醫ス可ラサルノコトヲ醫治セント試ムルニ驚ケリグリゴリイヨ我等始
 メテ獨リ男女ノ共ニ同住ス可ラサルノ法ヲ立テタルニ非ズ汝須ク我等ノ諸聖
 父ガニケヤ公會ニ於テ家内ト同居ノ婦ヲ置クコトヲ公然嚴禁シタルノ規則ヲ
 一讀セヨ無妻ノ價值ハ女性ト相交ラザルニアリサレバ人若シ名目上己レヲ守
 貞者ト稱スルモ事實ニ於テ婦人ト同居スル者ト同様ノ事ヲ行ハハ是レ自ラ名
 目ニ由テ貞節ノ價值ヲ得ントスルモ情慾ノ非行ヲ脱セサルヲ表スルモノナリ
 況ンヤ汝ハ汝ノ明言スル如ク肉身ノ諸慾ヲ蟬脱シタルニ於テハ殊ニ予ノ要求
 ヲ遂行スルコト當然ナリ蓋シ予ハ七十歳ノ男ガ猥褻的ニ婦人ト同居スベシト
 思惟セズ余ガ制定シタル所ノ者ヲ制定シタル所以ハ敢テ邪マナル事ノ有リタ
 ル爲メニ非ズ乃チ使徒ヨリシテ蹟礙或ハ誘惑ヲ兄弟ノ前ニ設クベカラザルコ

ト(羅馬十四節)ヲ教ヘラレタルガ故ナリ潔白ノ行爲ト雖モ他人ノ爲ニ犯罪ノ發端
 ト爲ルコトアルハ我等ノ知ル所ナリ是故ニ我等ハ諸聖父ノ規定ニ循テ汝ニ彼
 ノ婦ヨリ避クベキヲ命セリ汝ハ何故ニホレエヒススコブヲ罪シテ宿怨アリト
 云フヤ汝ハ亦何故ニ予ニ愁訴シテ讒言ヲ容ル、ニ其耳ヲ開クト云ヒ而シテ婦人
 トノ交際ヲ絶タザルノ自身ヲ罪セザルハ何ゾヤサレバ汝ハ須ク彼ヲ己レノ家
 ヨリ遠ザケテ修道院ニ入レ彼ヲシテ童貞女ト共ニ居ラシメ汝ハ男性ノ從者ヲ
 有シ神ノ名汝ニ由リテ誘瀆セラレザルヲ致ス可シ汝ノ之ヲ行フ以上ハ汝カ書
 東中ニ述フル數千言ノ辨解モ汝ニ一モ益スル所ナク聖務ヲ禁止セラレタル者
 トシテ死シ其禁ノ爲メ主ニ答ヲ爲サン若シ自ラ改メスシテ聖務ニ觸レントセ
 バ衆民ノ前ニ「アナフエマ」トセラレ汝ヲ受クル者ハ全教會ヨリ斥ゾケラルベシ

右同人ノ「ホレエビスコプ」等ニ與フル書

第八十九條 諸父ノ規則廢棄セラレテ總テノ嚴格ガ教會ヨリ一掃セラレタルハ余ノ甚ク痛嘆スル所ナリ。此ノ冷淡此儘ニ漸々進ミ行クニ於テハ教會ノ事務全ク紊亂センコトヲ懼ル。古ヨリ神ノ教會ニ行ハレタル慣例ニ依ルニ教會ノ役者ハ極メテ嚴格ニ試験セラレ其ノ品行亦悉ク綿密ニ探察セラレ彼等ハ饒舌ニ非ザルカ飲酒家ニ非サルカ爭論ノ僻ナキカ能ク兒童ヲ薰陶シテ之レナケレバ何人モ主ヲ見ルコトヲ得サルノ聖潔(希伯來十)ヲ行フヲ得ルヤヲ試ミラレタル後登庸セラレタリキ。司祭并ニ之ト共ニ居ルノ輔祭ハ此試験ヲ行ヒ其趣ヲ「ホレエビスコプ」ニ上陳シ而シテ彼等ハ誠實ニ證明スル者ヨリ公評ヲ得テ主教ニ具申シ此ノ如クニシテ神品職ニ役者ヲ加ヘタリ。然ルニ今ヤ先ツ我等ヲ排シ我等ニ報知スルコトスラ好マズシテ其權ヲ悉ク自身ニ集中セリ。次ニ此事ヲ等閑ニ付シ去リ司祭及輔祭ニ其ノ自ラ欲スル所ノ者ヲ品行ノ經驗ヲモ爲サズ縁親又ハ其他ノ交誼ニ基因スル私情ニヨリテ不適任ノ者ヲ教會ニ登庸スルヲ許セリ。此

ニ因リテ教會ノ多クノ役者ハ各邑ニ加ヘラル、モ一人トシテ高壇高壇ニ務ムルニ堪フル者ナク恰モ選舉ニ際シテ其人ヲ得サリシヲ自ラ証スルモノ、如シ此事タル途ニ醫治スベカラザル情態ニ陥リ就中現今兵士ニ徵集セラレントスルヲ恐ル、ヨリ教會ノ務メニ任命セラル、者甚ク多キニ因リ予ハ已ムヲ得ズ諸父ノ規則ヲ回復スルニ着手セリ乃チ汝等ニ書シ汝等ヲシテ各邑ノ教會役者ノ名簿ニ何人ガ何人ニ由リテ任命セラレタルヤ其品行如何ナルヤヲ明記シテ我ニ送ラシメントス。汝等モ亦此名簿ヲ自ラ所持シテ我が所有ノ名簿ニ汝等ノ名簿ヲ照合シ何人タリトモ其ノ自ラ欲スル時自ラ己レヲ記入スルヲ得ザラシム可シ。サレバ若シ「インデクシヨ」インデクシヨノ第一年後ニ司祭ニ探庸セラレタル輩ハ俗人ノ中ニ貶黜セラルベシ。而シテ汝等ハ再ビ彼等ヲ試験シ若シ其任ニ適セバ汝等ノ決意ニ由リテ之ヲ探庸シ不適任ノ者ハ教會ノ務メヨリ除キテ宜ク教會ヲ清ムベシ。以後適任ノ者ハ試験シテ之ヲ探庸スヘキモ我ニ具陳スルニ非ザレバ之ヲ教衆ニ加フ可カラズ。凡ソ我ノ認可ヲ得ズシテ教會ノ職ニ受ケラレタル者ハ俗人タルベキ事ト知ルベシ。

右同人ガ其管下ノ諸主教ニ與フル書

第九十條 予ガ今書スル事實ハ一般ニ嫌疑及世評ノ種子トナリ而シテ其事ノ卑陋ナルヨリ我ガ靈魂憂愁ヲ以テ充タサレタリ然レモ予ハ其事ヲ以テ信スベカラザル事ト見做スサレバ罪ヲ犯セル者ハ同事件ニ關スル此書ヲ治療方トシテ受クベク罪ナキ者ハ警戒トシテ受クベク又善惡ニ冷淡ナル者一予ハ汝等ノ中ニ之レヲ發見スルヲ望マズ一ハ己レニ對スルノ証トシテ之ヲ受ク可シ余ガ言フ所ハ何ゾ或人説ヲ爲シテ曰ク汝等ノ中其ノ接手スル所ノ者ヨリ金ヲ取リ敬虔ノ名目ヲ以テ其非ヲ掩蔽スル者アリト豈ニ之ヨリ惡シキモノアラシヤ蓋シ惡ヲ行ヒ善ヲ以テ之ヲ掩蔽セントスル者ハ二重ノ罰ニ當レリ即チ一ハ其ノ不善ヲ作スニ依リ一ハ善事ヲ己ガ罪ヲ行フノ幫助トシテ使用スルニ依ルナリ若シ果シテ此事アラバ以後之ヲ行ハズ乃チ須ク矯正スベシ蓋シ金ヲ取ル者ニ對シテハ之ヲ予ヘテ聖神ノ賜ヲ買ハント欲セシ者ニ使徒ノ言ヒシ所ノ事ヲ必ズ言ハサルベカラズ曰ク爾ノ金ハ爾ト借ニ亡ビシ(行實八節二十)蓋シ無知ニ由リテ神ノ

賜ヲ買ハント欲セシ者ハ之ヲ賣ル者ニ比スレバ其罪輕シ何トナレバ此事タル賣買ナレバナリ若シ不費ニテ得タル所ノモノヲ撒ヤナク但ニ買收サレタル者ノ如クニシテ之ヲ賣ルキハ賜ハ汝ヨリ剝奪セラルベシ何トナレバ汝ハ神聖ノ事ト我等ニハリストスノ體血ヲ委テラレタルノ教會トニ密賣ノ所爲ヲ入ルレバナリ此ノ教會ニ決シテ此ノ如キ事アルベカラズ余ハ狡猾ノ那邊ニアルカラ説破セン接手ノ時ニ於テセス其後ニ於テ取ルハ罪ニアラザルガ如ク思惟スル者アリト雖モ取ルハ其ノ孰レノ時ニ於テスルヲ問ハズ同ク是レ取ルナリサレバ請フ汝等此收入否寧ロ此ノ地獄ニ入ルノ途ヲ棄テ此ノ如キ貪婪ヲ以テ己ノ手ヲ汚シツ、己ヲ聖機密ヲ行フニ堪ヘサル者ト爲ス勿レ余ガ最初ニ信セズ後ニ至リ信スルガ如クニシテ威嚇スルニ至レルコトハ請フ恕セヨ若シ此ノ我が書ヲ與ヘタル後此ノ如キ事ヲ行フ者アラバ當處ノ高壇ヨリ退キテ神ノ賜ヲ賣買スルヲ得ヘキ處ヲ尋ヌベシ蓋シ我等ニモ神ノ教會ニモ此ノ如キノ例ナシ(哥林多前書十十六)予ハ之ニ停止セヨト一言ヲ附加セン是レ利慾ヨリ起ルモノタリ而モ利慾ハ萬惡ノ根(提摩太前書六章十)ニシテ偶像崇拜罪ト稱セララル(哥羅西三章五)サレバ些少ノ金ノ